

**令和3年度
授業科目案内
(シラバス)**

大学院美術工芸研究科



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -01	履修コード	5257Z1																																
科目名	専門語学演習（英語）	科目英語名	Seminar of Text Reading (English)																																
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習																																
資格区分		開講学期	通年																																
入学年度		毎週・集中	毎週																																
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	火曜7・8限																																
履修区分	選択	教室	第2教室																																
単位	2	定員	20名																																
担当教員	稲垣健志																																		
授業概要	この授業では、大学院生にふさわしい英語の読解力とプレゼンテーション力の習得を目指します。授業では毎回異なるテーマを設定し、個人もしくはグループワークをおこないます。																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなジャンルの英文を読み、内容を正確に把握する。 ・自分の作品について魅力的かつ説得力のある英語プレゼンテーションをおこなう。 																																		
授業計画	<p>前期</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>2. プレゼンテーション① 人物</td> </tr> <tr> <td>3. プレゼンテーション② アート作品</td> <td>4. 読解① ネット記事を読む</td> </tr> <tr> <td>5. プレゼンテーション③ 時事ネタ</td> <td>6. プレゼンテーション④ 自由設定</td> </tr> <tr> <td>7. 読解② 雑誌記事を読む</td> <td>8. プレゼンテーション⑤ ビッグワード</td> </tr> <tr> <td>9. プレゼンテーション⑥ 自由設定Ⅱ</td> <td>10. 読解③ アート作品資料を読む</td> </tr> <tr> <td>11. 最終プレゼン準備①</td> <td>12. 最終プレゼン準備②</td> </tr> <tr> <td>13. 読解④ 他人の英文を読む</td> <td>14. 卒業制作プレゼン①</td> </tr> <tr> <td>15. 卒業制作プレゼン②</td> <td></td> </tr> </table> <p>後期</p> <table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>2. プレゼンテーション① 人物</td> </tr> <tr> <td>3. 読解① アート作品資料を読む</td> <td>4. 地元プレゼン準備①</td> </tr> <tr> <td>5. 地元プレゼン準備②</td> <td>6. 地元プレゼン</td> </tr> <tr> <td>7. 読解② 雑誌記事を読む</td> <td>8. 好きor嫌いプレゼン準備①</td> </tr> <tr> <td>9. 好きor嫌いプレゼン準備②</td> <td>10. 好きor嫌いプレゼン</td> </tr> <tr> <td>11. 最終プレゼン準備①</td> <td>12. 最終プレゼン準備②</td> </tr> <tr> <td>13. 読解③ 他人の英文を読む</td> <td>14. 修了制作過程プレゼン①</td> </tr> <tr> <td>15. 修了制作過程プレゼン②</td> <td></td> </tr> </table>			1. オリエンテーション	2. プレゼンテーション① 人物	3. プレゼンテーション② アート作品	4. 読解① ネット記事を読む	5. プレゼンテーション③ 時事ネタ	6. プレゼンテーション④ 自由設定	7. 読解② 雑誌記事を読む	8. プレゼンテーション⑤ ビッグワード	9. プレゼンテーション⑥ 自由設定Ⅱ	10. 読解③ アート作品資料を読む	11. 最終プレゼン準備①	12. 最終プレゼン準備②	13. 読解④ 他人の英文を読む	14. 卒業制作プレゼン①	15. 卒業制作プレゼン②		1. オリエンテーション	2. プレゼンテーション① 人物	3. 読解① アート作品資料を読む	4. 地元プレゼン準備①	5. 地元プレゼン準備②	6. 地元プレゼン	7. 読解② 雑誌記事を読む	8. 好きor嫌いプレゼン準備①	9. 好きor嫌いプレゼン準備②	10. 好きor嫌いプレゼン	11. 最終プレゼン準備①	12. 最終プレゼン準備②	13. 読解③ 他人の英文を読む	14. 修了制作過程プレゼン①	15. 修了制作過程プレゼン②	
1. オリエンテーション	2. プレゼンテーション① 人物																																		
3. プレゼンテーション② アート作品	4. 読解① ネット記事を読む																																		
5. プレゼンテーション③ 時事ネタ	6. プレゼンテーション④ 自由設定																																		
7. 読解② 雑誌記事を読む	8. プレゼンテーション⑤ ビッグワード																																		
9. プレゼンテーション⑥ 自由設定Ⅱ	10. 読解③ アート作品資料を読む																																		
11. 最終プレゼン準備①	12. 最終プレゼン準備②																																		
13. 読解④ 他人の英文を読む	14. 卒業制作プレゼン①																																		
15. 卒業制作プレゼン②																																			
1. オリエンテーション	2. プレゼンテーション① 人物																																		
3. 読解① アート作品資料を読む	4. 地元プレゼン準備①																																		
5. 地元プレゼン準備②	6. 地元プレゼン																																		
7. 読解② 雑誌記事を読む	8. 好きor嫌いプレゼン準備①																																		
9. 好きor嫌いプレゼン準備②	10. 好きor嫌いプレゼン																																		
11. 最終プレゼン準備①	12. 最終プレゼン準備②																																		
13. 読解③ 他人の英文を読む	14. 修了制作過程プレゼン①																																		
15. 修了制作過程プレゼン②																																			
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。																																		
教科書	配付プリント																																		
参考書	配付プリント																																		
教材	配付プリント																																		
履修上の注意	特になし。																																		
成績評価	<p>[S] 各英文を正確に理解し、自分の作品やその他の課題において魅力的かつ説得力のあるプレゼンテーションをすることができた。</p> <p>[A] 各英文を正確に理解し、自分の作品について魅力的かつ説得力のあるプレゼンテーションをすることができた。</p> <p>[B] 各英文の内容を理解し、自分の作品をわかりやすくプレゼンテーションすることができた。</p> <p>[C] 各英文の内容を大まかにとらえ、自分の作品についてプレゼンテーションをすることができた。</p>																																		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -02	履修コード	5258Z1
科目名	専門語学演習（仏語）	科目英語名	Seminar of Text Reading (French)
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	前期：金曜7・8限 後期：月曜9・10限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	2	定員	20名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	フランス語原書講読		
到達目標	原書講読を通じて、各自の専門研究に必要な知識・方法を学ぶ。 (1) テキストの内容を正確に読み取る。 (2) 読み取った内容を解釈する。 (3) テキストを批評する。		
授業計画	<p>テキストは以下の5つの中から受講者と相談して決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖書及び聖書に関する文献 2. ギリシャ神話及びギリシャ神話に関する文献 3. ボードレールの散文詩とその成立に関する文献 4. プルースト『失われた時を求めて』と関連論文 5. 受講者の専門領域に関する文献 <p>近年使用したテキストは、 『Dynamo : Un siècle de lumière et de mouvement dans l'art (1913-2013)』 『La découverte de l'art japonaise à travers les expositions universelles de Paris, 1867, 1878, 1889, 1900.』 (『ジャポニズムの時代—19世紀後半の日本とフランス』日仏美術学会、1983) 『Le Cliche-verre : Corot et la gravure diaphane』 (Musee d'art et d'histoire, 1982) 『Brancusi』 (Centre Georges Pompidou, Gallimard, 1995) 『Millet Rousseau Dupré Jongkind』 (Loys Delteil, Da Capo Press, 1969) 『Souvenirs de Madame Vigée Le Brun』 (Nabu Press, 2010) 『Mythologie : grecque et romaine』 (P. Commelin, Garnier, 1960) 『La ronde et autres faits divers』 (J.M.G. Le Clézio, Gallimard, 1982) 『Spleen de Paris / Petits Poèmes en Prose』 (Charles Baudelaire, 1869) 『Salon de 1845 / Salon de 1846』 (Baudelaire, 1845 / 1846) 『A la recherche du temps perdu』 (Marcel Proust, 1913) 『Les cinq paradoxes de la modernité』 (Antoine Compagnon, Seuil, 1990) 『Nôtes d'un peintre』 (Henri Matisse, 1908)</p>		
予習・復習	予習は必須。		
教科書	受講者と相談の上決定する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>[S] テキストの内容を正確に読みとり、内容を高いレベルで解釈・批評することができた。 [A] テキストの内容を正確に読みとり、内容を解釈・批評することができた。 [B] テキストの内容を正確に読みとり、内容を解釈することができた。 [C] テキストの内容を正確に読みとることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -03	履修コード	5002Z1
科目名	美学・芸術学特講	科目英語名	Studies on Aesthetics & Art Theory
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	20名
担当教員	山本浩貴		
授業概要	「現代美術」の定義・成り立ち・歴史などを学ぶ。 「美術批評」の定義・成り立ち・歴史などを学ぶ。		
到達目標	自分なりの「現代美術（史）」観を構築する。 「美術批評」の意義を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「現代美術」とは何か 2. アーツ・アンド・クラフツ、民藝、ダダ、マヴォ 3. ランド・アート、インスティテューショナル・クリティーク、ハプニング、ルクサス、ヨーゼフ・ボイス、シチュアシオニスト・インターナショナル 4. リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート、コミュニティ・アート 5. ディスカッション（「芸術は社会を変えるか？」） 6. 九州派、具体、万博破壊共闘派、ハイレッド・センター、もの派、美術家共闘会議、ダムタイプ 7. シミュレーショニズム、アート・プロジェクト、地域アート 8. ブリティッシュ・ブラック・アート 9. 戦争・植民地主義・冷戦の歴史と東アジアの現代美術 10. ディスカッション（「地域アートの功罪」） 11. 「美術批評」とは何か 12. 針生一郎、東野芳明、中原佑介、宮川淳 13. 榎木野衣 14. 現代の美術批評 15. 学生によるプレゼンテーション 		
予習・復習	予習は必要ありません。復習は、授業で興味のある事象が出てきたとき、自分なりにもう少し深く調べてみてください。もちろん、その際の参考文献についても遠慮なく聞いてください。		
教科書	山本浩貴『現代美術史——欧米、日本、トランスナショナル』（2019年、中央公論新社）		
参考書	適宜指示します。		
教材	適宜指示します。		
履修上の注意	大学院の講義である以上、履修者にはつねに積極的な参加を求める。講義中に教員から履修者へ質問を行なう場合もある。		
成績評価	授業への参加度（70%）、プレゼンテーション（30%） [S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -04	履修コード	5004Z1
科目名	日本美術史特講	科目英語名	Studies on Japanese Art History
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	20名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	近年、視覚文化における従来のジャンルや制度への疑問が投げかけられている。日本の「美術」や「工芸」が規定されてきた近代をグローバルな視点で理解し様々な批評の論点を考察する。「工芸」の問いとそれに関わる現代の議論を中心に学ぶ。		
到達目標	日英語で書かれた批評理論を読み解く力を養い、問題意識を明確にして議論し自分の作品制作や研究に役立たせる道具にしていけるようにする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、導入 日本の視覚文化が欧米により規定された近代と「美術」・「工芸」の制度の成立、授業の進め方、レポートの書き方 2、日本の近代における「美術」の移入 3、日本の近代による「工芸」の規定と視覚文化の母体 4、'Craft' という問題 5、グローバル' Craft' 研究の前線 6、' Critical Craft Studies' の誕生 7、' Craft' と人間性の問題 8、日本「工芸」研究の現在 9、工芸とナショナリズム 10、「工芸的なもの」の再認識とKogeiという提案 11、「工芸・Craft」の作り手の視点、工程、問題解決 12、工芸と創造：「超絶技巧」・「装飾の力」 13、「美術」と「工芸」を越境する反逆の現代アート（1） 14、「美術」と「工芸」を越境する反逆の現代アート（2） 15、まとめ、討論 		
予習・復習	毎回指示された文献を人数により個人又はグループで事前に読み、パワーポイントを準備して授業で発表し、問題テーマを明確化し、クラス全体で討論することを準備しておくこと。学期末に授業で扱ったテーマを一つ選びレポートを書く。 予定されていた4月分の3回の授業についてはオンラインにより配られた資料をもとに課題に取り組みグループ発表や討論を行う。時期や内容についての指示については履修者にオンラインで伝える。		
教科書	デジタルで資料配布、適宜指示。		
参考書	デジタルで資料配布、適宜指示。		
教材	デジタルで資料配布、プロジェクター		
履修上の注意	授業中に最低一度は発言すること。		
成績評価	<p>授業への参加度（発表の仕方、討論への導入参加） 30%</p> <p>レポート 70%</p> <p>全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 レポートの採点基準は下記のとおり。</p> <p>[S] 問題テーマを良く理解し、指示されたもの以外に独自で文献講読や調査を加え、独自の議論を提示し、論文構成、論理構築、文献リストや脚注が整っており、かつ特に秀でた学術レベルにある。</p> <p>[A] 問題テーマを良く理解し、指示されたもの以外に独自で文献講読や調査を加え、独自の議論を提示し、論文構成、論理構築が整っている。</p> <p>[B] 問題テーマを良く理解し、授業で指示された文献を良く読解し、議論の輪郭をつかみ、論文構成、論理構築が整っている。</p> <p>[C] 問題テーマを理解し、授業で指示された文献を読解し、論文構成、論理構築がある程度整っている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(MO) -05	履修コード	5005Z1
科目名	東洋美術史特講	科目英語名	Studies on Asian Art History
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	20名
担当教員	水野さや		
授業概要	東洋における宗教美術作品（主にヒンドゥー教の寺院建築・神像、仏教寺院建築・仏塔・仏像、中国および韓国の墳墓美術など）から、毎回のテーマにしたがって作例を適宜取り上げ、地域や時代限定される造形、地域や時代を超えて見出せる普遍的な造形存在を知り、そこに見いだせる「形」や「色」の成立とその意味、その伝播・受容・変容のプロセスを考察する。		
到達目標	東洋における宗教美術の諸相を知り、「形」・「色」と「意味」の様々な関係性を知ること、自らの制作・研究活動の一助とすること。		
授業計画	<p>東洋における宗教美術作品に題材を求め、特定の「形」や「色」がどのように成立したのか、そこにはどのような「意味」が付加され、どのような特性を持って受容されてきたのか、考察におよぶ。</p> <p>各回のテーマは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 吉祥モチーフと美術① 3. 吉祥モチーフと美術② 4. 吉祥モチーフと美術③ 5. 吉祥モチーフと美術④ 6. 仏像の形姿① 7. 仏像の形姿② 8. 仏像の形姿③ 9. 仏像の形姿④ 10. 仏像の形姿⑤ 11. 寺院建築と彫刻① 12. 寺院建築と彫刻② 13. 寺院建築と彫刻③ 14. 寺院建築と彫刻④ 15. まとめ <p>【注意事項】</p> <p>①本授業は、全回対面での開講を基本とするが、事情によりオンライン開講となる可能性もある。</p> <p>②各回の内容は、最新の学術情報や展覧会情報および学生の関心に応じて適宜調整を行う。そのため、授業内容に若干の変更が生じる可能性もある。</p>		
予習・復習	特に予習・復習の必要はないが、授業中に取り上げたテーマや作品について、自らの関心に応じて自主的に調べようとする姿勢を求めたい。		
教科書	特になし		
参考書	<p>・ 朴亨國監修・水野さや他共著『東洋美術史』、武蔵野美術大学出版局、2016年</p> <p>・ 『世界美術大全集』東洋編、小学館、1997～1999年</p> <p>1 先史・殷・周、2 秦・漢、3 三国・南北朝、4 隋・唐、</p> <p>5 五代・北宋・遼・西夏、6 南宋・金、7 元、8 明、9 清、</p> <p>10 高句麗・百濟・新羅・高麗、11 朝鮮王朝、14 東南アジア</p> <p>12 東南アジア、13 インド(1)、14 インド(2)</p> <p>なお、個別テーマ、ジャンルごとの参考文献は、必要に応じて適宜提示する。</p>		
教材	毎回の授業ノート（レジュメ）は前もって開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。		
履修上の注意	毎回の授業はプロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。		
成績評価	<p>[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達および課題提出（授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート）</p> <p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達および課題提出（自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート）</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達および課題提出（自らの意見が意欲的にまとめられているレポート）</p> <p>[C] 授業内容の理解度および課題提出（参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート）</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -06	履修コード	5003Z1
科目名	西洋美術史特講	科目英語名	Studies on Western Art History
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	20名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	15、16世紀の北方美術を中心に、さまざまなテーマを設定してその芸術表現にみられる特質を解説する。		
到達目標	15、16世紀の北方美術における主要な作品の特徴を、その用途や時代背景、あるいは同時期のイタリア美術との比較において理解する。		
授業計画	<p>15、16世紀の北方美術における「水浴」図をテーマとし、ヨーロッパにおける風呂の歴史を概観すると共に、水の世俗的、宗教的シンボリズムや、裸体表現、さらに美術の主題としての沐浴図などさまざまな角度からのアプローチを試みる。比較として、日本あるいはアジアにおける入浴の歴史もとりあげる。日常的な行為である入浴を、その歴史を通して考えることにより、近現代のアートにおける沐浴というテーマをも意識化する。受講者は、このテーマにかんする作例を調査して発表を行い、それについて全員でディスカッションすることにより、理解を深める。テーマは受講者により変更の可能性もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入ー（授業概要等の説明を含む） 2. 水浴の歴史 1 3. 水浴の歴史 2 4. 水浴と裸体表現 5. 若返りの泉 6. 15、16世紀北方の沐浴図 7. 受講者の発表、ディスカッション1ー1 8. 受講者の発表、ディスカッション1ー2 9. 水のシンボリズム 世俗 10. 水のシンボリズム 宗教 11. 神話主題における沐浴図 12. キリスト教主題における沐浴図 13. 受講者の発表、ディスカッション2ー1 14. 受講者の発表、ディスカッション2ー2 15. まとめ 		
予習・復習	美術全集等を活用した十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	プリントを配付する。		
履修上の注意	常に積極的に講義に参加し、自ら問題点を発見して意見を述べられるようにすること。		
成績評価	<p>授業における積極性30% 発表2回30% 学期末のレポート（発表にもとづく） 40%</p> <p>[S]十分な資料提示とともに2回の発表を行ない、テーマを理解してとくにすぐれた意見を示したレポートを提出</p> <p>[A]十分な資料提示とともに2回の発表を行ない、テーマを理解して積極的な意見を示したレポートを提出</p> <p>[B]2回の発表を十分に行ない、テーマを理解した意見を示したレポートを提出</p> <p>[C]2回の発表を行ない、テーマを理解したレポートを提出</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -07	履修コード	5204Z1
科目名	工芸史特講	科目英語名	Studies on Craft History
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	20名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	柳宗悦が導き発展した民芸運動とその理論について日本近代の歴史背景に照らし合わせながら理解しポストコロニアルの視点から文化ナショナリズムと東洋のオリエンタリズムの問題を考察する。更に自分の制作に関連させ現代的意義を討論する。		
到達目標	ポストコロニアル理論等を駆使して工芸史研究を行う方法を学び、グローバルな視野で日本の視覚文化を批評する眼を養う。		
授業計画	<p>(1) 序：民芸運動とは何か？</p> <p>(2) 英国のアーツ・アンド・クラフツ運動からリーチ派民芸運動</p> <p>(3) 民芸運動とアイヌ、沖縄</p> <p>(4) 植民地朝鮮と民芸運動</p> <p>(5) 植民地朝鮮と植民地インドの民芸運動：浅川巧とグルチャラン・シング、ガンジーの国産主義運動下の手織り木綿とデリーブルーボタリー</p> <p>(6) 植民地台湾と民芸運動</p> <p>(7) 満州帝国と民芸運動</p> <p>(8) 民芸運動とオリエンタリズム</p> <p>(9) 第二次大戦下の民芸運動</p> <p>(10) アメリカ占領下における「日本的」グッドデザインと冷戦期アメリカの民芸運動、「渋い」ブーム、アメリカ先住民族工芸、抽象陶芸</p> <p>(11) 民芸と地域活性化のクリエイティブインダストリー：ジャパンプランド等</p> <p>(12) 民芸・工芸・デザインの曖昧な境目</p> <p>(13) 民芸と現代美術-工芸的なものによる視覚文化ゲリラ戦略（村上隆等）</p> <p>(14) 現代美術における民芸-工芸の反逆と視覚文化ゲリラ戦略（Grayson Perry等）、日常性のアヴァンギャルド（Pace展等）</p> <p>(15) まとめ、討論</p>		
予習・復習	毎回指示された文献を人数により個人又はグループで事前読み、パワーポイントを準備して授業で発表し、問題テーマを明確化し、クラス全体で討論することを準備してくる。学期末に授業で扱ったテーマを一つ選びレポートを書く。		
教科書	Kikuchi, Yuko 2004. Japanese Modernisation and Mingei Theory: Cultural Nationalism and Oriental Orientalism, London: Routledge Curzon.		
参考書	デジタルで資料配布、授業中に指示する。		
教材	デジタルで資料配布、プロジェクター		
履修上の注意	授業中に必ず少なくとも一度は発言すること。		
成績評価	<p>授業への参加度（発表の仕方、討論への導入参加） 30%</p> <p>レポート 70%</p> <p>全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。</p> <p>レポートの採点基準は下記のとおり。</p> <p>[S] 問題テーマを良く理解し、指示されたもの以外に独自で文献講読や調査を加え、独自の議論を提示し、論文構成、論理構築、文献リストや脚注が整っており、かつ特に秀でた学術レベルにある。</p> <p>[A] 問題テーマを良く理解し、指示されたもの以外に独自で文献講読や調査を加え、独自の議論を提示し、論文構成、論理構築が整っている。</p> <p>[B] 問題テーマを良く理解し、授業で指示された文献を良く読解し、議論の輪郭をつかみ、論文構成、論理構築が整っている。</p> <p>[C] 問題テーマを理解し、授業で指示された文献を読解し、論文構成、論理構築がある程度整っている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -08	履修コード	5259Z1
科目名	古典特講	科目英語名	Seminar of Classics
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	20名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	日本近代の芸術思想に関するテキストをとりあげ、その読解を通して日本の文化・思想の諸問題を研究・議論し、また文章を書きます。 本年度は、岡崎乾二郎『抽象の力』（2017年豊田市美術館同題展覧会パンフレット）を読みます。世界美術史の文脈で、日本の近代絵画（油画および日本画）の具象と抽象の問題を考察します。		
到達目標	対象テキストの持つ、文化・思想的諸問題への理解を深め、自身の制作に資する。		
授業計画	『抽象の力』（展覧会パンフレット）は全12章からなり、週割りと主なトピックはその章題に対応します。また、最後の3週は、対比的に、（大森惟中筆記、明治15年龍池会蔵版）を読みます。 1. キュビズムと《見えないもの》 2. 漱石と《f+f》 3. 熊谷守一の《光学》 4. 恩地孝四郎と《感情》 5. 第一次世界大戦とダダイズム 6. 《ピューター・グループ》 7. ポアンカレと《不気味なもの》 8. 「写実欠如」としての超現実 9. 《新感覚派》の変化物・奇形物・実用物・具象物 10. 《アール・コンクレ》、ダダをこねる 11. 第二次世界大戦の『視覚言語』 12. 戦後美術のスペシフィック 13. フェノロサ『美術真説』1 14. フェノロサ『美術真説』2 15. フェノロサ『美術真説』3		
予習・復習	レポートには十分な準備が要求される。 レポート以外にも各自、事前に語句等を調べておくこと。		
教科書	テキストは、こちらで用意します。		
参考書	岡崎乾二郎『抽象の力（近代芸術の解析）』（亜紀書房、2018年、4104円）の購入が望ましい。 上記テキストの完全・書籍版です。		
教材	WEBで教科書、講義内容、講義音声オンデマンドで（好きな時に聞き直せる）共有できるようにします		
履修上の注意	・博士後期課程の院生が、オブザーバとして参加する場合があります。		
成績評価	評価の方法：レポートとして報告する40%、授業の感想40%、学期末レポート20% 評価の基準： [S] 授業に積極的に参加し、レポートも熟慮してあり、テーマへの極めて深い洞察が見られる。 [A] 授業に積極的に参加し、レポートも熟慮してあり、テーマへの深い洞察が見られる。 [B] 規定の出席と提出物がある。テーマを理解している。 [C] 規定の出席と提出物がある。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -09	履修コード	5260Z1
科目名	デザイン特論	科目英語名	Studies on Design Theory
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	20名
担当教員	畝野裕司・○安島諭・鈴木康雄・廣瀬純子		
授業概要	デザインの今日的状況とその課題について、担当教員それぞれの専門の場における研究や実践に基づいて講義する。		
到達目標	時代と社会の中で学生それぞれが、自らの制作や研究活動を積極的に位置付け展開することへの感性的、知性的な認識を深める		
授業計画	<p>以下の教員がオムニバス方式で講義する</p> <p>（鈴木教授） ビジュアルコミュニケーションの視点からメディアの役割と動向を紹介し、メディアとコミュニケーションの現在を紹介しつつ、これからのメディアのあり方を予測する。またデザインに求められるアイデア創出時において何が障害となりうるかを知り、その乗り越え方を学ぶ。</p> <p>（安島教授） インデペンデントなデザイナーとしての経験から、具体例を紹介しながら戦略的デザイン思考やデザインから見たマーケティングなど、社会におけるサバイバルやこれからのデザインの役割などを模索する。レポートを課す。</p> <p>（畝野教授） 日本のパッケージデザインの流れを紹介するなかで、パッケージデザインの置かれている現況を確認し、パッケージ領域を中心に今日的課題を探る。レポートを課す。</p> <p>（廣瀬准教授） ファッションエディトリアルとは何か。モード誌の制作過程では、どんなことが行われているのか。ファッション・ビジネス全体像の中で、その役割と今後の課題を考察する。レポートを課す。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。毎回の講義の考察をしっかりと行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	適宜プリントの配布や映像による講義、現場視察等を行う。		
履修上の注意	デザイン専攻1年次生（必修・後掲）の履修コードは5423Z1となる。		
成績評価	<p>各教員の課すレポート等の評価を総合して単位を認定する。</p> <p>[S] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。</p> <p>[A] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。</p> <p>[B] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。</p> <p>[C] デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -10	履修コード	5261Z1
科目名	現代美術特講	科目英語名	Theory of Contemporary Art
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	2	定員	20名
担当教員	未定		
授業概要	わかりやすく、やさしくを基本に1990年以降の現代美術を対象として、内外の現代美術の諸相についてその特質を考える。講義形式、グループなどによる発表形式を予定している。発表形式では受講者が積極的に参加できるようなテーマやアーティストを設定して行なう。また芸術論などのテキストを適宜選び読む場合もある。		
到達目標	現代美術についての基本的な認識を高め、専攻分野に関わらず創作活動や表現の幅を広げるために、大学院課程として必要な論理的思考力や現代美術の基礎知識を身につける。		
授業計画	<p>現代美術に関する概論をイントロダクションとして行った後、講義の進め方やテーマなどを決定し、受講者が参加してテーマに沿った資料調査や文献調査を行う。</p> <p>テーマ例：「国際美術展の動向」「メディア・アート」「インスタレーション」「絵画の国際的潮流」「日本画の行方」「アジアの現代美術」「デザインの現状」「写真論」「美術館建築」など その他、現代美術のカテゴリーで活躍する内外のアーティスト。</p> <p>ただし、上記の内容はあくまでも予定であり、受講者の興味やゲストスピーカーなどにより変更される可能性がある。また、個別の作家や作品など各テーマから派生したより詳細な内容を取り上げる場合もある。</p> <p>なお、希望者には博士課程の学生を含め履修学年以外でも履修を認める。</p>		
予習・復習	現代美術の展覧会などを通じて実際の現代美術に日頃から親しんでおくこと。美術雑誌、インターネットなどを通じ情報の収集を行うこと。美術館やギャラリーのHPなどを定期的に閲覧する習慣を付けるようにすること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	1) 現代美術についての内容を理解すること。2) 理解した内容を言語化し、正しく文章や言葉として表現出来ること。3) 論理的な思考力があること。4) 自己の創作活動と現代美術の動向の関連について意識化できていること、などを基準に試験もしくはレポートなどの点数に従い評価を行う。出席のほか自主レポートの提出や積極的な受講態度（発表、質問）などを加味する。またS評価については、講義内容に高い理解を示し、発表能力に優れ、研究者としての高度な専門性が認められた者に付与する。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(MO) -11	履修コード	5262Z1
科目名	言語表現演習	科目英語名	Presentation in Writing
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	随時
履修区分	選択	教室	担当教員の研究室
単位	1	定員	若干名
担当教員	○高橋明彦・桑村佐和子・大谷正幸・荷方邦夫・稲垣健志		
授業概要	<p>授業の趣旨： 制作者にとって、文章を書くこともまた表現のひとつです。論理的で明晰な文章あるいは魅力的で説得力のある文章が作品に備わるとは、作品にとってもプラスとなります。 また、言語化という行為は、自らの思考のプロセスを明晰にすることでもあります。 本授業は、各担当教員の専門領域を活かして、日本語または外国語で文章を書くことを通して、自己や自己の制作を振り返るものです。</p> <p>授業形態： 担当教員ごとに班分けをして、それぞれの班を単位に文章の執筆・添削を行います。班分けは、初回のガイダンスの時にを行います。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がふだん考えていることを、分かりやすく魅力ある文章として書けるようになる。 ・自己の制作・コンセプトを振り返り、その思考および思考プロセスを明晰に言語化する。 ・博士後期課程への進学を志す学生の言語表現能力の向上に役立てる。 		
授業計画	<p>1回目（ガイダンス、班分け） 2～5. 分かりやすく、魅力ある文章を例示し、それを検討する。 6～9. 明晰な文章、論文の文体を例示し、それを検討する。 10～14. 文章を書き、それを相互に批評・添削しあう。同時に、文章に書いた事柄についての認識を深める。</p> <p>高橋の担当する班では、文芸理論の立場から、文章力の向上をはかる。 桑村の担当する班では、教育理論の立場から、文章力の向上をはかる。 大谷の担当する班では、エネルギー論・文明論的な立場から、文章力の向上をはかる。 荷方の担当する班では、心理学やコミュニケーション論の立場から、文章力の向上をはかる。 稲垣の担当する班では、社会学研究や歴史学研究の立場から、文章力の向上をはかる。</p>		
予習・復習	担当教員から毎回だされる課題を指定の期限までに提出する。		
教科書			
参考書	ガイダンスのあと、受講を希望する担当教員から必読のテキストが紹介される。		
教材			
履修上の注意	班分けでは、受講生の希望を尊重します。 受講時間や教室の変更などに備えて、担当教員との連絡を密にすること。		
成績評価	<p>評価の方法：提出されたレポート（60%）、添削等の平常点（40%）。規定の回数は担当教員によって異なります。 評価の基準： [S] レポート等を積極的に書き、添削を受け、文章力を高める努力を十分にし、特段の成果をあげた。 [A] レポート等を積極的に書き、添削を受け、文章力を高める努力を十分にした。 [B] レポート等を積極的に書き、添削を受け、文章力を高める努力をした。 [C] レポート等を書き、規定の添削を受けた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -12	履修コード	5262Z2
科目名	言語表現演習(アカデミックジャパニーズ)	科目英語名	Presentation in Writing (Academic Japanese)
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次（留学生限定）	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	1	定員	若干名
担当教員	村戸弥生		
授業概要	日本の文化について幅広く学びながら、上級の日本語運用能力を身に付ける。		
到達目標	中級後半レベルの「読む」「聞く」「話す」「書く」の四技能を総合的に伸ばし、上級の日本語運用力を身につける。必要な漢字、語彙を習得し、重要文型の運用力を得ることで、論文の読み書きにつなげる。		
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回：第1課 日本の地理 第2回：第1課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第3回：第2課 日本語のスピーチスタイル 第4回：第2課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第5回：第3課 日本のテクノロジー 第6回：第3課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第7回：第4課 日本のスポーツ 第8回：第4課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第9回：第5課 日本の食べ物 第10回：第5課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第11回：第6課 日本人と宗教 第12回：第6課のトピックに関連した文章、評論などを読む。</p> <p>後期</p> <p>第1回：第7課 日本のポップカルチャー 第2回：第7課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第3回：第8課 日本の伝統芸能 第4回：第8課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第5回：第9課 日本の教育 第6回：第9課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第7回：第10課 日本の便利な店 第8回：第10課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第9回：第11課 日本の歴史 第10回：第11課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第11回：第12課 日本の伝統工芸 第12回：第12課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第13回：第13課 日本人と自然 第14回：第13課のトピックに関連した文章、評論などを読む。 第15回：総まとめ</p> <p>* クラスの状況を見て、授業内容及び進度を変更することがある。 * トピックはすべて取り上げるとは限らない。 * クラスの状況を見て、授業内容及び進度を変更することがある。 * トピックはすべて取り上げるとは限らない。</p>		
予習・復習	予習用ワークシートを配るので、必ずやっておくこと。		
教科書	岡まゆみ他『上級へのとびら』くろしお出版		
参考書	適宜指示する。		
教材	プリントを配布する。		
履修上の注意	ほぼ毎回小テストを行う。 毎回配布するワークシートに作文を書いて提出すること。		
成績評価	<p>平常点 40%、授業への参加度 提出物 40%、授業の課題やレポート 小テスト 20%、語彙、文法、内容理解度など これらの合計点で評価する。 採点基準 [S]各課トピックに関して十分な理解に達していて、その内容についての要約を的確に作成し、自分の考えを効果的に表現出来る。 [A]各課トピックに関して十分な理解に達していて、その内容についての要約を的確に作成し、自分の考えを表現出来る。 [B]各課トピックに関する理解に達していて、その内容についての要約を的確に作成した。 [C]各課トピックに関する理解に達していて、その内容についての要約を作成した。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -13	履修コード	5263Z1
科目名	映像メディア演習	科目英語名	Video Editing and Physical Computing
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	選択	教室	映像メディア室
単位	1	定員	10名
担当教員	○鈴木浩之・鈴木康雄・大谷正幸（非常勤）水由 章・木村悟之・明貫紘子		
授業概要	映像メディアは現代の社会に強い影響を与えている。この授業では、芸術分野において映像メディアを用いた作品や表現活動に関する歴史と理論に触れるとともに、表現技術に関する基礎的な演習を行う。また、特殊な撮影技術の体験やフィルム演習を通して映像表現に関する知識を広げるとともに、画像処理の原理を学び、現代の芸術表現と映像メディアの関係を理解する。		
到達目標	映像メディアに関する表現技術の変遷を学ぶと共にそれらの制作技術を理解し、適切な機材を用いて課題を映像化する表現技術についての知識と技術を深める。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業説明<鈴木浩之、鈴木康雄、大谷正幸> 4/9 ・ 映像メディア概論 <鈴木浩之> 4/16 ・ 映像制作論 <木村悟之> 4/23 ・ 映像撮影演習 <木村悟之> 4/30・5/7 ・ アニメーション概論 <明貫紘子> 5/14 ・ 映画館施設見学 <鈴木浩之> 5/21 * 集合場所「シネモンド」（金沢市香林坊2丁目1-1香林坊東急スクエア4階） * 集合時間 16時30分（現地集合とし、出欠確認も現地で行う） ・ メディアアート概論 <明貫紘子> 5/28 ・ 撮影技術概論 <鈴木康雄> 6/4 ・ デジタル一眼カメラによる映像表現 <鈴木康雄> 6/11 ・ 小型ビデオカメラによる映像表現 <鈴木康雄> 6/18 ・ フィルム演習 <水由 章> 6/25 ・ プログラミング（画像処理）基礎演習 <大谷正幸> 7/2、7/9、7/16 ・ レポートの作成と提出 * 提出期限 7月30日（金）17時30分 		
予習・復習	授業計画に沿って、授業内で予習・復習の内容を指示する		
教科書	授業内で配布する印刷物等に従って授業を行う。		
参考書	授業内で配布予定		
教材	授業内で知らせる		
履修上の注意	USBメモリ（16GB程度）を持参すること。 4/9「授業説明」は出席確認を行うので履修予定者は必ず出席すること。		
成績評価	<p>作品評価及びレポート提出 <評価基準></p> <p>[S] 授業内で学んだ映像メディアやプログラミングに関する理論や制作技術を特に秀でたレベルで理解し、適切な機材を用いて課題作品を完成させた。</p> <p>[A] 授業内で学んだ映像メディアやプログラミングに関する理論や制作技術を理解し、適切な機材を用いて課題作品を完成させた。</p> <p>[B] 映像メディアやプログラミングに関する理論や制作技術を学び、適切な機材を用いて課題作品を完成させた。</p> <p>[C] 映像メディアやプログラミングに関する理論や制作技術に触れ、適切な機材を用いて課題制作に取り組んだ。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -14	履修コード	5266Z1
科目名	アートプロジェクトの理論と実践	科目英語名	Theory and Practice of Art Project
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	随時・終日
履修区分	選択	教室	担当教員の研究室 LAVC室 学外
単位	1	定員	10名
担当教員	○芝山昌也・高橋治希・西本耕喜・田中信行・稲垣健志		
授業概要	本授業は複数の専攻の教員が指導する専攻横断型授業であり、金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」として、奥能登国際芸術祭への参加を視野に入れたアクティブラーニング形式の授業である。日本海側の歴史文化や奥能登の地域の現状についてフィールドワークによるリサーチ活動を行いながら、多様な専門性を持つグループによる大規模作品の制作プロセスや発表に至るまでの準備を学ぶ。その上で国際芸術祭への参加を目指したプレゼンテーション、作品づくり、会場構成などのデザインワークを経験し、表現者として地域課題解決の手法について探求する。＊修士2年生も履修可。		
到達目標	国際的に通用する作品クオリティを追求し高いレベルで完成させる。そのために作品の制作能力の向上、グループワークへの理解、管理・運営能力を向上させ、将来のアート・デザイン・工芸の活動や企画等に関わる優秀な人材が育成される事を目標とする。		
授業計画	<p>今年度は令和3年秋に開催予定の奥能登国際芸術祭への参加作品の制作、芸術祭会場での運営、プランニング資料作成とそのためのリサーチ活動等を行う。</p> <p>令和3年度</p> <p>●教員と学生が協力して大型作品1点を制作し、奥能登国際芸術祭で発表する。</p> <p>①作品作りおよびワークショップに必要な発想や知識を得るため、リサーチや交流活動としてのワークショップ等を行う。</p> <p>②会場での作品コンセプトの説明など、来場者とのコミュニケーションを通じて地域芸術祭の意義について学ぶ。</p> <p>③関係者とのミーティング等を通して、アートプロジェクトの仕組みや作品制作の手法について学ぶ。</p> <p>(指導教員の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋治希 絵画、インスタレーション、フィールドワーク ・芝山昌也 全体の流れを総括、彫刻、フィールドワーク ・西本耕喜 建築 ・田中信行 工芸、漆造形 ・稲垣健志 社会学、フィールドワーク 		
予習・復習	プロジェクトの状況に応じて配布された資料やデータを確認する。		
教科書	特に定めないが、必要に応じて使用する。		
参考書	適宜必要な参考書を使用する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	学外での授業も含まれるので、連絡や指示を見落とさないこと。時間厳守。		
成績評価	リサーチ、フィールドワーク、作品制作、ドキュメント制作などアートプロジェクト全体の結果を総合的に評価する。 [S]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが極めて高いレベルに到達した。 [A]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。 [B]アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。 [C]アートプロジェクトの知識やスキルが習得された。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M0) -15	履修コード	5265Z1
科目名	工芸素材表現演習	科目英語名	Practice of Creative Use of Craft Materials
科目区分	修士課程共通選択科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	修士課程全専攻1年次	曜日・時限	随時
履修区分	選択	教室	研究室
単位	1	定員	15名
担当教員	山本健史・〇池田晶一・宮永春香・田中信行・山村慎哉・青木千絵・畠山耕治・原 智・水代達史・大高 亨・足立真実・加賀城健（客員教授）金子賢治・唐澤昌宏		
授業概要	工芸領域独特の伝統的な技術・素材へのこだわりは、モノづくりの原点を想起させる。本授業では工芸の制作現場をじかに見て、素材に触れる体験を通じて大学院生として必要な作品制作における基礎的な技術習得の重要性や素材感覚を身につける一助としたい。工芸には染織・金工（鍛金、彫金、鋳金）・漆・陶磁とそれぞれが多様な世界を展開している。この授業では各学生が日頃触れていない素材技法を選択し学んでいく。作品を制作する事をはじめ、生活空間あるいは社会の中での工芸の役割について考えていく。		
到達目標	素材と関わり技術から学ぶことの重要性を再認識し、「手で考える」という意味を実践から理解する。各自が日ごろ行っている専門分野での制作との関連をあらためて考え昇華させる。		
授業計画	<p>1. 授業開始前の指定日にそれぞれの専門分野の教員と打ち合わせを行い、各工房が希望する研究に対応可能かどうか確認する。</p> <p>2. 工芸作品に関するリサーチを行い、工芸作品がもつ役割と社会的意味合いについて理解したうえで自分が選択したい素材を決め、計画書を作成する。</p> <p>3. 担当する教員と打ち合わせの上制作へと向かう。</p> <p>4. 素材の持つ特性を理解し、工芸作品の制作を行う。制作過程自体が重要な演習内容であることを認識すること。</p> <p>5. 工芸作品が生活空間の中でどのように位置づけできるのか、広い視野で検証する。</p> <p>個々の学生の研究内容を聞き取ったうえで、以下の教員がそれぞれ個別に指導を行う。</p> <p>① 陶磁の分野 （山本教授） 陶造形とその技術について指導する。 （池田教授） 陶磁の技法と表現の面から実技指導する。 （宮永准教授） 陶磁及び土を用いた造形表現について指導する。</p> <p>② 漆・木工の分野 （田中教授） 漆による造形表現について指導する。 （山村教授） 素地ならびに漆による造形的な加飾技法の一般的ならびに複合的な新技法などを指導する。 （青木助教） 漆による造形表現とその技術について指導する。</p> <p>③ 金工の分野 （畠山教授） 鋳金分野の造形とその技術について指導する。 （原 教授） 鍛金分野の制作並びに各種金属加工方法、金属造形について指導する。 （水代講師） デザインから金工制作による表現までの指導をする。</p> <p>④ 染織の分野 （大高教授） 制作コンセプト、自己表現と工芸ならではの材料、技法からくる表現との適合性について指導する。 （足立教授） 織物制作による表現と技術について指導する。 （加賀城准教授） 染色に関する技術、表現、展示に関して指導する。</p>		
予習・復習	当該の素材・工芸作品についての基礎知識を独自に予習する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	制作に関わる実費については自己負担。		
履修上の注意	履修届提出前に受け入れ可能か否かについての話し合いの場を設ける。年度当初に話し合いの日時場所に関する情報を掲示板に張り出すので注意すること。また、今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	提出された作品・レポート・受講姿勢に基づき総合的に評価する。 [S]工芸における素材・技術について高いレベルで理解し、特に秀でて優れた表現に結び付けている。 [A]工芸における素材・技術について高いレベルで理解し、優れた表現に結び付けている。 [B]工芸における素材・技術について良く理解し、良い表現に結び付けている。 [C]工芸における素材・技術について一定の理解をし、表現に結び付けている。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -01	履修コード	5400Z1
科目名	絵画特論	科目英語名	Studies on Painting
科目区分	絵画専攻（日本画コース）科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	絵画専攻（日本画コース）1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	必修	教室	研究室・日本画研究科演習室
単位	2	定員	4名
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和		
授業概要	日本画の制作材料、技法等について歴史的観点と各教員の実践的経験を踏まえた現代的視点から講義する。 また、展覧会などで鑑賞した作品を様々な視点から考察する。		
到達目標	日本画に於ける専門的な広い見識をもち、日本画の伝統と現代について独自の理論を育む。 また、作品等に関する自己の考察力を高めると共に伝達力を養う。		
授業計画	<p>○松崎十朗 絵画論についての講義特に、日本画的表現についての指導 ○佐藤俊介 絵画論についての講義特に、日本画素材およびその効果についての指導 ○荒木恵信 絵画論についての講義特に、日本画の伝統性についての指導 ○よしだぎょうこ 絵画論についての講義特に、日本画の先端的表現についての指導 ○石崎誠和 絵画論についての講義特に、日本画の制作工程についての指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文房四宝（1）紙 2. 文房四宝（2）筆 3. 文房四宝（3）墨 4. 文房四宝（4）硯 5. 基底材について 6. 絵具と金属材料について 7. 表装について 8. 技法について（1）歴史的観点より 9. 技法について（2）現代性への考察 10. 「日本画」について 11. 作品の考察（1）作品鑑賞 12. 作品の考察（2）考察結果発表 13. 作品の考察（3）作品鑑賞 14. 作品の考察（4）考察結果発表 15. 小論文試験 		
予習・復習	発表のための資料作成等の準備、他随時指示		
教科書	随時プリントを配付する。		
参考書	各自随時提案		
教材	参考作品・画材など		
履修上の注意	作品鑑賞のため展覧会見学等の学外授業の際は開催日時等の関係で授業内容が前後することがある。		
成績評価	<p>質疑応答並びに試験もしくは口頭発表により評価する [S]日本画材に関連する知識が豊富で、芸術に対する多角的視点による考察力に長けており、特に秀でている。 [A]日本画材に関連する知識が豊富で、芸術に対する多角的視点による考察力に長けている [B]日本画材に関連する知識が多く、芸術に対する多角的視点による考察が出来る [C]日本画材に関連する知識があり、芸術に対する多角的視点による考察力に長けている</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -02	履修コード	5302Z1
科目名	絵画技法演習	科目英語名	Practices of Painting Technique
科目区分	絵画専攻（日本画コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	絵画専攻（日本画コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	研究室・日本画研究科演習室
単位	4	定員	4名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和（客員教授）土屋禮一		
授業概要	日本画の伝統的材料と技法、道具を研究し、これに現代性を加味した実験的制作を行う。		
到達目標	日本画の伝統的材料と技法、道具の理解と共に自己の制作技法および表現の幅を拡充し、日本画についての深い考察力を養う。		
授業計画	<p>○松崎十朗 日本画制作の技法並びに空間表現についての指導 ○佐藤俊介 日本画制作の技法並びに特に素材・道具と使用法についての指導 ○荒木恵信 紙本制作の技法実習並びに関連素材道具についての指導 紙本制作の保存修復について講義 ○よしだぎょうこ 日本の美学概念を基にした実験的制作の指導 ○石崎誠和 日本画の素材や技法の現代的展開についての指導</p> <p>1. 日本画の組成について説明 様々な基底材の特性とこれを用いるための制作技法 伝統的材料とその特性 道具について 2. 研究テーマの決定と研究の実施 各自の考察に基づいた研究テーマを決定し、実際の作品の調査や文献資料などから研究を進める。 同様に日本画の現代性について考察する。 3. 研究テーマに沿った実験的制作の実施 各自の研究成果を基に実験的作品を制作する。 4. 研究発表および講評 各自の研究成果と実験的作品について口頭で発表する。</p>		
予習・復習	発表のための資料作成等の準備、他随時指示		
教科書	随時プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	参考作品・資料など		
履修上の注意	伝統をよく把握・理解した上で意欲的に実験、研究すること。		
成績評価	<p>課題提出作品及び質疑応答により評価する [S] 伝統的技法を習熟した上で現代的表現に対する応用力に長けており、特に秀でている。 [A] 伝統的技法を習熟した上で現代的表現に対する応用力に長けている [B] 伝統的技法を覚えた上で現代的表現に対して応用できる [C] 伝統的技法を理解した上で現代的表現ができる</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -03	履修コード	5303Z1
科目名	日本画制作（一）	科目英語名	Nihonga (Japanese Style Painting) (1)
科目区分	絵画専攻（日本画コース）科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	絵画専攻（日本画コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	日本画研究科演習室
単位	5	定員	4名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和（客員教授）土屋禮一（非常勤）米谷清和・北田克己・岡村桂三郎・中村賢次・岩田壮平・松永敏秀		
授業概要	各自の研究計画・テーマの設定およびそれらに基づく日本画および他形式による作品制作。同時にこれらに関するレポートの作成及びプレゼンテーション。		
到達目標	各自が明確な研究計画・テーマを再度確認し、創造に対する思慮を深めることでより新鮮で高度であり、時代に呼応した自己表現を目指す。また、その作品や制作意図、制作工程に関して第三者に伝達できるコミュニケーション能力及び言語化能力の向上を図る。		
授業計画	<p>○松崎十朗 絵画表現に於ける日本画的表現特に、その制度性についての指導</p> <p>○佐藤俊介 絵画表現に於ける日本画的表現特に、その現代性についての指導</p> <p>○荒木恵信 絵画表現に於ける日本画的表現特に、その発展性についての指導</p> <p>○よしだぎょうこ 芸術表現に於ける日本美学概念 特に、その先端的表現についての指導</p> <p>○石崎誠和 芸術表現に於ける日本画的表現特に、その世界観についての指導</p> <p>前期 第1～15週 日本画および他形式による作品制作 ・各自が研究計画・テーマを設定し、それに基づいて制作する。</p> <p>後期 第16～23週 日本画および他形式による作品制作 ・各自が設定した研究計画・テーマに基づいて制作する</p> <p>第24～30週 日本画および他形式による作品制作 ・前回の制作を基に各制作工程の充実を図り、さらに新しい日本画について考察を深める。</p> <p>その他 ・郊外写生授業 松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 取材・写生によって何に感動したか、何を表現したいかを探る。 ・人体デッサン 松崎十朗・石崎誠和 自由な画材で描写・着色することで人物の内面的表現や、独自の感性豊かな表現を追求し、制作につなげる。</p>		
予習・復習	制作準備、資料収集および作成、構想、写生、作図		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	日本画用具一式他		
履修上の注意	積極的な発表を心掛け、それにより作家としての自覚を持つこと。		
成績評価	<p>課題提出作品及び質疑応答により評価する</p> <p>[S] 伝統的技法を習熟した上で現代的表現に対する応用力に長けており、特に秀でている。</p> <p>[A] 伝統的技法を習熟した上で現代的表現に対する応用力に長けている</p> <p>[B] 伝統的技法を覚えた上で現代的表現に対して応用できる</p> <p>[C] 伝統的技法を理解した上で現代的表現ができる</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -04	履修コード	5401Z1
科目名	日本画制作（二）	科目英語名	Nihonga (Japanese Style Painting) (2)
科目区分	絵画専攻（日本画コース）科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	絵画専攻（日本画コース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	日本画研究科演習室
単位	13	定員	4名
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和（客員教授）土屋禮一（非常勤）米谷清和・北田克己・岡村桂三郎・中村賢次・新恵美佐子・さわひらき・岩田壮平・能島浜江・山田毅		
授業概要	修了制作を念頭に各自の研究テーマに基づく研究を行う。		
到達目標	各自が明確な研究テーマと計画を持ち、これらに基づく表現や技法を模索・検討して深める。また、言語化能力の向上に努める。		
授業計画	<p>○松崎十朗 絵画表現に於ける日本画的表現特に、その制度性についての指導</p> <p>○佐藤俊介 絵画表現に於ける日本画的表現特に、その現代性についての指導</p> <p>○荒木恵信 絵画表現に於ける日本画的表現特に、その発展性についての指導</p> <p>○よしだぎょうこ 芸術表現に於ける日本美学概念を基にした先端的表現についての指導</p> <p>○石崎誠和 芸術表現に於ける日本画的表現特に、その世界観についての指導</p> <p>第1～3週 小下図制作もしくはコンセプトシート制作 ・各自のテーマによる写生・取材を基にしたイメージ展開と小下図もしくはコンセプトシート5点を、具体的な制作技術および工程のプランと共に提出。</p> <p>第4～10週 日本画制作および他形式による作品制作 ・小下図制作を基に研究計画・テーマを設定しそれに基づいて制作するその他</p> <p>第11～30週 修了制作 ・小下図、制作意図もしくはコンセプトシートとマケットを提出し、各教員がそれぞれの視点から助言および指導する。 ・提出作品の画面サイズについては150号、もしくはそれに該当するサイズの他形式による作品制作を標準とし、各教員がそれぞれの視点から助言および指導する。 ・非常勤講師は制作途中段階および完成直前に集中講義で指導に当たる。</p> <p>その他 ・郊外写生授業 松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 取材、写生によって何に感動したか、何を表現したいかを探る。 ・人体デッサン 松崎十朗・石崎誠和 個性的表現の追求。</p>		
予習・復習	制作準備、資料収集および作成、構想、写生、作図		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	日本画用具一式他、適宜指示する。		
履修上の注意	これまでの作品制作や発表に基づいて意欲的かつ高い完成度を目指すこと。 修了制作を念頭に、積極的な発表を心掛け、それにより作家としての責任を持つこと。		
成績評価	<p>審査並びに合評時に於ける提出作品及び質疑応答を含む口頭発表による</p> <p>[S] 研究テーマの独創性が高く優れた技術力を有すると共に理論的言語化能力に優れており特に秀でている</p> <p>[A] 研究テーマの独創性が高く優れた技術力を有すると共に理論的言語化能力に優れている</p> <p>[B] 研究テーマに独創性があり高い技術力を有すると共に理論的言語化能力が高い</p> <p>[C] 研究テーマの独創性が理解でき技術力を有すると共に理論的言語化能力がある</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -05	履修コード	5400Z2
科目名	絵画特論	科目英語名	Studies on Painting
科目区分	絵画専攻（油画コース）科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	絵画専攻（油画コース）1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	必修	教室	油画研究科実習室1・絵画技法材料実習室
単位	2	定員	6名
担当教員	○三浦賢治・大森 啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎 純・武田雄介		
授業概要	学生は、油画実技担当教員による絵画制作を中心とした絵画学、美術理論について学ぶことになる。各教員が各専門領域を生かした「美術制作学」を、オムニバス形式でそれぞれ実体験に基づく講義をする。また、大学院修了後、社会に出て、なんらかの形で教育に携わる機会もあると思われるが、その際の活動の基層となる授業である。		
到達目標	学生は、各教員独自の美術論を通して絵画制作に関する専門的な基礎知識（絵画制作学・絵画材料学・絵画技術学）を習得し、そして現代美術の動向を踏まえた美術の表現活動のあり方に対する専門的な広い見識を深める。さらに、映像、メディアアート、インスタレーションとしての表現、および展覧会での発表のあり方までをも含む領域の知識、思考にまで踏み込む。		
授業計画	<p>第1回・2回・3回 4月14日、4月21日、4月28日 三浦賢治 絵画における具象的表現およびその絵画空間の問題について、実際の制作や理論の観点から講義する。</p> <p>第4回・5回・6回 5月12日、5月19日、5月26日 大森 啓 現代における絵画的表現の諸相と課題、および可能性について考察する。</p> <p>第7回・8回・9回 6月2日、6月9日、6月16日 高橋治希 昨今の多様な展覧会の有り方から、発表の手法について考察する。</p> <p>第10回・11回 6月23日、6月30日 鈴木浩之 映像、メディアアートについて制作・発表の観点から講義を行う。</p> <p>第12回・13回 7月7日、7月14日 岩崎 純 絵画制作における自らのテーマを表現するにあたり、素材と制作方法の可能性を探求する。</p> <p>第14回・15回 7月21日、7月28日 武田雄介 絵画を中心に様々なメディアを横断する今日の表現のあり方について考察する。</p>		
予習・復習	授業の際に適宜指示する。		
教科書	講義資料プリントを適宜配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	パワーポイント・液晶プロジェクター・スクリーンを使用し、画像、映像を使用する。学生は、ノートと筆記用具を準備する。場合によっては、作図、描画する実習授業を伴うが、その際の用紙は、支給する。その他の教材については適宜指示する。		
履修上の注意	絵画専攻（油画コース）修士課程1年次を対象とした授業である。		
成績評価	<p>質疑応答により評価する。 <判定の基準> [S]各教員の美術論を理解し、専門的な広い見識が特に秀でている [A]各教員の美術論を理解し、専門的な広い見識を深めている [B]各教員の美術論の概要を理解し、専門的な見識を深めている [C]各教員の美術論の概要を理解している</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -06	履修コード	5302Z2
科目名	絵画技法演習	科目英語名	Practices of Painting Technique and Printmaking Techniques
科目区分	絵画専攻（油画コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	前期・後期とも3週連続の集中授業各1回
専攻・年次	絵画専攻（油画コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	油画研究科実習室1 版画印刷室、湯涌創作の森
単位	4	定員	6名程度
担当教員	○三浦賢治・神谷佳男（客員教授）佐藤一郎		
授業概要	<p>前期授業：西欧絵画の原点に立ち戻り、絵画材料、絵画技術の諸問題を絵画技法演習を通して考察する。西欧絵画における、水性（水彩絵具）、エマルジョン（テンペラ絵具）、油性（油絵具）媒剤を併用して、重層的絵画構造を組み立てる方法論を習得すると同時に、現実を自分みずからの眼で把握し、みずからの手で描画する力量の涵養を企てている。</p> <p>後期授業：版画の基本的な四版種のうち、少なくとも三版種の技法を用いた作品制作をおこなう。</p>		
到達目標	<p>前期授業：油画の重層構造を理解し、テンペラ絵具と油絵具を併用する混合技法を通して、「見ること」と「描くこと」の連関によるリプレゼンテーション（再現模倣）を目指す。と同時に、エクスプレッション（自己表現）を目指す。</p> <p>後期授業：絵画技法上の応用展開としての版表現の技法を、高度に理解・習得することを主たる目的とする。</p>		
授業計画	<p>前期 2020年5月24日～6月11日（土・日・祝日を除く）</p> <p>A) 混合技法 三浦賢治 佐藤一郎</p> <p>人体と静物を主としたモチーフの設定を、学生主体で実地する。支持体（木板）、地塗り（白亜地）を自製し、卵テンペラ絵具と油絵具を併用する「混合技法」を四週にわたる実技演習を通して、理解修得する。自己表現を目指しながらも、自らの視覚を通しての「見る行為」と自らの運動としての「描く行為」の連関を探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヤン・ファン・エイクなどのフランドル絵画をスライドにより解説する。 2. 理化学的観点から、「テンペラとはなにか」を解説する。 3. 「支持体」と「地塗り」についての解説と実習授業をおこなう。 4. 混合技法の処方箋の解説と、具体的制作プロセスを解説する。描画材料、描画用具の準備をする。 5. 人体と静物を主としたモチーフの設定をおこない、原寸大素描を制作し、転写する。 6. 下素描、地透層（インプリマトゥーラ）、テンペラ絵具による下層描きを順次おこなう。 7. 油絵具による上層描きをおこない、完成させる。 8. 講評 作品提出 <p>後期 2021年10月1日～10月22日（土・日・祝日を除く15回、但し終日行う授業がある）</p> <p>B) 版表現 神谷佳男</p> <p>初日：版画の四版種の特徴について、歴史的文化的背景を含め解説する。</p> <p>2日目～15日目（～10月22日）：各自のテーマにそって、アルミ板リトグラフ、銅版画制作、木版画、スクリーンプリントの版種の異なる作品制作をおこなう。</p> <p>個々の進捗状況に応じて技術的助言をおこなう。尚、スクリーンプリント制作は、金沢湯涌創作の森のスクリーン工房を利用した終日制作となる。</p>		
予習・復習	<p>前期授業：授業が始まる前に、支持体（木板）、地塗り（白亜地）を自製しておく。また、初日に静物の配置と人物のポーズを、学生全員が出席し話し合い、自主的に決める。写真と文章で、毎日の進行状態を記録する。ワードデータによるフォーマットは事前に配布する。</p> <p>後期授業：授業時間以外の制作を必要とする。</p>		
教科書	<p>前期授業：実習授業をおこなうにあたって、支持体・地塗りの作業工程と、混合技法の処方箋および描画手順のプリント（A4）を配布する。</p> <p>後期授業：銅版画とリトグラフの製版の説明案内（A4）プリント1枚をそれぞれ配布する。</p>		
参考書	<p>前期授業：『マックス・デルナー：絵画技術体系』佐藤一郎翻訳（美術出版社、1980）、『絵画制作入門』佐藤一郎著（東京藝術大学出版会、2014）、『トンプソン教授のテンペラ画の実技』佐藤一郎監訳（三好企画、2005）</p> <p>後期授業：『石版画』阿部浩著、『17世紀フランス銅版画技法の研究』金沢美術工芸大学美術工芸研究所、『世界版画全史』黒崎彰、（阿部出版株式会社、2018）</p>		
教材	<p>前期授業：支持体（ハードボード、美濃紙）、地塗り塗料（白亜、チタニウムホワイト、膠）事前に、学生が共同で購入しておく。テンペラ媒剤、油性媒剤（鶏卵、ダマール樹脂、テレピン油、リンシードスタンドオイル、ヴェネツィアテレピンバルサム）の材料も学生が共同購入す</p>		

	<p>る。パワーポイントによる画像を液晶プロジェクターを使用して、作業工程を説明する。 後期授業：適宜指示する。</p>
履修上の注意	<p>前期授業＋後期授業：原則、絵画専攻（油画コース）修士課程1年次の必修授業である。 後期授業の初日と最終日は必ず出席のこと。</p>
成績評価	<p>混合技法と版表現の二つの評価を統合して評価する。 前期授業：混合技法での評価は以下の通り。 [S]技法・材料に対する知識・技術に習熟し、その成果が作品に特に秀でたレベルで表現されている。 [A]技法・材料に対する知識・技術に習熟し、その成果が作品に高いレベルで表現されている。 [B]技法・材料に対する知識・技術を理解し、その成果が作品に一定レベルで表現されている。 [C]技法・材料に対する知識・技術を学び、その成果が作品にある程度表現されている。</p> <p>後期授業：版表現での評価は以下の通り。 [S]三版種以上の異なる技法を用い、尚且つ優れた発想と高度な技術に裏付けされた表現が見受けられる場合。 [A]三版種のうちのいずれかの作品において、とりわけ優れた発想と高度な技術に裏付けられた版表現が見受けられる場合。 [B]構図、表現力と各版種に相応しい刷り（摺り）の技術が習得され、版表現として一定の評価ができるもの。 [C]60時限の時間内で習得すべき版表現技術が見られる場合。</p> <p>二版種の技法を全て用いて制作すること。版種ごとに作品のテーマや表現内容を変えることは可能。主題との関係や技法修得度も含めて総合的に評価する。全版画作品を最終日に提出すること。</p>

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -07	履修コード	5306Z1
科目名	油画制作（一）	科目英語名	Oil Painting (1)
科目区分	絵画専攻（油画コース）科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	絵画専攻（油画コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	油画研究科実習室1
単位	5	定員	6名
担当教員	○三浦賢治・大森 啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎 純・武田雄介・大谷正幸・荷方邦夫 （非常勤）末松 智・中田耕市・向川惣一		
授業概要	前期授業では自由な発想に基づき、受講者各自の制作研究テーマを定め、制作を進める。後期授業では、進級制作として作品およびレポート（小論文）を課題として提出する。個々の作品提示とプレゼンテーションを伴う講評会（合評会）に受講者全員が参加し、全受講者の研究制作の全体を把握した担当教員全員から研究内容に即した指導を受ける。		
到達目標	古典から現代にいたる国内外作家の作品について研究を深め、21世紀美術に目を向けた研究テーマを発見する。作品を社会へと発信する技術の習得し、その成果を進級制作の完成において示す。		
授業計画	<p>前期 第1週～2週、第6週～12週の期間随時 油画制作（一） 三浦賢治・大森 啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎 純・武田雄介・大谷正幸・荷方邦夫・向川惣一 各自が自由に設定したテーマ、研究計画に沿って作品制作を行う。制作過程を記録し、レポート（小論文）を提出する。</p> <p>随時 理論指導補助 大谷 正幸・荷方 邦夫 作品コンセプトの思索およびレポート（小論文）作成の際に、随伴する自然科学や社会科学などの知見を理論面から指導する。</p> <p>合評会（2回） 油画全教員 課題作品及び自主制作作品を提出し、合評審査を受ける。</p> <p>後期 第17週、第21週～35週の期間随時 油画制作（一）進級制作 三浦賢治・大森 啓・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純・大谷正幸・荷方邦夫・佐藤一郎・末松 智・中田耕市 絵画は100号（162cm×130.3cm）以上3点、（映像の場合は5分以上1点、空間表現は2点）の進級制作を行う。3回の審査を行い、展示する。進級制作テーマ文を提出する。制作過程を記録し、レポート（小論文）を提出する。</p> <p>随時 理論指導補助 大谷 正幸・荷方 邦夫 作品コンセプトの思索およびレポート（小論文）作成の際に、随伴する自然科学や社会科学などの知見を理論面から指導する。</p> <p>随時 美術特別講義 末松 智・向川惣一 日本や西洋美術に関する専門性の高い学術研究や識見に触れ、美術分野に関する広い視野と研究者としてあるべき姿勢を修得する。</p> <p>作品個人指導期間（前期2回、後期1回） 油画全教員 与えられた課題や自主制作の作品について、期間中に各教員から講評・指導を受ける。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>合評会（2回）油画全教員 課題作品及び自主制作作品を提出し、合評審査を受ける。</p>		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価	合評4回、審査3回の各評価機会に合わせ、作品提出、及び、口頭発表を実施し、研究成果を評価する。評価基準は以下の通りである。提出作品等により研究成果を総合的に評価する。 <判定の基準> [S] 研究姿勢も含めた総合的観点において研究結果の作品や成果が特に秀でている [A] 研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められる [B] 提出作品の内容や計画による達成度が予定通り進められていると認められる [C] 研究計画による取り組みや提出作品の内容が満たされている		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M1) -08	履修コード	5402Z1
科目名	油画制作（二）	科目英語名	Oil Painting (2)
科目区分	絵画専攻（油画コース）科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	絵画専攻（油画コース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	油画研究科実習室2
単位	13	定員	6名
担当教員	○三浦賢治・大森 啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎 純・武田雄介・大谷正幸・荷方邦夫 （非常勤）木村克朗・安達博文（客員教授）今井信吾		
授業概要	前期制作、修了制作を通して現代における表現の芸術的思考を深めながら、修了制作の完成に向けて高度な研究制作を行う。個々の作品提示とプレゼンテーションを伴う講評会（合評会）に受講者全員が参加し、全受講者の研究制作の全体を把握した担当教員全員から研究内容に即した指導を受ける。		
到達目標	自己表現の芸術的向上を実現するため、絵画材料と絵画技術の観点から、制作プロセスを明らかにし、現代の視点から制作のコンセプトを構築する。その構想を自ら作品へと導きながら、現代社会へと繋ぐ絵画制作の総合的な能力を修了制作の完成において示す。		
授業計画	<p>前期制作 三浦賢治・大森 啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎 純・武田雄介・大谷正幸・荷方邦夫・今井信吾 学生各自が設定したテーマに沿って3点、映像は1点、空間表現は2点の前期制作を行い、展示する。また修了制作に向けて、テーマ文の作成、エスキース制作を行う。</p> <p>前期制作展示 油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、合評審査を受ける。</p> <p>修了制作 三浦賢治・大森 啓・高橋治希・鈴木浩之・岩崎 純・武田雄介・大谷正幸・荷方邦夫・木村克朗・安達博文 修了制作（絵画2点、映像の場合は1点、空間表現は1点）および修士論文を提出する。3回の修了制作審査が行われる。修了制作展に出品する。 次の教員が上記の制作について実習全体、または個別指導においてそれぞれの観点から指導を行う。 （三浦賢治） 学生各自の思考する絵画観をもとにした制作の方向性について検討、示唆し、修了制作の過程において、助言、指導する。 （大森 啓） 現代に於ける絵画の多様性について示唆し、絵画制作の実技的指導をする。また、修了制作の過程において助言、指導する。 （高橋治希） 場の特性や空間そのものを表現する観点などから、各自の制作上の課題に対し指導をする。また、修了制作の過程において助言、指導をする。 （鈴木浩之） 現代に於ける表現の多様性について示唆し、個々の制作に応じたメディアの特性について指導をする。また、修了制作の過程において助言、指導をする。 （岩崎 純） 絵画制作の実技的指導をする。また、修了制作の過程において助言、指導をする。 （武田雄介） 絵画を始めとする様々なメディアによる制作の実技的指導をする。また、修了制作の過程において助言、指導をする。 （大谷正幸） テーマ文の作成や修了論文について助言、指導する。 （荷方邦夫） テーマ文の作成や修了論文について助言、指導する。 （非常勤 木村克朗） 作家としての視点から、絵画表現の多様性と作家活動の在り方について具体的に研究する授業を行う。 （非常勤 安達博文） 作家としての視点から、絵画表現の可能性と作家活動の在り方について具体的に研究する授業を行う。 （客員教授 今井信吾） 作家としての視点から、絵画表現の可能性と作家活動の在り方について具体的に研究する授業を行う。前期制作について学生へ個別に助言、指導を行い、修了制作への方向性について示唆する。</p> <p>合評会</p>		

	<p>油画全教員 課題作品、自主制作、修了制作作品を提出し、合評審査を受ける。</p>
予習・復習	<p>課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。</p>
教科書	<p>プリントを配付する。</p>
参考書	<p>適宜指示する。</p>
教材	<p>適宜指示する。</p>
履修上の注意	<p>授業の際に適宜指示する。</p>
成績評価	<p>合評4回、審査4回の各評価機会に合わせ、作品提出および口頭発表を実施し、研究成果を評価する。評価基準は以下の通りである。 提出作品および修了論文等により研究成果を総合的に評価する。 <判定の基準> [S] 研究姿勢も含めた総合的観点において研究結果の作品や成果が特に秀でている [A] 研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められる [B] 提出作品の内容や計画による達成度が予定通り進められていると認められる [C] 研究計画による取り組みや提出作品の内容が満たされている</p>

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M2) -01	履修コード	5403Z1
科目名	彫刻特論	科目英語名	Studies on Sculpture
科目区分	彫刻専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	彫刻専攻各研究室他
単位	2	定員	4名
担当教員	○土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子（非常勤）未定		
授業概要	各教員がそれぞれの彫刻表現、美術理論に関する講義を行い、その歴史や理論を学ぶ。講義学習の成果を個々の制作論として展開し発表する。さらに教員および学生間の議論を通してその深化を図る。また、現代作家を随時招聘し討論を通して各自の造形観を深める。		
到達目標	彫刻を中心とした造形芸術に対して多様な考察を加え、各自の研究に於ける造形観を理論面から構築する。発表能力を高めるとともに、その成果を制作活動にフィードバックさせる。		
授業計画	<p>造形論① 石田 「具象表現を中心に彫刻史を概観し、『自己を表現すること』について考察する。」</p> <p>造形論② 土井 「彫刻の可能性を広げる制作と発表活動について実践を通して考察する。」</p> <p>造形論③ 浜田 「素材の特性と制作課程をふまえた各自の制作論から作品発表までを考察する。」</p> <p>造形論④ 芝山 「彫刻とは何か。ロザリンド・クラウスから考える。」</p> <p>造形論⑤ 津田 「現代における表現活動の構想について共に考え実制作につなげる」</p> <p>作家論 上記の授業以外に現在活躍中の作家を随時招聘し講義を行う、その専門性や独自の造形観、表現観を通して、各自の表現と技法の関係性を再考する機会とする。（年間5名を予定）</p>		
予習・復習	各授業において与えられたテーマに基づいてレポートを作成する。講義終了後は授業での討論を振り返り、事後研究を行うこと。その他、授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	造形論の日程、事前学習、参考資料等については適宜指示する。		
成績評価	<p>各課題レポート、研究報告、プレゼンテーション等を総合的に評価する。</p> <p>[S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。</p> <p>[A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。</p> <p>[B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。</p> <p>[C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M2) -02	履修コード	5312Z1
科目名	彫刻技法演習	科目英語名	Practice of Sculpture Technique
科目区分	彫刻専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	彫刻専攻各実習室
単位	4	定員	4名
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子（客員教授）岩間弘		
授業概要	各自の制作活動や表現に応じて教員が分担して指導を行い、専門的な技法の習得を目指す。		
到達目標	専任教員や現代作家の経験を通じた指導および助言等から、自身の制作を振り返り、各自の表現に応じた高度な技法を習得する。		
授業計画	<p>専任教員は学生の表現活動に応じて表現および素材の専門性から、下記の通り分担して指導を行う。</p> <p>（石田教授） 木材加工技法および石膏・樹脂成型技法等について専門的な指導を行う。 （土井教授） 塑造、テラコッタ、ブロンズ成型技法等について専門的な指導を行う。 （芝山准教授） 石材加工技法および複合的表現技法についての専門的な指導を行う。 （浜田准教授） 金属加工技法等について専門的な指導を行う。 （津田准教授） 作品の構想とメディウムの関係を中心に専門的な指導を行う。</p> <p>「彫刻制作（一）」「環境彫刻（一）」の課題制作に先立ち各自の制作計画を立て、それぞれに必要な技法について研究を行い、各担当教員から専門的助言を得て、その深化を図る。また、制作の過程で生じた技法的課題について解決の方法を探る。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	制作に関わる実費については自己負担（授業内で指示）。		
成績評価	<p>各課題レポート、研究報告、プレゼンテーション等を総合的に評価する。</p> <p>[S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。</p> <p>[A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。</p> <p>[B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。</p> <p>[C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M2) -03	履修コード	5313Z1
科目名	彫刻制作（一）	科目英語名	Sculpture Work (1)
科目区分	彫刻専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	彫刻専攻各実習室
単位	5	定員	4名
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子（客員教授）宮永愛子		
授業概要	各自の研究テーマを明確にして、基本となる表現素材の選択を行う。各種の表現技法と現代芸術とのかかわりを考察し、各自の造形理論を深め研究制作を行う。		
到達目標	各自の造形観をもとに、現代社会に即応する自己の表現を主体的に行う。		
授業計画	<p>修士課程2年間を見通した各自の研究テーマを基に、前・後期各1課題を設定する。半期毎の制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、各教員とのディスカッションを通して作品の深化を図る。</p> <p>主となる課題制作の他に造形や表現の多様性の研究を行い、着想や発想の柔軟性を養う。</p> <p>実習の担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。</p> <p>（石田教授） 木彫および塑造、石膏、合成樹脂成型等を中心に指導する。 （土井教授） 塑造、テラコッタ、鋳造等を中心に指導する。 （浜田准教授） 金属彫刻を中心に指導する。 （芝山准教授） 石彫および複合的技法を中心に指導する。 （津田准教授） 作品の構想とメディアムの関係を中心に指導する。 （宮永客員教授） 彫刻表現の現代的展開について総合的な指導を行う。</p> <p>適宜合評会を持ち全教員が多角的な指導、助言を行う。</p> <p>自身の制作を多角的に考察するため、適宜学内展や学外展（個展、グループ展を含む）を行う。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	制作に関わる実費については自己負担（授業内で指示）。		
成績評価	<p>課題制作提出 前・後期各1回 研究報告（レポート）提出 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。 [A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M2) -04	履修コード	5404Z1
科目名	彫刻制作（二）	科目英語名	Sculpture Work (2)
科目区分	彫刻専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	彫刻専攻各実習室
単位	13	定員	4名
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子（客員教授）宮永愛子		
授業概要	古典から現代芸術まで多岐にわたる造形表現の研究を通し、創作の意義の再認識を図り、各自の造形観を重視した制作を行う。前後期各課題における提出作品は修了制作として審査する。		
到達目標	1年次の成果を踏まえ、現代社会に即応する自己の表現を更に発展させる。		
授業計画	<p>彫刻制作（一）での研究成果を基に、2年次での研究課題を設定する。半期毎の制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、各教員とのディスカッションを通して研究テーマの深化を図る。</p> <p>主となる課題制作の他に造形や表現の多様性の研究を行い、着想や発想の柔軟性を更に養う。</p> <p>実習の担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。</p> <p>（石田教授） 木彫および塑造、石膏、合成樹脂成型等を中心に指導する。 （土井教授） 塑造、テラコッタ、鑄造等を中心に指導する。 （浜田准教授） 金属彫刻を中心に指導する。 （芝山准教授） 石彫および複合的技法を中心に指導する。 （津田准教授） 作品の構想とメディウムの関係を中心に指導する。 （宮永客員教授） 彫刻表現の現代的展開について総合的な指導を行う。</p> <p>適宜合評会を持ち全教員が多角的な指導、助言を行う。</p> <p>自身の制作を多角的に考察するため、適宜学内展や学外展（個展、グループ展を含む）を行う。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	個人購入の物品、材料については授業内で指示。		
履修上の注意	制作に関わる実費については自己負担（授業内で指示）。		
成績評価	<p>課題制作提出 前・後期各1回 研究報告（レポート）提出 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。 [A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M2) -05	履修コード	5314Z1
科目名	環境彫刻（一）	科目英語名	Environmental Sculpture Work (1)
科目区分	彫刻専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	彫刻専攻各実習室
単位	5	定員	4名
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子（客員教授）宮永愛子		
授業概要	各自の研究テーマを明確にして、環境彫刻の基本となる表現素材の選択を行う。現代社会における環境と造形の関係を考察し、各自の造形理論を深め研究制作を行う。		
到達目標	学部での研究成果を生かし、現代社会に即応する自己の表現を主体的に行う。		
授業計画	<p>修士課程2年間を見通した各自の研究テーマを基に、前・後期各1課題を設定する。半期毎の制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、各教員とのディスカッションを通して作品の深化を図る。</p> <p>主となる課題制作の他に造形や表現の多様性の研究を行い、着想や発想の柔軟性を養う。</p> <p>実習の担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。</p> <p>（石田教授） 木材および塑造、石膏、樹脂等を主素材とした制作を中心に指導する。 （土井教授） 塑造、ブロンズ、テラコッタ等を主素材とした制作を中心に指導する。 （浜田准教授） 金属を主素材とした制作を中心に指導する。 （芝山准教授） 石彫および複合的技法について指導を行う。 （津田准教授） 作品の構想とメディウムの関係を中心に指導する。 （宮永客員教授） 彫刻表現の現代的展開について総合的な指導を行う。</p> <p>適宜合評会を持ち全教員が多角的な指導、助言を行う。</p> <p>自身の制作を多角的に考察するため、適宜学内展や学外展（個展、グループ展を含む）を行う。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるように研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	制作に関わる実費については自己負担（授業内で指示）。		
成績評価	<p>課題制作提出 前・後期各1回 研究報告（レポート）提出 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。 [A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M2) -06	履修コード	5405Z1
科目名	環境彫刻（二）	科目英語名	Environmental Sculpture Work (2)
科目区分	彫刻専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	彫刻専攻各実習室
単位	13	定員	4名
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子（客員教授）宮永愛子		
授業概要	現代芸術のコンセプトや内在する理論の研究を通し、創作の意義の再認識を図り、各自の造形観を重視した制作を行う。前後期各課題における提出作品は修了制作として審査する。		
到達目標	1年次の成果を踏まえ、現代社会に即応する自己の表現を更に発展させる。		
授業計画	<p>環境彫刻（一）での研究成果を基に、2年次での研究課題を設定する。半期毎の制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、各教員とのディスカッションを通して研究テーマの深化を図る。</p> <p>主となる課題制作の他に造形や表現の多様性の研究を行い、着想や発想の柔軟性を更に養う。</p> <p>実習の担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。</p> <p>（石田教授） 木材および塑造、石膏、樹脂等を主素材とした制作を中心に指導する。 （土井教授） 塑造、ブロンズ、テラコッタ等を主素材とした制作を中心に指導する。 （浜田准教授） 金属を主素材とした制作を中心に指導する。 （芝山准教授） 石彫および複合的技法について指導を行う。 （津田准教授） 作品の構想とメディウムの関係を中心に指導する。 （宮永客員教授） 彫刻表現の現代的展開について総合的な指導を行う。</p> <p>適宜合評会を持ち全教員が多角的な指導、助言を行う。</p> <p>自身の制作を多角的に考察するため、適宜学内展や学外展（個展、グループ展を含む）を行う。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	個人購入の物品、材料については授業内で指示。		
履修上の注意	制作に関わる実費については自己負担（授業内で指示）。		
成績評価	<p>課題制作提出 前・後期各1回 研究報告（レポート）提出 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。 [A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -01	履修コード	5406Z1
科目名	芸術学特論（一）	科目英語名	Studies on Aesthetics & Art (1)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	美学・芸術学演習室
単位	4	定員	4名
担当教員	○保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・未定（客員教授）松崎照明（非常勤）木下直之・未定		
授業概要	各領域の教員および非常勤教員の専門分野において、修士課程の研究の指針となる方法論を学ぶ。		
到達目標	美術品の調査や研究の糸口となる方法を実践的に学び、さまざまな分野の研究に応用できる普遍的能力を養う。		
授業計画	<p>5名の教員のオムニバス形式で講義を行なう。</p> <p>(A 神谷) アブラアム・ポスの「銅版画技法書」を中心に論じる。</p> <p>(B 保井) 西洋近世の美術における諸問題を論じる。</p> <p>(C 菊池) 近現代工芸や視覚文化の諸問題について論じる。</p> <p>(D 水野) 日本・東洋の宗教美術を中心に論じる。</p> <p>(E 未定)</p> <p>[通年集中：小林頼子・木下直之]</p> <p>1. オランダ美術をとりあげながら、美術史の様々な方法論について講義する（小林）。</p> <p>2. 美術史研究における個別の問題をより広い芸術学的見地から論じる（木下）。</p> <p>※各テーマにおいて受講生は積極的に意見を述べ討論することが求められる。</p>		
予習・復習	毎回設けたテーマに沿った予習・復習が必要。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配布プリント、プロジェクター		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>授業への参加度とレポートとを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の独自の見解を述べる事ができた。加えて、課題を発展させる新たな問題意識を持つ事ができた。</p> <p>[A] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の独自の見解を述べる事ができた。</p> <p>[B] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の見解を述べる事ができた。</p> <p>[C] 各テーマの課題が理解できた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -02	履修コード	5407Z1
科目名	芸術学特論（二）	科目英語名	Studies on Aesthetics & Art (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度	R2～	毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	美学・芸術学演習室
単位	4	定員	4名
担当教員	○保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・未定（客員教授）小林頼子・松崎照明		
授業概要	各領域の教員および非常勤教員の専門分野において、修士課程の研究の指針となる方法論を学ぶ。		
到達目標	美術品の調査・研究の糸口となる方法を実践的に学び、さまざまな分野の研究に応用できる普遍的能力を養う。		
授業計画	<p>芸術学特論（一）と合同で講義を行うが、本講義の履修者は、芸術学特論（一）の履修者よりも一層高度な理解が求められる。</p> <p>5名の教員のオムニバス形式で講義を行なう。</p> <p>(A 神谷) ポスの銅版画技法書の変遷について論じる。</p> <p>(B 保井) 西洋近世の美術における諸問題を論じる。</p> <p>(C 菊池) 近現代工芸や視覚文化の諸問題について論じる。</p> <p>(D 水野) 日本・東洋の宗教美術を中心に論じる。</p> <p>(E 未定)</p> <p>〔通年集中：松崎照明・小林頼子・未定〕</p> <p>1. 日本建築史・建築論における個別の問題を、より広い芸術学的見地から論究する（松崎）。</p> <p>2. オランダ美術をとりあげながら、美術史の様々な方法論について講義する（小林）</p>		
予習・復習	毎回設けたテーマに沿って予習、復習が課せられる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配布プリント、プロジェクター		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>授業への参加度とレポートとを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の独自の見解を述べる事ができた。加えて、課題を発展させる新たな問題意識を持つ事ができた。</p> <p>[A] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の独自の見解を述べる事ができた。</p> <p>[B] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の見解を述べる事ができた。</p> <p>[C] 各テーマの課題が理解できた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -03	履修コード	540722
科目名	芸術学特論（二）	科目英語名	Studies on Aesthetics & Art (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	～R1	毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	美学・芸術学演習室
単位	2	定員	4名
担当教員	○保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・未定（客員教授）小林頼子・松崎照明		
授業概要	各領域の教員および非常勤教員の専門分野において、修士課程の研究の指針となる方法論を学ぶ。		
到達目標	美術品の調査・研究の糸口となる方法を実践的に学び、さまざまな分野の研究に応用できる普遍的な能力を養う。		
授業計画	<p>芸術学特論（一）と合同で講義を行うが、本講義の履修者は、芸術学特論（一）の履修者よりも一層高度な理解が求められる。</p> <p>5名の教員のオムニバス形式で講義を行なう。</p> <p>(A 神谷) ポスの銅版画技法書の変遷について論じる。</p> <p>(B 保井) 西洋近世の美術における諸問題を論じる。</p> <p>(C 菊池) 近現代工芸や視覚文化の諸問題について論じる。</p> <p>(D 水野) 日本・東洋の宗教美術を中心に論じる。</p> <p>(E 未定)</p> <p>〔通年集中：松崎照明・小林頼子・未定〕</p> <p>1. 日本建築史・建築論における個別の問題を、より広い芸術学的見地から論究する（松崎）。</p> <p>2. オランダ美術をとりあげながら、美術史の様々な方法論について講義する（小林）</p>		
予習・復習	毎回設けたテーマに沿って予習、復習が課せられる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配布プリント、プロジェクター		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>授業への参加度とレポートとを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の独自の見解を述べる事ができた。加えて、課題を発展させる新たな問題意識を持つ事ができた。</p> <p>[A] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の独自の見解を述べる事ができた。</p> <p>[B] 各テーマの課題がよく理解でき、自身の見解を述べる事ができた。</p> <p>[C] 各テーマの課題が理解できた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -04	履修コード	5408Z1
科目名	美術技法研究	科目英語名	Studies on Art Technique
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	前期：月曜5～8限 後期：金曜5～8限
履修区分	必修	教室	絵画技法材料実習室
単位	2	定員	4名
担当教員	○三浦賢治・高橋治希・武田雄介		
授業概要	西洋美術における伝統的な美の規範について、石膏デッサンと伝統的油彩画技法のカマイユを実際に制作することで、その美しさと技法の特性について理解を深める。		
到達目標	デッサンと油彩用具の素材としての特性を理解し、よりその表現としての美しさについて認識する。また制作者の立場からの作品鑑賞の視点をすることで、より深く作品について検証する能力を習得する。		
授業計画	<p>1. 石膏デッサン（前期4月12日、19日、26日、6月28日、7月5日、12日、19日、26日）※日程の変更がある場合は随時連絡する。 高橋治希・武田雄介</p> <p>胸像石膏の観察描写を通じて、西洋美術における伝統的な美の規範を学ぶと同時に、素描道具の特性について理解し、その使用方法を習得する。</p> <p>第1日 概説・演習日程・授業準備</p> <p>第2日～4日（3日間） 石膏胸像等木炭デッサン 個別指導・提出</p> <p>第5日～7日（3日間） 石膏胸像等木炭デッサン 個別指導・提出・合評</p> <p>学生準備（デッサン用具等）</p> <p>2. カマイユ（10月1日、8日、15日、22日、29日、11月5日、12日）※日程の変更がある場合は随時連絡する。 三浦賢治</p> <p>カマイユの成り立ちについての説明を通じて、油彩画技術の歴史を学ぶ。カマイユを参考にしながら絵画の重層構造やマチエールについての理解を深める。</p> <p>第1日 概説・演習日程・授業準備（モチーフ設置）・デッサン</p> <p>第2日～3日（2日間） パースペクティブによる下層描き</p> <p>第4日～6日（3日間） シルバーホワイト、イエローオーカーを加えた描画</p> <p>第7日～8日（2日間） 細部の描画・完成・提出</p> <p>学生準備（キャンバス・油彩用具等）</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スライド		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>個々の課題の到達度および授業参加への態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 西洋美術における伝統的な美の規範について深く理解した上で、その知識を作品の論評に活かせる秀でたレベルに到達している。</p> <p>[A] 西洋美術における伝統的な美の規範について深く理解した上で、その知識を作品の論評に活かせるレベルに到達している。</p> <p>[B] 西洋美術における伝統的な美の規範について深く理解した上で、その知識を作品鑑賞に活かせるレベルに到達している。</p> <p>[C] 西洋美術における伝統的な美の規範について理解した上で、一定の知識を得ている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -05	履修コード	5409Z1
科目名	美学演習（一）	科目英語名	Seminar of Aesthetics (1)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	2	定員	4名
担当教員	山本浩貴		
授業概要	美学と現代美術に関する英文テキストの購読。		
到達目標	英文テキストの読解を通して、現代美術を美学的・哲学的に理解する能力を養う。		
授業計画	<p>本演習では、美学と現代美術に関して論じられた近年の文献を取り上げ、参加者とともに精読する。使用するテキストは、受講者とも相談しながら、受講者の関心に合わせて決定する。</p> <p>前期・後期ともに、毎回担当を割り振り精読する。ただし、比較的平明なテキストの場合、大きなまとめ（章、節）を要約し、レジユメの形式による紹介・発表を求めることもある。</p>		
予習・復習	十分に予習・復習をすること。		
教科書	特になし。テキストはコピーを配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	開講曜日・時限は受講生と調整のうえ決定する。		
成績評価	<p>授業への参加度（50%）、レポート提出 年2回（50%）</p> <p>[S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -06	履修コード	5410Z1
科目名	美学演習（二）	科目英語名	Seminar of Aesthetics（2）
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	10	定員	4名
担当教員	山本浩貴		
授業概要	美学の研究領域における修了研究を指導し、履修者が各自の研究テーマに関する修士論文を執筆するための専門的な指導を行なう。		
到達目標	修士論文を執筆することにより、今後専門的な研究者として自立し、より高度な調査・研究を継続していくための能力を身につける。		
授業計画	<p>[前期]</p> <p>各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行ない、文献などの基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに、実地調査も可能なかぎり試みる。7月に行われる第2回中間報告会での発表と質疑応答を通して、指導教員はもとより、他の教員からの指導や意見を求め、調査・研究をさらに進めていく。なお、夏期休業期間にも適宜指導日を設ける。</p> <p>第1週～第5週 研究テーマとその内容の明確化 第6週～第10週 基礎文献・資料の収集および作品調査 第11週～第15週 第1回中間報告会での発表の事前・事後指導</p> <p>[後期]</p> <p>修士論文として設定した研究テーマとその内容について検討を加えつつ、必要な資料を加えながら論文の構成を定め、考察の内容を充実させていく。10月に行われる第3回中間報告会での発表と質疑応答を通して、調査・研究の方向性や進捗状況を確認するとともに、12月下旬の論文提出に向けて執筆を進める。修士論文に関する口頭試問は1月上旬に行い、その後に修論報告会のための指導も行う。</p> <p>第16週～第20週 第2回中間報告会での発表の事前・事後指導 第21週～第25週 調査・研究資料の充実と考察の深化 第26週～第30週 修士論文の完成と口頭試問、および修論報告会のための指導</p>		
予習・復習	毎回の指導を受けるための調査・研究を怠らないこと。指導を踏まえて調査・研究の内容の充実に努めること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	開講曜日・時限は受講生と調整のうえ決定する。		
成績評価	<p>中間発表3回（5月、7月、10月）および定期的な研究報告40%、修士論文60%</p> <p>[S] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、国内外の学術レベルにおいてすぐれた成果をあげている。</p> <p>[A] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。</p> <p>[B] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。</p> <p>[C] テーマについての専門的な調査・研究がなされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -07	履修コード	5411Z1
科目名	日本美術史演習（一）	科目英語名	Seminar of Japanese Art History (1)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	芸術学文献演習室
単位	2	定員	4名
担当教員	菊池裕子・水野さや		
授業概要	本演習は前期授業（担当：菊池）と後期授業（担当：水野）により構成される。前期・後期において別の素材を用い、異なる観点から日本美術の諸要素に迫り、かつ、東洋・西洋美術の動向にも適宜眼を向けることにより、より汎用性の高い日本美術の理解を目指す。		
到達目標	日本における美術の諸相について、自らテーマ設定、問題提起を行い、研究を進めることができる能力を身に付ける。		
授業計画	<p>■前期（担当：菊池） 受講者各自がその関心に応じて日本美術・視覚文化史上のテーマを選択し、文献を読み、作品画像を収集する。前期のうちに口頭発表を2回程度行い、研究方法等の指導と受講者同士に質疑応答により、知識と議論を深める。</p> <p>■後期（担当：水野） 日本美術に関する論著をテキストとし、講読する。それを踏まえ、日本美術の諸相から自らの関心・目的に応じて調査対象を設定し、作品および史料の検索、収集と分析などを通して研究を深め、その成果をプレゼンテーション（口頭発表およびレポート）する。なお、テキストは受講生の関心に応じて決定する。</p>		
予習・復習	予習・復習 毎回の授業に備え、時間外に調査・研究を行う必要がある。		
教科書	特になし		
参考書	受講生の研究テーマを踏まえ、適宜指示する。		
教材	前期：デジタルで資料を配布する。 後期：配付資料を用意する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価	<p>[S] 極めて高い意識を持って関連する基礎文献の調査・研究を事前に行い、テキストの読解に留まらず、発展的かつ積極的に自身の研究へと展開させようとする意欲も高い。</p> <p>[A] 関連する基礎文献の集約に留まらず、周辺領域にも積極的に事前調査におよび、テキストの内容を十分に読解している。</p> <p>[B] 関連する基礎文献に当たるなどの必要な準備を十分行い、テキストの内容を読解している。</p> <p>[C] 必要な基礎情報の集約は十分とはいえないが、テキストの内容をおおよそは読解している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -08	履修コード	541221
科目名	日本美術史演習（二）	科目英語名	Seminar of Japanese Art History (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	美学・芸術学演習室
単位	10	定員	4名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	日本美術史の研究領域における修了研究を指導し、履修者が各自の研究テーマに関する修士論文を執筆するための専門的な指導を行う。		
到達目標	修士論文を執筆することにより、今後専門的な研究者として自立し、より高度な調査・研究を継続して行くための能力と自信を身につける。		
授業計画	<p>毎週の授業は、日本美術史演習（一）と合同で行うが、2年次の日本美術史演習（二）受講生には、年間を通じて個別指導を行う。5月・7月の第1回・第2回中間報告会、10月の第3回中間報告会での口頭発表を経た後、12月下旬に論文提出が求められる。</p> <p>■毎週の授業 [前期] (1)～(10) 近代・現代における日本美術の状況を概観することを通じて、芸術学的研究への糸口を探り、各自の研究テーマを明確にし、深化させていく。 (6)～(15) 各自の問題の抽出、研究テーマの明確化についての再検討を図る。口頭発表と受講生同士による質疑応答等を通じて、知識と議論を深める。 [後期] レポート、修士研究のため、各自の問題意識を深化させる。</p> <p>■個別指導等 [前期] 各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに実地調査も可能な限り試みる。5月・7月に行われる第1回・第2回中間報告会での発表と質疑応答を通して、指導教員はもとより他の教員や聴講した学生からの指導や意見を求め、調査・研究をさらに進めて行く。なお、夏期休業期間にも適宜指導日を設ける。 第1週～第5週 研究テーマとその内容の明確化 第6週～第10週 基礎資料の収集と作品調査 第11週～第15週 第2回中間報告会での発表の事前・事後指導 [後期] 修士論文として設定した研究テーマとその内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を加えながら論文の構成等を定め、考察の内容を充実させて行く。10月に行われる第3回中間報告会での発表と質疑応答を通して、調査・研究の方向性や進捗状況を確認するとともに、さらに考察を深め、12月下旬の論文提出に向けて執筆を進める。修士論文に関する口頭試問は1月上旬に行い、その後修論報告会のための指導も行う。 第16週～第20週 第3回中間報告会での発表の事前・事後指導 第21週～第25週 調査・研究資料の充実と考察の深化 第26週～第30週 修士論文の完成と口頭試問、および修論報告会のための指導</p>		
予習・復習	毎週の授業においては発表の準備を十分に行うことが必要。また毎回の個別指導を受けるための調査・研究を怠らないこと。指導を踏まえて調査・研究の内容の充実に努めること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	指導日および指導時間帯の設定を指導教員とよく相談して決めること。		
成績評価	<p>中間発表3回（5月、7月、10月）および定期的な研究報告40% 修士論文60%</p> <p>[S] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、国内外の学術レベルにおいてすぐれた成果をあげている。</p> <p>[A] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。</p> <p>[B] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。</p> <p>[C] テーマについての専門的な調査・研究がなされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -09	履修コード	5413Z1
科目名	東洋美術史演習（一）	科目英語名	Seminar of Asian Art History (1)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	芸術学文献演習室
単位	2	定員	4名
担当教員	水野さや		
授業概要	漢文講読を行う。白文の読み下しにとどまらず、著述内容に関連する事項について調査を行い、東洋における美術観の理解を目指す。		
到達目標	①漢文読解力の向上 ②東洋の美術観を支えてきた諸要素の理解の向上		
授業計画	<p>〔使用テキスト〕 文震亨『長物志』（『四庫全書』第872冊 子部178 雑家類）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白文の読み下し ・著述内容に関連する調査 歴史的背景、作品（書・画）、書家・画家など <p>〔注意事項〕 開講時間は、受講生との調整により決定する。 受講生の研究内容の専門性を踏まえ、テキストを変更する可能性もある。</p>		
予習・復習	毎回の授業に備え、時間外に予習・調査を行う必要がある。		
教科書	特になし		
参考書	各自の研究テーマをふまえ、適宜指示する。		
教材	テキストは初回授業開始前に開示する。あらかじめ教員が指示した手順に従い、受講生各自がダウンロードして入手する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価	<p>[S] 極めて高い意識を持って関連する基礎文献の調査・研究を事前に行い、テキストの読解に留まらず、発展的かつ積極的に自身の研究へと展開させようとする意欲も高い。</p> <p>[A] 関連する基礎文献の集約に留まらず、周辺領域にも積極的に事前調査におよび、テキストの内容を十分に読解している。</p> <p>[B] 関連する基礎文献に当たるなどの必要な準備を十分行い、テキストの内容を読解している。</p> <p>[C] 必要な基礎情報の集約は十分とはいえないが、テキストの内容をおおよそは読解している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -10	履修コード	5414Z1
科目名	東洋美術史演習（二）	科目英語名	Seminar of Asian Art History (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	R2～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	10	定員	4名
担当教員	水野さや		
授業概要	東洋美術史領域において修士論文作成を目指す履修者に対し、研究の遂行および論文の作成に関する継続的な指導を行う。		
到達目標	修士論文を執筆することにより、今後専門的な研究者として自立し、より高度な調査・研究を継続して行くための能力を身に付ける。		
授業計画	<p>■前期 各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに、実地調査も可能な限り試みる。5月と7月に行われる中間発表での質疑応答を通して、進捗状況と問題点を確認し、調査・研究をさらに進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の作成 研究目的・方向性の具体化 ・関連資料（作品および文献）の検索と所在の確認 ・関連資料（作品および文献）実地調査に向けての必要な事前手続、書類などの作成 ・研究テーマの明確化 第1回中間発表に向けての準備 ・第1回中間発表 ・第1回中間発表における質疑・応答を踏まえ、テーマと研究の方向性の再調整 ・資料収集・調査 ・資料収集および作品調査 章立（案）と結論（見通し）の作成 ・資料収集および作品調査 第2回中間発表に向けての準備 ・第2回中間発表 ・第2回中間発表における質疑・応答を踏まえ、章立と結論（見通し）の再検討 <p>■後期 修士論文として設定した研究テーマとその内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を随時加えながら論文構成を確定し、考察の内容を充実させる。10月に行われる第3回中間発表での質疑応答を通して、進捗状況を確認するとともに、調査・研究の考察内容をさらに深め、論文提出に向けて執筆を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期および夏期休業中の調査・研究成果の報告 後期研究計画の調整 ・第3回中間発表に向けての準備 ・第3回中間発表 ・第3回中間発表における質疑・応答を踏まえ、章立と結論の再調整 ・資料調査および調査データの分析および執筆作業 ・執筆作業 新たに必要が生じた関連資料の再収集と調査 図版・表など添付資料の作成 提出前の最終調整 装幀など ・論文提出後、口頭試問に向けての準備 ・口頭試問 ・21世紀美術館における修了制作展に向けて、展示用パネルなどの作成 ・21世紀美術館における修士論文報告会に向けての準備 		
予習・復習	毎回の指導を受けるための調査・研究を怠らないこと。 指導を踏まえて調査・研究の内容の充実に努めること。		
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	指導日および指導時間帯の設定を指導教官とよく相談して決めること。		
成績評価	中間発表3回（5月、7月、10月）および定期的な研究報告40% 修士論文60% [S]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、国内外の学術レベルにおいてすぐれた成果をあげている。 [A]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。 [B]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。 [C]テーマについての専門的な調査・研究がなされている。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -11	履修コード	5414Z2
科目名	東洋美術史演習（二）	科目英語名	Seminar of Asian Art History (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	～R1	毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	12	定員	4名
担当教員	水野さや		
授業概要	東洋美術史領域において修士論文作成を目指す履修者に対し、研究の遂行および論文の作成に関する継続的な指導を行う。		
到達目標	修士論文を執筆することにより、今後専門的な研究者として自立し、より高度な調査・研究を継続して行くための能力を身に付ける。		
授業計画	<p>■前期 各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに、実地調査も可能な限り試みる。5月と7月に行われる中間発表での質疑応答を通して、進捗状況と問題点を確認し、調査・研究をさらに進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画の作成 研究目的・方向性の具体化 ・関連資料（作品および文献）の検索と所在の確認 ・関連資料（作品および文献）実地調査に向けての必要な事前手続、書類などの作成 ・研究テーマの明確化 第1回中間発表に向けての準備 ・第1回中間発表 ・第1回中間発表における質疑・応答を踏まえ、テーマと研究の方向性の再調整 ・資料収集・調査 ・資料収集および作品調査 章立（案）と結論（見通し）の作成 ・資料収集および作品調査 第2回中間発表に向けての準備 ・第2回中間発表 ・第2回中間発表における質疑・応答を踏まえ、章立と結論（見通し）の再検討 <p>■後期 修士論文として設定した研究テーマとその内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を随時加えながら論文構成を確定し、考察の内容を充実させる。10月に行われる第3回中間発表での質疑応答を通して、進捗状況を確認するとともに、調査・研究の考察内容をさらに深め、論文提出に向けて執筆を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期および夏期休業中の調査・研究成果の報告 後期研究計画の調整 ・第3回中間発表に向けての準備 ・第3回中間発表 ・第3回中間発表における質疑・応答を踏まえ、章立と結論の再調整 ・資料調査および調査データの分析および執筆作業 ・執筆作業 新たに必要が生じた関連資料の再収集と調査 図版・表など添付資料の作成 提出前の最終調整 装幀など ・論文提出後、口頭試問に向けての準備 ・口頭試問 ・21世紀美術館における修了制作展に向けて、展示用パネルなどの作成 ・21世紀美術館における修士論文報告会に向けての準備 		
予習・復習	毎回の指導を受けるための調査・研究を怠らないこと。 指導を踏まえて調査・研究の内容の充実に努めること。		
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	指導日および指導時間帯の設定を指導教官とよく相談して決めること。		
成績評価	中間発表3回（5月、7月、10月）および定期的な研究報告40% 修士論文60% [S]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、国内外の学術レベルにおいてすぐれた成果をあげている。 [A]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。 [B]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。 [C]テーマについての専門的な調査・研究がなされている。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -12	履修コード	5415Z1
科目名	西洋美術史演習（一）	科目英語名	Seminar of Western Art History (1)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	美学・芸術学演習室
単位	2	定員	4名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	修士論文作成に向けての基盤として、問題点を明らかにして深化させるための予備的演習。		
到達目標	学部レベルの論文作成能力を基礎に、テーマ設定、作品分析力、史料収集能力をさらにに高度にする。		
授業計画	<p>[前期] 修士課程における研究テーマを見出すために、原典・史料および先行のすぐれた研究論文を講読・批評することによって、広く西洋美術史の研究方法を学ぶ。必要に応じて、演習内で小発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者と話し合い課題を決定（共通課題） ・基礎資料の収集や、現地での取材調査の方法 ・研究論文の読解（英語） <p>調整期間内に、課題を与える。</p> <p>[後期] 前期で行った研究方法を応用し、各自の研究テーマに沿った課題を設定して、主として研究論文の講読を行う。資料収集を適正に行って理解を深める。必要に応じて演習内で小発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の研究テーマに沿った課題を各自設定 ・基礎資料の収集とディスカッション ・研究論文の読解（英語） 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	テーマ性を常に自覚し、かつ、実作品に即して、学部レベル以上の作品分析を心がけること。		
成績評価	<p>授業への参加度50% 小発表20% 期末レポート30%</p> <p>[S] 研究課題の理解を十分な資料収集によって深め、問題を明確にすると同時にとくに優れた意見をだすことができた。</p> <p>[A] 研究課題の理解を十分な資料収集によって深め、問題を明確にすることができた。</p> <p>[B] 研究課題の理解のために資料収集を行った。</p> <p>[C] 研究課題を理解した。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -13	履修コード	5416Z1
科目名	西洋美術史演習（二）	科目英語名	Seminar of Western Art History (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	10	定員	4名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	西洋美術史の研究領域における修了研究を指導し、履修者が各自の研究テーマに関する修士論文を執筆するための専門的な指導を行う。		
到達目標	修士論文を執筆することにより、今後専門的な研究者として自立し、より高度な調査・研究を継続して行くための能力と自信を身につける。		
授業計画	<p>今年度は該当者はいない。</p> <p>〔前期〕 各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに実地調査も可能な限り試みる。5月に行われる第1回中間報告会、7月に行われる第2回中間報告会での発表と質疑応答を通して、指導教員はもとより他の教員や聴講した学生からの指導や意見を求め、調査・研究をさらに進めて行く。なお、夏期休業期間にも適宜指導日を設ける。</p> <p>第 1 週～第 5 週 研究テーマとその内容の明確化 第 6 週～第 10 週 基礎資料の収集と作品調査 第 11 週～第 15 週 第2回中間報告会での発表の事前・事後指導</p> <p>〔後期〕 修士論文として設定した研究テーマとその内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を加えながら論文の構成等を定め、考察の内容を充実させて行く。10月に行われる第3回中間報告会での発表と質疑応答を通して、調査・研究の方向性や進捗状況を確認するとともに、さらに考察を深め、12月下旬の論文提出に向けて執筆を進める。修士論文に関する口頭試問は1月上旬に行い、その後修論報告会のための指導も行う。</p> <p>第 16 週～第 20 週 第3回中間報告会での発表の事前・事後指導 第 21 週～第 25 週 調査・研究資料の充実と考察の深化 第 26 週～第 30 週 修士論文の完成と口頭試問、および修論報告会のための指導</p>		
予習・復習	毎回の指導を受けるための調査・研究を怠らないこと。指導を踏まえて調査・研究の内容の充実に努めること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	指導日および指導時間帯の設定を指導教官とよく相談して決めること。		
成績評価	<p>中間発表3回（5月、7月、10月）および定期的な研究報告40% 修士論文60%</p> <p>[S] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、国内外の学術レベルにおいてすぐれた成果をあげている。</p> <p>[A] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。</p> <p>[B] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。</p> <p>[C] テーマについての専門的な調査・研究がなされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -14	履修コード	5417Z1
科目名	工芸史演習（一）	科目英語名	Seminar of Craft History (1)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	2	定員	4名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	日本の「工芸」又は「工芸的なもの」をグローバルな視点から幅広く研究する。		
到達目標	日本工芸史研究における様々なテーマを学際的にグローバルに研究する上で、日・英語で書かれた評論を読み解きながら、テーマ、批評の切り口、議論の組み立て方を学び、自分の設定した課題を通して研究手法を習得する。		
授業計画	<p>〔前期〕 受講者各自がその関心に応じて日本工芸史上のテーマを選択し、文献を読み、作品画像を収集する。前期のうちに口頭発表を2回程度行い、研究方法等の指導と受講者同士の質疑応答により、知識と議論を深める。</p> <p>〔後期〕 前期で選択したテーマの研究を、今度は日本を中心として国際的に視野を広げて行う。前期と同様に、文献を読み、作品画像を収集して口頭発表を2回程度行い、研究方法等の指導と受講者同士の質疑応答により、知識と議論を深める。この授業の成果はレポートとしてまとめ、画像データを添えて提出すること。</p>		
予習・復習	発表の準備を充分に行うこと。 発表後は、指摘された事項をふまえ研究を充実させること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	デジタルで資料配布、プロジェクター		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>授業への参加度 30% 口頭発表 30% 学期末レポート 40%</p> <p>[S] 問題テーマを良く理解し、専門的に高度なレベルの文献講読と解釈を行い独自の研究調査に基づき、独自の議論を提示し、論文構成、論理構築が整っており、学界に知識の貢献を提示できる。</p> <p>[A] 問題テーマを良く理解し、専門的にレベルの高い文献講読や独自の研究調査に基づき、独自の議論を提示し、論文構成、論理構築が整っている。</p> <p>[B] 問題テーマを良く理解し、専門的な文献講読や研究調査を行い、議論の輪郭をつかみ、論文構成、論理構築が整っている。</p> <p>[C] 問題テーマを理解し、専門的な文献講読や研究調査をある程度行い、論文構成、論理構築がある程度整っている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M3) -15	履修コード	5418Z1
科目名	工芸史演習（二）	科目英語名	Seminar of Craft History (2)
科目区分	芸術学専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	研究室
単位	10	定員	4名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	工芸史の研究領域における修了研究を指導し、履修者が各自の研究テーマに関する修士論文を執筆するための専門的な指導を行う。		
到達目標	修士論文を執筆することにより、今後専門的な研究者として自立し、より高度な調査・研究を継続して行くための能力と自信を身につける。		
授業計画	<p>毎週の授業は、工芸史演習（一）と合同で行うが、2年次の工芸史演習（二）受講生には、年間を通じて個別指導を行う。5月・7月の第1回・第2回中間報告会、10月の第3回中間報告会での口頭発表を経た後、12月下旬に論文提出が求められる。</p> <p>■毎週の授業 [前期] 受講者各自がその関心に応じて日本工芸史上のテーマを選択し、文献を読み、作品画像を収集する。前期のうちに口頭発表を2回程度行い、研究方法等の指導と受講者同士の質疑応答により、知識と議論を深める。 [後期] 前期で選択したテーマの研究を、今度は日本を中心として国際的に視野を広げて行う。前期と同様に、文献を読み、作品画像を収集して口頭発表を2回程度行い、研究方法等の指導と受講者同士の質疑応答により、知識と議論を深める。この授業の成果はレポートとしてまとめ、画像データを添えて提出すること。</p> <p>■個別指導等 [前期] 各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに実地調査も可能な限り試みる。5月・7月に行われる第1回・第2回中間報告会での発表と質疑応答を通して、指導教員はもとより他の教員や聴講した学生からの指導や意見を求め、調査・研究をさらに進めて行く。なお、夏期休業期間にも適宜指導日を設ける。 第1週～第5週 研究テーマとその内容の明確化 第6週～第10週 基礎資料の収集と作品調査 第11週～第15週 第2回中間報告会での発表の事前・事後指導 [後期] 修士論文として設定した研究テーマとその内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を加えながら論文の構成等を定め、考察の内容を充実させて行く。10月に行われる第3回中間報告会での発表と質疑応答を通して、調査・研究の方向性や進捗状況を確認するとともに、さらに考察を深め、12月下旬の論文提出に向けて執筆を進める。修士論文に関する口頭試問は1月上旬に行い、その後には修論報告会のための指導も行う。 第16週～第20週 第3回中間報告会での発表の事前・事後指導 第21週～第25週 調査・研究資料の充実と考察の深化 第26週～第30週 修士論文の完成と口頭試問、および修論報告会のための指導</p>		
予習・復習	毎週の授業においては発表の準備を十分に行うことが必要。また毎回の個別指導を受けるための調査・研究を怠らないこと。指導を踏まえて調査・研究の内容の充実に努めること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	デジタルで資料配布、プロジェクター		
履修上の注意	指導日および指導時間帯の設定を指導教官とよく相談して決めること。		
成績評価	<p>中間発表3回（5月、7月、10月）および定期的な研究報告40% 修士論文60%</p> <p>[S]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、国内外の学術レベルにおいてすぐれた成果をあげている。 [A]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。 [B]テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。 [C]テーマについての専門的な調査・研究がなされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -01	履修コード	5341Z1
科目名	工芸特論	科目英語名	Studies on Craft Art
科目区分	工芸専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	随時指示する。
単位	2	定員	9名
担当教員	○田中信行・加賀城健・宮永春香・青木千絵・水代達史（客員教授）金子賢治・唐澤昌宏 （非常勤）北澤憲昭 外館和子		
授業概要	現代における工芸は、その表現や解釈が多様化しており、今後益々その傾向が拡大発展する可能性を有している。本講義では多様化する工芸領域を、工芸・造形理論、産業工芸デザイン理論、近現代工芸史などの多角的な視点から考察する。		
到達目標	現代における工芸表現の特質、社会的役割を考察し、各自の研究を展開するための理論の構築をめざす。		
授業計画	<p>◎下記の授業内容を適宜集中による講義形式で行う。</p> <p>工芸・造形理論 ・近代以降の美術・工芸の歴史を概観しつつ、現代における工芸固有の造形的特質及び理論を考察する。</p> <p>近代工芸史・明治から現代にかけての公募展の変遷（日展、日本伝統工芸展、クラフト民芸理論誕生の歴史的背景、展覧会理念や、また文化財保護制度設立から現在にいたるまでを通して、近代以降の工芸制度、工芸をとりまく社会的状況を考察する。</p> <p>工芸デザイン理論 ・技術革新による大きな社会の変革期にあつて、伝統工芸を現代の生活に生かす工芸デザインプロセスを考察する。</p> <p>論文ゼミにおける研究発表と討議、論文提出（宮永、加賀城、水代、青木） ・研究制作を言語化することによって、論理的思考力や客観性を養うことを目的に論文ゼミにおける研究発表や討議（4月～11月中に7回）を行い、下記の内容の論文を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究領域における歴史的考察 2. 作品制作上の工程、技術についての技術的考察 3. 制作論 		
予習・復習	授業に関連する書籍、資料等の十分な調査、研究を要する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	授業への積極的な参加姿勢及び提出された小論文を以下の視点から総合して評価する。 [S]各自の研究における素材、技術に対する考察、歴史的視点、制作の理論的な構築が非常に高度なレベルに到達している。 [A]各自の研究における素材、技術に対する考察、歴史的視点、制作の理論的な構築が高度なレベルに到達している。 [B]各自の研究における素材、技術に対する考察、歴史的視点、制作の理論的な構築が一定のレベルに到達している。 [C]各自の研究における素材、技術に対する考察、歴史的視点、制作の理論的な構築が十分ではない。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -02	履修コード	5342Z1
科目名	地域文化論	科目英語名	Theory of Regional Culture
科目区分	工芸専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	隔週・集中
専攻・年次	工芸専攻1年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	必修	教室	第2教室
単位	2	定員	12名
担当教員	○山村慎哉 桑村佐和子		
授業概要	地域の文化に学問的、体験的に触れる事で、生活文化における工芸の役割を見つめ直し、地域文化の中におけるモノ作りの価値を考える。		
到達目標	伝統文化の中で培われてきた“モノ作り”の本質を捕らえ、伝統としての工芸が持っている意味、現代の工芸に求められる指向について考察する。また地域の文化を構成している工芸、芸能、菓子、醸造などの生活文化から文化とはなにか？についても考え文化意識の向上を目指す。		
授業計画	<p>総論 地域工芸と文化との関わりの中から、工芸文化について述べる。 各論 日常生活に於ける衣、食、住、遊など、地域の文化形成と言う視点から見学・体験会を行い、生活の中にある文化意識を考察する。（山村）</p> <p>地域文化を理解する基礎として、北陸を中心に、自然・歴史と人々の暮らしの関係を概観する。（桑村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義（事前学習）と見学、体験、フィールドワークを交えながら行う。 ・見学・体験会等は学生がグループを組み、見学先との交渉など企画を立てレジュメ等の資料を作成する。また体験授業の前にはそれぞれのグループによるプレゼンテーション授業を行う。 <p>（見学・体験会の日程及び所要時間についてはそれぞれ異なるので、大学の時間割通りに実施は不可能である場合は多く柔軟な対応が必要となる）</p>		
予習・復習	見学会の担当者は事前調査を行いレジュメを作成してメンバーに予習を促す。		
教科書	特になし。		
参考書	先生の授業の形態に応じてレジュメを配布する。 地域の各種刊行物		
教材	学生自身が作成し配布する。（見学会及び体験）		
履修上の注意	今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	<p>作成したレジュメ等の資料の提出と内容の確認、指示された体験学習の参加。 以上の要件の総合点で評価。</p> <p>[S]地域文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察が極めて高度なレベルに到達している。</p> <p>[A]地域文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察が高度なレベルに到達している。</p> <p>[B]地域文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する能力が一定のレベルに到達している。</p> <p>[C]地域文化に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たすことができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -03	履修コード	5344Z1
科目名	陶磁技法演習	科目英語名	Practices of Ceramic Technique
科目区分	工芸専攻（陶磁コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（陶磁コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室他
単位	3	定員	9名
担当教員	○池田晶一・山本健史・宮永春香		
授業概要	自己の設定するテーマにおける陶磁の造形表現の発展的展開のための素材、技法、技術を再解釈し、陶磁素材の用途の拡大と技術を生かした高度な技法の研究と修練を行う。		
到達目標	独自の技法の開発と練磨を通し、独自の表現の開拓に繋がる応用基礎として総合的に探究する。		
授業計画	<p>各自の計画に沿って、陶磁素材に対して技法との関係や表現との関係を中心に、技術の修練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士課程2年間の研究テーマを基に半期ごとの制作計画を具体的に立てる。 ・ 思考の経緯と制作のプロセスを注視しコンセプトを明確にする。 ・ 研究テーマと陶磁技法の関連を考察する。 ・ 表現手段としての技法の適合性を確認、技術力の判断 ・ 造形表現を具現化するための制作工程のバランスのとれた選択。 ・ 不足している基礎的技術を習得し陶表現の完成度を高める。 ・ 伝統技法を含む陶表現技法全般に対する意識の向上。 ・ 表現の多様性の発見と独自の表現を確立させる。 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	研究成果及び研究資料の充実。 今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	<p>自己の研究テーマにおける、実験や制作プロセス、提出作品及び小論文を含めた研究成果について技術・技法の面より総合的に評価する。</p> <p>[S]技術・技法的な面における高い研究成果と主体的な研究姿勢に加え、提出作品における非常に高いレベルの独創性が認められる。</p> <p>[A]技術・技法的な面における高い研究成果と主体的な研究姿勢に加え、提出作品における高いレベルの独創性が認められる。</p> <p>[B]技術・技法的な面における研究成果と主体的な研究姿勢に加え、提出作品における独創性が認められる。</p> <p>[C]研究計画への取り組みや提出作品の内容が満たされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -04	履修コード	5345Z1
科目名	漆・木工技法演習	科目英語名	Practices of Urushi & Wood Technique
科目区分	工芸専攻（漆・木工コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（漆・木工コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆・木工コース諸演習室
単位	3	定員	5名
担当教員	○山村慎哉・田中信行・青木千絵		
授業概要	漆工における髹漆技法、加飾技法、造形技法の高度な技術を学び、各自の研究に活用し具現化する。		
到達目標	漆の素材としての特質の解釈を深め従来にない幅広い効用、可能性に発展させる。また独自の発想、創作法に繋げる応用基礎として総合的に探求する。		
授業計画	<p>髹漆技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塗地、蒔地、本堅地、堅地、本地 ・変塗りおよび特殊加飾技法 <p>加飾技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒔絵、沈金、螺鈿等の高度な加飾法 ・キンマ、存清、彫漆、堆漆、堆錦の工程 <p>造形技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種々の胎の制作法（金属・布・皮・竹・陶・FRPなど） ・複合した素材の胎の考察、研究 <p>髹漆技法、加飾技法、造形技法を把握し、古典技法および応用課題として総合的表現としての提案試作・実験等の研究を提出させる。</p> <p>前期2回、後期2回のコース内研究会を実施</p>		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	日本漆工の研究 日本の漆芸 漆芸品の鑑賞基礎知識 無形文化財記録 蒔絵 無形文化財記録 螺鈿		
参考書	日本の漆芸 高野松山名品集 その他		
教材	漆芸加飾技法（手板） 研究所所蔵品（漆芸分野）		
履修上の注意	日常の制作活動が重要。 また今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	自己の研究テーマを基に実験、制作した作品等を技術・技法的な面より評価する。 [S] 修士課程1年次で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が極めて高いレベルで図ることができた。 [A] 修士課程1年次で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が高いレベルで図ることができた。 [B] 修士課程1年次で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が十分なレベルで図ることができた。 [C] 修士課程1年次で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まった。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -05	履修コード	5346Z1
科目名	金工技法演習	科目英語名	Practices of Metal Work Technique
科目区分	工芸専攻（金工コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（金工コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	3	定員	9名
担当教員	畠山耕治・○原 智・水代達史		
授業概要	金属塑性加工技術の修得		
到達目標	各コースで専門的な鑄造・鍛造・彫金技法を学び修得する。		
授業計画	<p>金属の特性を十分に理解し、それぞれの素材に合った加工技術並びに加工方法を学ぶ。</p> <p>鑄金 畠山 ○各自の計画に沿って、研究を行う 特に技法と素材との関係を重視し、技術の習得に重点が置かれる。</p> <p>鍛金 原 ○鍛造・鍛金・機械加工技術演習を行う 鍛金技法の特性に対して実践的制作を行うことで技術と表現の関係性を再確認する 接合技法・着色技法を含めた加工処理を研究する</p> <p>彫金 水代 ○彫金技法を中心とした表面加飾演習を行う 象嵌技法（線象嵌・布目象嵌・剥ぎ合わせ象嵌・平象嵌等）を用いた制作を行う 金属着色技術を中心とした表面処理を研究する</p>		
予習・復習	十分な予習。復習を要する。詳細については授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金工の着色技法・鍛金の実際・金工の伝統技法・美術鑄物の手法		
教材	参考道具類等		
履修上の注意	研究成果及び研究資料の充実。 今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	<p>演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[S]各自の研究テーマに則り、金属素材を扱うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が特に秀でた高いレベルに到達し表現に反映されている。</p> <p>[A]各自の研究テーマに則り、金属素材を扱うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が高いレベルで表現に結びついている。</p> <p>[B]各自の研究テーマに則り、金属素材を扱うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分に深められている。</p> <p>[C]各自の研究テーマに則り、金属素材を扱うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が認められる。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -06	履修コード	5347Z1
科目名	染織技法演習	科目英語名	Practices of Textile Technique
科目区分	工芸専攻（染織コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（染織コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	3	定員	9名
担当教員	○大高 亨・足立真実・加賀城健		
授業概要	工芸の基本要素である技法・素材・表現、各々への深い理解と調和を図りつつ、自己表現につなげる。		
到達目標	染織を中心とする工芸分野における教養の習得。 より精巧で完成度の高い作品制作のための技法・素材・表現への習熟。		
授業計画	<p>各々の研究テーマに従い、以下のプロセスで専門性に応じた指導を行う。 個々の学生の必要に応じ指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマと技法の適合性の確認及び技術力の判断 2. 個々の専門性における完成度の高い技法と素材の追求 <ol style="list-style-type: none"> a. 各々の技法習熟の確認及び技術力の向上 b. 技法、素材の研究と共に各材料に慣れる c. 技法、素材の応用展開力を身につける 3. 染織品の仕上げ加工技術の習得 (布地の仕上げ、縫製の技術、加工技術の知識等) 4. 素材と技法の複合的活用への試行 5. 世界の染織技法の変遷および類似と差異の理解 6. 日本の染織技法の歴史を意匠表現との関わりにおいて考察する 7. 歴史をふまえた上で、現代の位置を確認しつつ、実験的な作品制作を通じて工芸的視点に立った自己表現への技法を確立して行く。 <p>研究会 4回（前期2回、後期2回）</p> <p>提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料、作品、研究報告資料</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	本年度の授業については、新型コロナウイルス感染の状況により、対面授業を減らしオンライン上でコミュニケーションをとる場合があります。		
成績評価	<p>作品提出および合評2回（前期と後期の学期末） 個々の課題の達成度および積極的な研究態度を総合して評価する。</p> <p>[S]染織作品制作について個々のテーマに適した技法と素材についての研究が行われており、その研究成果が個々の制作物における表現等において大変効果的に活かされており、高いレベルに達している。</p> <p>[A]染織作品制作について個々のテーマに適した技法と素材についての研究が行われており、その研究成果が個々の制作物における表現等において特に効果的に活かされている。</p> <p>[B]染織作品制作について個々のテーマに適した技法と素材についての研究が行われており、その研究成果が個々の制作物における表現等に活かされている。</p> <p>[C]染織作品制作について個々のテーマに適した技法と素材についての研究が行われており、その研究成果が個々の制作物に用いられている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -07	履修コード	5348Z1
科目名	工芸演習（一）陶磁	科目英語名	Practices of Craft (Ceramics) (1)
科目区分	工芸専攻（陶磁コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（陶磁コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室他
単位	4	定員	9名
担当教員	○山本健史・池田晶一・宮永春香		
授業概要	現代社会における工芸作品制作について思考を深め、研究テーマを再確認する。素材や技術を改めて見直し、テーマとの整合性を検証する。さらに素材や技術の発展的な研究を行うことにより独自の表現方法の獲得ができるように模索する。		
到達目標	修了までの期間を見据えて、テーマの確認と作品完成へと至るために必要な準備について主体的に計画すること。 展示空間の在り方を想定し計画すること。 研究テーマについて言語化すること。		
授業計画	<p>各々の研究テーマに従い、ディスカッション等により認識を深めながら指導を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトの確認 ・適切な研究制作計画の策定 ・表現を行うために素材・技術の発展的研究 ・研究内容とその成果に社会性を求める。 <p>上記の項目についてコース内研究会を5月6月7月10月11月12月に実施する。（コース年間授業計画を目安に学生がセッティングする）</p> <p>次の教員が研究内容の専門性に応じ、適時分担指導する。</p> <p>（山本教授） 各自の考え方から具体的な表現を引き出すこと。素材と表現を結びつけるための技術指導を行う。作品と社会とを結びつけるために必要なことについて指導を行う。</p> <p>（池田教授） 各自の研究テーマに即したコンセプトへの助言。作品の技術的側面や表現の可能性、作品と作品がある場との関係性について、理論構築も含めて指導を行う。</p> <p>（宮永准教授） 各自の追及する研究テーマに即し、素材及び技術研究についての指導補佐に加え、研究内容の発展的展開のための理論的考察についての指導を補佐する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する		
教科書	適宜指示する		
参考書	適宜指示する		
教材	適宜指示する		
履修上の注意	研究成果及び研究資料の充実。 今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナ感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	提出作品（前期・後期）と研究報告および授業への主体的な取り組みについて評価を行う [S] 作品制作に必要な素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察、研究作品が特に秀でた高いレベルに到達している [A] 作品制作に必要な素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察、研究作品が高いレベルに到達している [B] 作品制作に必要な素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察、研究作品が十分なレベルに到達している [C] 作品制作に必要な素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察、研究作品が一定のレベルに到達している		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -08	履修コード	5349Z1
科目名	工芸演習（一）漆・木工	科目英語名	Practices of Craft (Urushi & Wood) (1)
科目区分	工芸専攻（漆・木工コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（漆・木工コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆・木工コース諸演習室
単位	4	定員	9名
担当教員	○山村慎哉・田中信行・青木千絵		
授業概要	研究テーマに添って実験した成果をさらに発展させ、発想の幅を広げる。 また修了制作につながる漆の表現の可能性を追及する。 漆と社会をテーマに、産地とのつながりを考えた制作を行う。		
到達目標	研究テーマを基に専門的な技術・技法を習得し幅広い表現力を身につける。 地域と連携することを通して、社会における漆の可能性を考察する視点を養う。		
授業計画	<p>研究テーマに添って各自が年間計画を立て提出する。 制作の基盤となる内容の提案、実験の予定・結果、計画書、過程の解説書等の作成</p> <p>（田中教授） 造形における表現と理論について指導する。 ・造形表現に必要となる素材研究 ・現代における漆造形表現の考察</p> <p>（山村教授） 漆芸全般および加飾技法など装飾と造形について指導する。 ・装飾性の追及（フォルムとの関係） ・テクスチャーとマティエール ・デジタル加工の基礎技術について</p> <p>（青木助教） 漆芸の技法および造形の方策について指導を補佐する。</p> <p>前期 造形と装飾（加飾）の展開について2回～3回のコース内研究会を持ち、それぞれの担当教員が指導する。（1点以上の作品を提出）</p> <p>後期 前期制作を踏まえて各自の研究内容を発展させ、1点以上の作品を提出する。</p> <p>社会と漆 地場産業に漆の産地を抱える地域性を生かし、漆の社会性をテーマに日常における漆器の提案と、実践を踏まえた作品を制作する。（山村教授） 1. 漆器産業の現状把握 2. 現代の生活に合う漆器のプロデュース 3. 3Dなどのデジタル加工にお消える基礎知識を身に付ける。</p>		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	日本漆工の研究 日本の漆芸 漆芸品の鑑賞基礎知識 無形文化財記録 蒔絵 無形文化財記録 螺鈿		
参考書	日本の漆芸 高野松山名品集 その他		
教材	漆芸加飾技法（手板） 研究所所蔵品（漆芸分野）		
履修上の注意	日常の制作活動が重要。 今年度は、作業上学生や教員同士が密にならず適度な距離を保ちながら、制作、授業が行われるように運営することとする。また、授業内容によっては、新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン上でコミュニケーションをとる場合がある。		
成績評価	自己の研究課題を踏まえ実験・制作等を含め総合的に評価する。 前期1点以上、後期1点以上の作品提出 社会と漆の授業では最終的に発表活動を通し社会的な評価を受ける。 研究発表3～4回（随時）の過程、作品・論文（学期末提出）を下記基準に基づいて評価する。 [S]修士課程1年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が極めて高いレベルで図ることができた。 [A]修士課程1年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が高いレベルで図ることができた。 [B]修士課程1年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が図ることができた。 [C]修士課程1年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が十分ではなく、研究制作の深化を図ることができなかった。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -09	履修コード	5350Z1
科目名	工芸演習（一）金工	科目英語名	Practices of Craft (Metal Work) (1)
科目区分	工芸専攻（金工コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（金工コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	4	定員	9名
担当教員	畠山耕治・○原 智・水代達史		
授業概要	自己の研究テーマに則り、金属工芸に於ける表現を中心とした授業。		
到達目標	金属素材の加工法と表現との関係を研究し、制作意識の向上を図る。		
授業計画	<p>実技を通して、技法・道具・材料等を含めた鑄金・彫金・鍛金の専門知識の向上を図り、各自の研究テーマに沿って、年度計画を立てる。 素材と技法、工芸と表現に対する認識を深める為に、様々なアプローチで自身の制作を考える。 金工コースに於いては、彫金・鍛金・鑄金の専門的コースによって成り立っているが、自身の選択以外のコースに対しても積極的に意識を広め、更なる表現の可能性を模索する事が重要であり、表現との具体的な関連を重視した授業を行う。 また近年作品制作に於いて論理的な展開も不可欠であり、制作意図の言語化、論文執筆の為の資料作りなども同時に展開していく。</p> <p>鑄金・彫金・鍛金 ○基礎的な表現要件の再確認 ○表現方法・表現技術に対する考察 ○金属工芸全般に対する意識の向上 ○作品制作 ○研究報告書作成</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細に関しては授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金工の着色技法・鍛金の実際・金工の伝統技法・美術鑄物の手法		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	研究経過をまとめた資料の充実		
成績評価	<p>合評2回（学年末・学期末）課題提出2回（学期末） 研究報告2回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[S]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が特に秀でた高いレベルに到達し表現に反映されている。 [A]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [B]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -10	履修コード	5351Z1
科目名	工芸演習（一）染織	科目英語名	Practices of Craft (Textile) (1)
科目区分	工芸専攻（染織コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（染織コース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	4	定員	9名
担当教員	大高 亨・〇足立真実・加賀城健		
授業概要	個々の研究テーマに基いた個性的な自己表現の確立。 工芸や他領域の多角的な視点から専門性を考察する。		
到達目標	高度で独創的な研究テーマと表現の獲得。 工芸の領域認識に基づいた、制作者としての自己の立脚点の確立。		
授業計画	<p>各々の研究テーマに従い、以下のプロセスで専門性に応じた指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマ及び年間計画書の提出 2. 研究テーマ、年間計画の適正の検討及びカリキュラムの作成 3. 基礎的な表現要件の再確認。 4. 表現材料に幅をもたせる。 （美術工芸以外の分野に多角的に目を向け柔軟な姿勢を養う） 5. 感性的な展開とシステムティックな展開を用いながら、表現の多様性の発見と独自の表現の方向を確立する。 6. 表現の多角的抽出と段階的な試作による表現の充実と制作プロセスの確立。 7. 作品制作 （思考の展開の経緯と、作品制作のプロセスに注視し制作を進行させる） 8. 合評 <p>・研究会4回（4月、7月、10月、1月） ・ビジュアル資料によるゼミナールを適時開催する。</p> <p>以下の教員が各専門に関して指導を行う。 （大高 亨）繊維造形表現、プロダクトテキスタイル、組織を用いた織物表現の指導 （足立真実）織着物、絣織や綴織技法、天然染料の指導 （加賀城健）染色表現全般の指導</p> <p>提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料、作品、研究報告資料</p>		
予習・復習	自身の研究計画に関連する技法や素材に関して常に自学自習に取り組む。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	本年度の授業については、新型コロナウイルス感染の状況により、対面授業を減らしオンライン上でコミュニケーションを行う場合があります。		
成績評価	<p>合評2回（学年末・学期末） 発表及び提出作品とレポート</p> <p>[S]客観的広い視野で自身の研究を見つめ、なおかつ独創的で深い研究がなされ、素材・技術・表現が総合的に融合し大変レベルの高い成果として認められる。 [A]多角的に自身の研究領域に関して深い研究がなされ、結果として素材・技術・表現が総合的に高度に融合している。 [B]自身の研究領域に関して、十分なスキルを有し、修士生として十分なレベルに到達している。 [C]修士生として、相応しいレベルに達している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -11	履修コード	5419Z1
科目名	工芸演習（二）陶磁	科目英語名	Practices of Craft (Ceramics) (2)
科目区分	工芸専攻（陶磁コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（陶磁コース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室他
単位	13	定員	9名
担当教員	○山本健史・池田晶一・宮永春香		
授業概要	創造的な制作研究を求める。 これまで培ってきた素材や技術に対する理解をさらに深めた、完成度の高い作品制作を行う。 修士課程2年間の研究成果として作品制作及び論文作成を行う。 工芸全教員による工芸全体の観点からの指導を加えながら研究制作を行う。		
到達目標	研究テーマと素材や技法との関係について発展的に研究を進め、独自性のある表現を行うこと。 研究内容とその成果に社会性を求める。また歴史的考察、素材と技術及び作品制作についての考察を基に、論文を提出する。		
授業計画	<p>各々の研究テーマに従い、ディスカッション等により認識を深めながら指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの明確化 ・適切な研究制作計画の策定 ・研究内容とその成果に社会性を求める。 <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的考察に基づいてテーマを再確認する。 ・実験、試行試作などを繰り返す。 ・作品制作 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修了制作 <ul style="list-style-type: none"> ・実験、試行試作など ・作品制作 ※中間研究会（工芸科全体研究会および個別ディスカッション） 2. 研究発表（作品の提出） <p>提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料など 研究報告資料（レポート）、作品、論文</p> <p>作品制作：次の教員が研究内容の専門性に応じ、適時分担指導する。 （山本教授）陶磁器による造形表現について指導をおこなう。表現内容と表現形体や空間との関係について指導する。 （池田教授）各自の研究テーマ・コンセプトに基づいた、作品の技術的側面や表現の可能性について指導する。また、作品と作品がある場との関係性について理論構築も含めて指導する。 （宮永准教授）各自の追及する研究テーマに即して、素材及び技術研究についての指導補佐に加え、研究内容の発展的展開のための理論的考察についての指導を補佐する。</p> <p>論文作成：各自の研究制作について下記の観点から制作論を構築する。陶磁コース教員が随時論文指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作品制作における自身の思考の展開 2 作品制作の前段階での思考的背景 		
予習・復習	授業計画に基づく		
教科書	適宜指示する		
参考書	適宜指示する		
教材	適宜指示する		
履修上の注意	適宜指示する		
成績評価	<p>提出作品（前期・後期）と研究報告および授業への主体的な取り組みについて評価を行う</p> <p>[S]素材の知識や技術の習得度、理論的考察、提出作品の完成度が特に秀でた高いレベルに到達している</p> <p>[A]素材の知識や技術の習得度、理論的考察、提出作品の完成度が高いレベルに到達している</p> <p>[B]素材の知識や技術の習得度、理論的考察、提出作品の完成度が十分なレベルに到達している</p> <p>[C]素材の知識や技術の習得度、理論的考察、提出作品の完成度が一定のレベルに到達している</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -12	履修コード	5420Z1
科目名	工芸演習（二）漆・木工	科目英語名	Practices of Craft (Urushi & Wood) (2)
科目区分	工芸専攻（漆・木工コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（漆・木工コース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆・木工コース諸演習室
単位	13	定員	9名
担当教員	○田中信行・山村慎哉・青木千絵		
授業概要	修士課程2年間の研究成果として作品制作及び論文作成を行う。 工芸全教員による工芸全体の観点からの指導を加えながら研究制作を行う。		
到達目標	各自の研究テーマにそって、修了制作に相応しい高い完成度と充実した作品制作を目指す。また歴史的考察、素材と技術及び作品制作についての考察を基に、論文を提出する。		
授業計画	<p>各々の研究テーマに従い、ディスカッション等により認識を深めながら、以下について重視し、随時、専門性に応じた指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な研究テーマと研究計画の設定および、明確なコンセプトの認識 感性と悟性の調和をはかりつつ、統合的な完成度の高さを求める 表現への自己啓発を求める 研究内容とその成果に社会性を求める <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 修了制作をふまえた年間計画書の提出と検討（工芸科全体研究会および個別ディスカッション） 個別研究 <ul style="list-style-type: none"> 実験、試行試作など（ファイリングし資料化する） 作品制作 論文の作成（後期提出に向けて） 論理的考察に基づき、研究・制作についての研究報告資料（レポート）を提出 研究報告（工芸科全体研究会および個別ディスカッション） <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 修了制作 <ul style="list-style-type: none"> 実験、試行試作など（ファイリングし資料化する） 作品制作 <p>※中間研究会（工芸科全体研究会および個別ディスカッション）</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究発表（作品の提出） <p>提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料など 研究報告資料（レポート）、作品、論文</p> <p>作品制作：次の教員が研究内容の専門性に応じ、適時分担指導する。</p> <p>（田中教授） 漆による造形表現と理論について指導する。 <ul style="list-style-type: none"> 漆造形表現に必要となる素材及び技法の研究 現代における漆造形表現の意味と可能性の考察 </p> <p>（山村教授） 装飾と造形について指導する。 <ul style="list-style-type: none"> 装飾性の追求（フォルムとの関係） テクスチャーとマティエール </p> <p>（青木助教） 漆芸全般について指導を補佐する。</p> <p>論文作成：各自の研究制作について下記の観点から制作論を構築する。漆・木工コース教員が随時論文指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 作品制作における自身の思考の展開 作品制作の前段階での思考的背景 		
予習・復習	各自の研究領域に関する不断の研究・制作を要する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>研究発表3～4回（随時）の過程、作品・論文（学期末提出）を下記基準に基づいて評価する。</p> <p>[S] 修士課程2年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が特に高いレベルで図ることができた。</p> <p>[A] 修士課程2年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が高いレベルで図ることができた。</p> <p>[B] 修士課程2年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が深まり、研究制作の深化が図ることができた。</p> <p>[C] 修士課程2年間で学ぶべき素材に対する知識や技術の習得度、理論的考察が十分ではなく、研究制作の深化を図ることができなかった。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -13	履修コード	5421Z1
科目名	工芸演習（二）金工	科目英語名	Practices of Craft (Metal Work) (2)
科目区分	工芸専攻（金工コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（金工コース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	13	定員	9名
担当教員	○畠山耕治・原 智・水代達史		
授業概要	修士課程2年間の研究成果として作品制作及び論文作成を行う。 工芸全教員による工芸全体の観点からの指導を加えながら各専門分野に分かれ制作を行う。		
到達目標	学生各自の研究テーマにそって、素材と表現、工芸技法、理論的考察等に関する研究成果を、作品制作と論文を通して具現化する。		
授業計画	<p>各自目標設定した研究テーマに則り研究と研鑽を重ね、より充実した作品の制作をし、意識・技術共に、完成度の高い物を制作する。</p> <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究テーマの再確認とコンセプトに対する認識の明確化 ○検証と研究を重ね、感覚と技術の向上を目指し完成度の高さを求める ○研究として古今東西に関わらず、金属工芸の全般を理解する ○表現に対する自己姿勢を再確認する ○修了制作を視野に入れた年間スケジュールの構築 ○制作するものに対するプレゼンテーションに確実性をもたせる (意思伝達能力の充実) ○それぞれの専門分野における研究結果の整理、並びに考察 <p>後期</p> <p>修了制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ○修了制作テーマの発表 ○研究発表と作品提出 <p>修了作品については次の教員が金工の造形についてオムニバス方式で分担指導し、さらに専門の分野に分かれた指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> (橋本教授) 金属造形における論理的思考と表現について総括的に指導する。 (畠山教授) 鑄金分野の制作並びに金属造形について指導する。 (原 教授) 鍛金分野の制作並びに各種金属加工方法、金属造形について指導する。 (水代講師) 彫金と象嵌技法を中心に、デザインから金工制作による表現までの指導を補佐する。 <p>論文作成：各自の研究制作について下記の観点から制作論を構築する。金工コース教員が随時論文指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作品制作における自身の思考の展開 2 作品制作の前段階での思考的背景 		
予習・復習	伝統技法に関する考察。最新加工技術に関する考察。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金工の着色方法・鍛金の実際・金工の伝統技法・美術鑄物の手法		
教材	特になし。		
履修上の注意	研究資料の充実。		
成績評価	<p>研究発表3～4回（随時）の過程、作品・論文（学期末提出）を総合的に評価する。 合評2回（学年末・学期末）課題提出2回（学期末） 研究報告2回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[S]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が特に秀でた高いレベルに到達し表現に反映されている。 [A]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が高いレベルに到達し表現に反映されている。 [B]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C]各自の研究テーマに則り、金属工芸で制作を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M4) -14	履修コード	5422Z1
科目名	工芸演習（二）染織	科目英語名	Practices of Craft (Textile) (2)
科目区分	工芸専攻（染織コース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸専攻（染織コース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	13	定員	9名
担当教員	○大高 亨・足立真実・加賀城健		
授業概要	修士課程2年間の研究成果として作品制作及び論文作成を行う。 これまでの研究成果をもとに、論理的考察にもとづいた高度で専門的な研究を行う。		
到達目標	現代社会における有意義な成果を目指し、技法・素材・表現・歴史などに関する研究成果を、完成度の高い充実した作品および論文として具現化する。		
授業計画	<p>各々の研究テーマに従い、ディスカッション等により認識を深めながら、以下について重視し、随時、専門性に応じた指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な研究テーマと研究計画の設定および、明確なコンセプトの認識 感性と悟性の調和をはかりつつ、統合的な完成度の高さを求める 表現への自己啓発を求める 研究内容とその成果に社会性を求める <ol style="list-style-type: none"> 修了制作をふまえた年間計画書の提出と検討（工芸科全体研究会および個別ディスカッション） 個別研究 <ul style="list-style-type: none"> 実験、試行試作など（ファイリングし資料化する） 作品制作 論文の作成（後期提出に向けて） 論理的考察に基づき、研究・制作についての研究報告資料（レポート）を提出 研究報告（工芸科全体研究会および個別ディスカッション） 修了制作 <ul style="list-style-type: none"> 実験、試行試作など（ファイリングし資料化する） 作品制作 <p>※中間研究会（工芸科全体研究会および個別ディスカッション）</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究発表（作品の提出） <p>提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料など 研究報告資料（レポート）、作品、論文</p> <p>作品制作：次の教員が研究内容の専門性に応じ、適時分担指導する。 （大高 亨）繊維造形表現、プロダクトテキスタイル、組織を用いた織物表現の指導 （足立真実）織着物、緋織や綴織技法、天然染料の指導 （加賀城健）染色表現全般の指導</p> <p>論文作成：各自の研究制作について下記の観点から制作論を構築する。染織コース教員が随時論文指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 作品制作における自身の思考の展開 作品制作の前段階での思考的背景 		
予習・復習	各自の研究領域を鑑みた、十分な自学自習を要する。特に、関連する技法への積極的な試みを常に行う必要がある。また、理論的に自らの制作活動を客観視する能力の養成に取り組む。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	本年度の授業については、新型コロナウイルス感染の状況により、対面授業を減らしオンライン上でコミュニケーションを行う場合があります。		
成績評価	<p>合評及び提出作品、論文、レポートにより総合的に評価する。 修了作品については研究発表3～4回（随時）の過程、作品・論文（学期末提出）を総合的に評価する。</p> <p>[S]素材・技術・表現が非常に高度に融合し、修士2年次生として高いレベルの研究と判断できる。 [A]素材・技術・表現が高度に融合され、修士2年次生として十分な研究と判断できる。 [B]作品およびそれを担保する論理的考察が充分になされており、修士相当と思われる。 [C]研究レベルが総合的に修士として適当と判断される。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -01	履修コード	5423Z1
科目名	デザイン特論	科目英語名	Studies on Design Theory
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	集会ホール
単位	2	定員	20名
担当教員	畝野裕司・○安島諭・鈴木康雄・廣瀬純子		
授業概要	デザインの今日的状況とその課題について、担当教員それぞれの専門の場における研究や実践に基づいて講義する。		
到達目標	時代と社会の中で学生それぞれが、自らの制作や研究活動を積極的に位置付け展開することへの感性的、知性的な認識を深める。		
授業計画	<p>以下の教員がオムニバス方式で講義する</p> <p>（鈴木教授） ビジュアルコミュニケーションの視点からメディアの役割と動向を紹介し、メディアとコミュニケーションの現在を紹介しつつ、これからのメディアのあり方を予測する。またデザインに求められるアイデア創出時において何が障害となりうるかを知り、その乗り越え方を学ぶ。</p> <p>（安島教授） インデペンデントなデザイナーとしての経験から、具体例を紹介しながら戦略的デザイン思考やデザインから見たマーケティングなど、社会におけるサバイバルやこれからのデザインの役割などを模索する。レポートを課す。</p> <p>（畝野教授） 日本のパッケージデザインの流れを紹介するなかで、パッケージデザインの置かれている現況を確認し、パッケージ領域を中心に今日的課題を探る。レポートを課す。</p> <p>（廣瀬准教授） ファッションエディトリアルとは何か。モード誌の制作過程では、どんなことが行われているのか。ファッション・ビジネス全体像の中で、その役割と今後の課題を考察する。レポートを課す。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。毎回の講義の考察をしっかりと行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	適宜プリントの配布や映像による講義、現場視察等を行う。		
履修上の注意	デザイン専攻1年次生（必修）以外の履修コードは5260Z1となる。		
成績評価	<p>各教員の課すレポート等の評価を総合して単位を認定する。</p> <p>[S] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。</p> <p>[A] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。</p> <p>[B] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。</p> <p>[C] デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -02	履修コード	5424Z1
科目名	デザイン史特論	科目英語名	Studies on Design History
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	月曜9-10限
履修区分	必修	教室	集会ホール
単位	2	定員	10名
担当教員	○寺井剛敏・浅野 隆・北村賢哉・大谷正幸		
授業概要	上記の教員は、それぞれ異なった領域からオムニバス形式でデザイン論を展開する。産業、社会および生活のなかのデザインを多様な角度から歴史的に考察する。そのなかから、各時代の美術・工芸との関係において生成したデザインの歴史がみえてくる。		
到達目標	各自の専門性にもとづいた「デザイン小史」をまとめる。現在の制作に対する検証作業であるだけでなく、これからの活動にたいするパースペクティブをもたらす。		
授業計画	<p>各教員は、次の順番で以下のテーマに基づき講義する。</p> <p>（寺井教授） コミュニケーションを切り口に、広告、グラフィックデザイン、ブランディング、パッケージデザイン、ディスプレイデザインなど、国内外の事例を取り上げ解説する。時代による表現方法の変化とライフスタイルの変化を絡めておこなう。</p> <p>（浅野教授） モビリティに関するデザインの歴史を解説する。モビリティが大量生産されることによって経済が発展し、人々の暮らしが豊かになった20世紀のモビリティデザインの目指した方向と、技術の進化を理解し、今後大変革し激変する未来のモビリティ業界について、デザイナーに求められるビジョンの思考力を養う。</p> <p>（北村教授） 暮らしの変化に寄り添って進化してきた家電製品の歴史にフォーカスして解説する。特に生活家電の変遷に関して詳しく取り上げる。また、欧州と日本の生活スタイルの差異と家電の関係にも触れる。</p> <p>（大谷教授） デザイン史の背景となる社会変化についての理解を深め、未来を予見する能力を培うことを目的として、柳宗理「ラスキン、モリスよりグローブス、コルビュジェへ」およびRichard Heinberg“(post-)Hydrocarbon aesthetics”を講読する。</p>		
予習・復習	事前に配付もしくは指定された資料を読んで受講すること（大谷）		
教科書	必要な場合は、連絡する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	プリントを配付する。		
履修上の注意	自身の「デザイン小史」をまとめるために、講義以外の時間を活用した指導を受けるために、各の教員とのコンタクトを密にしておくこと。また市内の専門施設への視察やレクチャーを実施することがあるので、授業内での案内等に留意すること。		
成績評価	<p>レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[S] デザイン史に関する視野を広げ、きわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] デザイン史に関する視野を広げ、高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B] デザイン史に関する視野を広げ、理解することができた。</p> <p>[C] デザイン史に関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -03	履修コード	5425Z1
科目名	デザインディレクション	科目英語名	Design Direction
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	2	定員	
担当教員	○寺井剛敏（非常勤）石井うさぎ		
授業概要	学部のそれぞれのデザイン専門領域を習得したうえで、クリエイティビティの高いデザインを確実に推進していく為の感性力、知力、行動力、表現力の高度化を計る。		
到達目標	それぞれの専門とする分野の、企画からデザイン計画、そして具体的なデザインを展開して、クライアントや社会へ伝達する力をそれぞれが相応しい形で獲得する		
授業計画	<p>デザインディレクションの概論的知識や事例研究をおこなうとともに、各人の取組んでいるデザインプロジェクトをディレクション力養成の観点から個別に指導する。また、プレゼンテーション力充実の一貫として、英語による表現力育成も配慮する。</p> <p>石井うさぎ（非常勤） コンセプト形成から最終的なデザインを完成させるまでに要となる、ディレクションの考え方を具体的事例に基づきながら講義する。また、ディレクション力養成の観点から各人のデザインワークを英語を中心としたコミュニケーションで個別指導する。</p> <p>寺井剛敏 担当教員と協議を行い、適宜授業計画を立てる。その上で、事前レクチャー等を実施し、授業を進めていく。</p>		
予習・復習	現在取組んでいるデザインプロジェクトを、英語にてプレゼンテーションする。指導を受けた内容について、デザインプロジェクトの取組み方へ反映させる		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。必要な場合は事前に指示する		
教材	特になし。		
履修上の注意	授業によって教室を変更指示する。		
成績評価	<p>レポート提出をとおして、個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] テーマに関する視野を広げ、きわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] テーマに関する視野を広げ、高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B] テーマに関する視野を広げ、理解することができた。</p> <p>[C] テーマに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -04	履修コード	5432Z1
科目名	デザイン研究計画特論	科目英語名	Planning for Design-research
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	必修	教室	第2教室
単位	2	定員	10名
担当教員	○荷方邦夫・浅野 隆		
授業概要	大学院でデザインに関する実証的研究を進める際の、基本的な方法論、および研究倫理等の知識を身につける。 実際に実験・調査研究を体験し、実践的な方法の概要を理解する。		
到達目標	デザインに関する自らの問題意識を科学的な研究の俎上に載せ、客観的な検討によって結論を得るための、基本的枠組みと具体的手法を理解する。また、その成果を対外的に発表するための、論文あるいは発表原稿を作成するスキルを習得する。		
授業計画	<p>デザイン研究概論（1単位）</p> <p>1：デザイン研究の目標と対象、研究テーマの設定 2：研究の方法論（1）研究計画、データ駆動型研究の概念 3：研究の方法論（2）実験及び調査、研究の倫理的配慮 4：研究の方法論（3）ケーススタディ・質的研究 5：研究データの解析（1）相関・因果・検定 6：研究データの解析（2）多変量の解析</p> <p>研究の実践を知る（1単位）</p> <p>1：研究の実際（1）質問紙調査の計画 2：研究の実際（2）質問紙調査の実施 3：研究の実際（3）インタビュー調査の計画 4：研究の実際（4）インタビュー調査の実施 5：研究報告（1）研究報告のフォーマット 6：研究報告（2）研究報告書の作成 7：研究報告（3）プレゼンテーション 8：研究報告会・研究の評価方法と評価の観点</p>		
予習・復習	実際に研究の体験を行うため、授業の前後で調査やインタビューの実施、データ収集などの作業を行う		
教科書	授業資料を毎回配布する		
参考書	特になし		
教材	適宜資料を配付するほか、授業内で必要な書籍等を紹介する		
履修上の注意			
成績評価	各課題への対応により、下記項目への達成度を基に、総合的に評価する。 [S] 問題に対する深く幅広い考察を行い、より創造性の高い優れた提案を提示できたか。 [A] 問題に対する深く幅広い考察を行い、優れた提案として提示できたか。 [B] 問題に対する幅広い考察を行い、適切な解決策を提示できたか。 [C] 問題に対する提案策を、十分に伝達できる表現となし得たか。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -05	履修コード	5362Z1
科目名	視覚伝達論演習 I	科目英語名	Seminar of Visual Communication Theory I
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	大学院演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	寺井剛敏		
授業概要	企業のブランディングについて、生活者の視点から調査、分析、企画、提案までを行う。		
到達目標	学生が日常生活で感じる問題点に自らが関わり、効果的なヴィジュアルコミュニケーションのアイデアを企画し、プレゼンテーションできることを目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 自分が気になっている企業（またはブランド）を選定し、現状の調査・分析を行う。 <ul style="list-style-type: none"> なぜその企業（ブランド）が気になるのか？どんなコミュニケーションをしているのか？などを探ってみる。 もっと改善したら良くなると思われる企業（またはブランド）選定し、問題点を検討し改善点を抽出する。 <ul style="list-style-type: none"> どこに問題があるのか、どんなコミュニケーションが足りないのか？ 抽出した改善点を具現化するために必要なコミュニケーションのあり方を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 接点となる様々なタッチポイントを探ってみる。 コミュニケーションに必要な要素を絞り、企画、提案する。 <ul style="list-style-type: none"> その際、デザインのストーリーを考慮すること。 調査、分析、企画、提案まで一連の作業をまとめ、プレゼンテーションを行う。 <ul style="list-style-type: none"> わかりやすく相手に伝わるプレゼンテーションを心がけること。 <p>※制作途中では随時ミーティングを行いながら進めていく。</p> <p>※プロモーション、その他クロスメディアなど、設定した内容を協議しながら対応する。</p>		
予習・復習	内容に応じて指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プリントを配付する。		
履修上の注意	指定された時間を厳守すること。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -06	履修コード	5363Z1
科目名	視覚伝達論演習Ⅱ	科目英語名	Seminar of Visual Communication Theory Ⅱ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	大学院演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	鈴木康雄		
授業概要	映像、写真を中心とした複合的なメディアによるコミュニケーションの研究を通して制作の方向を模索し、様々な表現、素材、メディアを駆使して作品制作につなげる技術とノウハウを指導する。		
到達目標	メディアを一元的にとらえず、コミュニケーションに則したメディアを複合的に提案する技術やノウハウを学ぶ。		
授業計画	<p>映像、写真を中心とした複合的なメディアによるコミュニケーションを主な対象とする。下記の技術分野や素材を複合的に扱い、研究を通してメディアの特性を検証する。そこから作品制作の方向性を模索する。</p> <p>動画、写真撮影・現像、シルクスクリーンなどに関わるデジタル製版、写真撮影、ビデオ撮影・編集、フォトレタッチ、CG、その他金属、木材などさまざまな素材を対象とした制作の指導を行う。</p> <p>上記を複合的に用いた作品制作を最終目標とし、必要なプロセスをリサーチするとともに、それらを活かして作品制作に活用する方法を具体化させる。</p> <p>[プロセス] 1、興味ある、または参考となるメディアに対して幅広くリサーチを行う 2、それに含まれる技術を調査する 3、対象となる技術を学び試作、検証する 4、3での経験値を活かし作品制作につなげる</p>		
予習・復習	予習：日常的に多様な素材やメディアに目を向け、情報収集に努める。 復習：研究を通して興味を持ったメディアに対して定期的に観測を続ける。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -07	履修コード	5364Z1
科目名	視覚伝達論演習Ⅲ	科目英語名	Seminar of Visual Communication Theory Ⅲ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	大学院演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	廣瀬純子		
授業概要	ブランドを支え人々の幸福感を作り出す、ファッション・コミュニケーション&プロモーションとは何かを、リサーチやディスカッションを通して考察する。		
到達目標	ファッションという領域に関わることで、今までになかった新しい視点を持ち、獲得した知識や考え方を、自らの研究にフィードバックできる。		
授業計画	ファッションブランドのコレクション、プレゼンテーションやキャンペーン写真などから、印象に残ったものを選び出し、その表現のどこに惹かれるのか、そこにはどんなアイデアや技法が使われているのかを分析する。また、ブランド自体がどんな背景を持っているのかをリサーチし、普遍性、希少性の両側面を検証する。		
予習・復習	ファッションブランドのコレクション動画などをチェックしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -08	履修コード	5365Z1
科目名	視覚伝達論演習Ⅳ	科目英語名	Seminar of Visual Communication Theory Ⅳ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	大学院演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	坂野 徹		
授業概要	情報をコントロールする技術を修得する。		
到達目標	物事を主体的に考え、社会を俯瞰する力を身につける。		
授業計画	<p>本科目は、仕組みとしてのデザインに比重をおき、発想を企画に落とし込むための考え方と手法の修得を目的とする。</p> <p>具体的な項目として、本科目の取り扱い分野を以下に記す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディア情報学 影響装置としてのメディアをパラダイム（社会を構成する基本的価値観）の観点から俯瞰することで、今日的なメディアのあり方を考察する。 2. 経済 デザインをビジネスと捉え、資本主義システムの中で、デザインを実行することで得られるメリットが、コストやリスクに見合うのかといった経済学的観点からデザインを評価する。 3. 編集 表現（造形）ではなく、コンテンツの構造化や思考の視覚化を実現するための手法を考える。研究内容によって、論述、ダイアグラム、情報編集、組版、スタイルシート、高度な日本語の運用などを指導する。 		
予習・復習	ミーティング前に必ず発表内容の推敲をおこなうこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -09	履修コード	5426Z1
科目名	視覚伝達論演習 V	科目英語名	Seminar of Visual Communication Theory V
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	大学院演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	下浜臨太郎		
授業概要	ヴィジュアル・コミュニケーションの追求。		
到達目標	社会的視野でコミュニケーションを捉え、時代に相応しいヴィジュアル・コミュニケーションのテーマを設定し自主制作をする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時代にあったコミュニケーション・テーマを設定する。 — デザインは常に時代とともに生きる。そのことを徹底して見つめることで、見えてくるものがある。 2. テーマの内容調査、分析をする。 — 客観的なマーケティング調査がデザインに本質を与えてくれる。 3. 企画アイデアを考える。 — アイデアのないデザインは存在しないことを軸に、徹底したマスタープランを構築する。 4. 具体的なメディアを設定する。 — 構築したアイデアから、ひとに伝えるコミュニケーションを設計する。 5. アイデアスケッチをもとにミーティングを行い、企画を詰める。 — 自分の考えた立案を、ミーティングで客観的に、見つめ直す。 6. 具体的に制作する。 — 自己表現技術の徹底的考察。 7. テーマ設定から制作までの流れをプレゼンテーションする。 — 説得性のあるプレゼンテーション能力を培う。 8. まとめ。 — 達成できたこと、できなかったことをふまえ、次につなげるミーティングを行う。 		
予習・復習	必要な資料を揃えておくこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC等		
履修上の注意	ミーティングに参加すること。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -10	履修コード	5433Z1
科目名	視覚伝達論演習VI	科目英語名	Seminar of Visual Communication Theory VI
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	大学院演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	樺島 脩		
授業概要	エンターテインメント領域のプランニング。		
到達目標	エンターテインメントの構造を捉え、課題やニーズに対応した「遊び」を設定し自主制作をする。		
授業計画	エンターテインメント領域のプランニング 事業計画 本科目は、「遊び」の設計に比重をおき、発想を企画に落とし込むための考え方と手法の修得を目的とする。		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時指示を行う。		
参考書	授業の中で随時指示を行う。		
教材	授業の中で随時指示を行う。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -11	履修コード	5371Z1
科目名	製品計画論演習 I	科目英語名	Seminar of Product Design Theory I
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	河崎圭吾		
授業概要	この授業では、もう既にあるモノのデザインや問題解決型のデザインではなく、「人間がより生き生きとした」生活を送る為のイノベーションデザイン手法を学ぶ。		
到達目標	家電製品のイノベーションデザイン手法の習得。具体的には、デザイン対象のモノ&コトに対する正しい理解。デザイン対象のモノ&コトにたいする正しい実態調査手法の習得。正しいブレインストーミング手法の習得。アイデアの発想法の習得。アイデアをカタチに落とし込む技術の習得。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家電製品の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・家電製品の歴史を調べる。 ・家電製品を基本機能別に分類する。（家電の棚卸し作業） ・モデルハウスでの家電の配置調査（人の日常の動作と家電の配置の関係性を理解する） 2. 家電製品の使用調査 <ul style="list-style-type: none"> ・家電製品を使って、実際に使用している現場の調査を行う。（人と人を含む環境と時間の関係性を観察） ・アイデアに繋がるアンケート用紙の作り方を学ぶ。 3. 正しいブレインストーミングによるアイデア展開 <ul style="list-style-type: none"> ・正しいブレインストーミングを学び、短時間で大量のアイデアを生む手法を学ぶ。 ・イノベーションに繋がるアイデアの出し方を学ぶ。 4. 人間の無意識の行為を調査 <ul style="list-style-type: none"> ・日常の無意識に行う行為を調査・分析する。 ・環境（人、モノを含む）の価値を理解する。 5. 1~4を使ってイノベーションデザインを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアから最終デザインに落とし込む手法を学ぶ。 6. 最終実働モデルを制作し、最終的なシミュレーションによる評価を行う。 		
予習・復習	特に指定しない。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	特になし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>個々の課題の到達度、積極的な授業態度、およびプレゼンテーション能力を総合して評価する。</p> <p>[S] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが高いレベルで修得され、材料に関する知識と加工技術、およびデザインの表現力が高いレベルで表現されている。</p> <p>[A] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、およびデザインの表現力が高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、およびデザインの表現力が十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、およびデザインの表現力が一定のレベルに到達している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -12	履修コード	5372Z1
科目名	製品計画論演習Ⅱ	科目英語名	Seminar of Product Design Theory II
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	根来貴成		
授業概要	歴史的な家具（特に椅子）を原寸図に書き起こすことによって、時代的背景をはじめ、その発想、スケール感、素材感、加工工程、仕上げを学ぶ。		
到達目標	デザインのオリジナリティを身につける一つの方法として、優れた先人のデザインを構想、造形、加工など追体験を意識して図面化をする。		
授業計画	<p>現代の歴史的な椅子の中からエポックメイキングな100脚を選ぶ。選択の条件は発想のユニークさ、素材、加工法、生産技術などで、学生独自の立場からピックアップする。歴代の学生による研究成果をデータベースとして蓄積し、幾つかのキーワードで検索が可能なものにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選んだ歴史的な椅子100脚の中から図面に起す一脚を決定する。 2. 原寸図に書き起こす。 3. 素材、仕上げなどを詳細に指定する。 4. 実際の家具メーカーと製作すべき工場で可能性などを検討する。 5. 全体のまとめをレポートとして提出する。 <p>* 必要に応じて数社の家具工場の見学を行う。</p> <p>* 製図は製図板を使用し、1/1の図面をT定規と三角定規で手書きする。</p>		
予習・復習	図書館にある椅子が載っているデザイン関連書籍を調査。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	図書館にある椅子が載っているデザイン関連書籍。		
教材	本学の椅子のコレクション。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>100脚の椅子のデータベース、選んだ一脚の椅子の1/1原寸図面とレポートを最終提出物とするが、途中の進捗状況などを総合して評価する。</p> <p>[S]椅子に関する歴史的背景を含めた視野を広げ、その発想、スケール感、素材感、加工工程、仕上げについて特に高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A]椅子に関する歴史的背景を含めた視野を広げ、その発想、スケール感、素材感、加工工程、仕上げについて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B]椅子に関する歴史的背景を含めた視野を広げ、その発想、スケール感、素材感、加工工程、仕上げについて一定の理解をすることができた。</p> <p>[C]椅子に関する歴史的背景を含めた視野を広げ、その発想、スケール感、素材感、加工工程、仕上げについて十分ではないが理解をすることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -13	履修コード	5373Z1
科目名	製品計画論演習Ⅲ	科目英語名	Seminar of Product Design Theory Ⅲ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	安島 諭		
授業概要	デザインとテクノロジー - プロトタイピングのプロセスを中心に実践的な探求を行う。		
到達目標	自立したデザイナーとして身につけておくべき、「造形の論理性と表現力、展開力」、「事実に基づいた堅固なデザインプロセス」、「未来への開拓者的精神」、それらを包括した創造的なデザイン姿勢を実践をとおして体得する。		
授業計画	<p>「感性・スキル・リテラシー」どれが欠けてもデザイナーとしては成立しない。デザインプロセスを創造的に実践するには経験知を核とした行動と、その理論化が必要である。そこへ向けての布石となる授業を目指している。</p> <p>デザインとテクノロジーの関係をプロトタイピングのプロセスを実践し探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の現場のデザイン調査を行い、そこから課題を設定する。 2. 対象とするユーザーを設定し、現場における目的行為の全体を取材する。 3. ユーザー分析を行い、特性や現状の環境における問題を抽出する。 4. 対象とするユーザーを包括する具体的な条件設定を行う。 5. デザイン展開と仮説モデルの製作する（プロトタイピング）。 6. 仮説モデルの評価（ユーザーテスト）を行う。 7. イテレーション（繰り返し） 8. 総括 <p>* テーマ設定や、デザイン展開の内容に応じて各プロセスのウエイトを調整する。 * 他領域の専門家とのコラボレーションも積極的に推進する。 * 美的・機能的に検証に耐えるモデルを制作すること。</p>		
予習・復習	資料の収集や知識の修得、技術の修得など、自主的な進行に務めること。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	学外での授業も含まれるので、連絡や指示を見落とさないこと。時間厳守。		
成績評価	<p>最終コンセプトモデルとプレゼンテーションパネル、デザインプロセスの充実度。調査・分析およびデザインの展開力を評価する。</p> <p>[S]製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として秀でたレベルで表現されている。</p> <p>[A]製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]製品デザインの研究プロセスを活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として表現されている。</p> <p>[C]製品デザインの研究プロセスを活かし、デザイン提案として表現されている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -14	履修コード	5374Z1
科目名	製品計画論演習Ⅳ	科目英語名	Seminar of Product Design Theory Ⅳ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	村中 稔		
授業概要	UX（ユーザーエクスペリエンス）の観点からIoTやAIなどを取り入れた新たなサービスやプロダクトデザインを提案する。		
到達目標	情報機器のデザインプロセスを学び、次世代に向けたサービスやプロダクトが創造できる。		
授業計画	<p>UX（ユーザーエクスペリエンス）の観点からIoTやAIなどを取り入れた新たなサービスやビジネスモデル、プロダクトデザインを考える。調査や試作、アイデア展開、現場での検証やシミュレーションなどのプロセスを通して、新しい価値を創出する手法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 現状把握 <ul style="list-style-type: none"> 社会動向及び現在の情報機器やシステムの調査・分析するとともに、新たな事例を収集する。 シーンスケッチによりサービスやプロダクトを想定 <ul style="list-style-type: none"> 機器と関わるユーザーや場所、時間、使用方法などの条件を想定し、シーンスケッチで表現する。 ラフモデル制作 <ul style="list-style-type: none"> シーンスケッチから機器デザインに盛り込むアイデアを抽出し、ラフモデルを制作する。 GUI（Graphical user interface）のモックアップを制作する。 現場での検証 <ul style="list-style-type: none"> 複数のラフモデルとGUIを実際に使用するシーンにあてはめ、シーンイメージを再構築する。 インターフェイスの評価 <ul style="list-style-type: none"> シーンに登場するユーザーの動作分析を行うとともに、外観の印象やインターフェイスの評価を行う。 最終モデル制作 <ul style="list-style-type: none"> 外観イメージとインターフェイス部分を実際のイメージに近い最終モデルを制作し、最終的なシミュレーションによる評価を行う。 パネル制作 <ul style="list-style-type: none"> 制作プロセスと提案内容を簡潔にまとめたパネルを制作し、口頭で説明する。 		
予習・復習	充分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	学内においてIoTをテーマとして取り組んだ課題の事例集		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>最終コンセプトモデルとプレゼンテーションパネル、デザインプロセスの充実度。調査・分析およびデザインの展開力を評価する。</p> <p>[S] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として特に高いレベルで表現されている。</p> <p>[A] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として高いレベルで表現されている。</p> <p>[B] 製品デザインの研究プロセスを活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として表現されている。</p> <p>[C] 製品デザインの研究プロセスを活かし、デザイン提案として表現されている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -15	履修コード	5375Z1
科目名	製品計画論演習 V	科目英語名	Seminar of Product Design Theory V
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	浅野 隆		
授業概要	モビリティを人、社会などの関わりから捉え、CASEの普及を見据え、交通インフラやしくみ、サービスを含めたMaaSデザインにおける次世代モビリティをデザインを提案する。		
到達目標	自動車における技術、社会背景を理解し、カーデザインプロセスに沿って具体的な形としてデザイン表現し、プレゼンテーションにまとめる。		
授業計画	<p>次世代モビリティのデザイン研究</p> <ol style="list-style-type: none"> モビリティの理解 <ul style="list-style-type: none"> モビリティの歴史を調べる。 モビリティの技術、テクノロジーを調べる(CASE) モビリティの人と社会に対する関係性を調べる。 コンセプトデザイン <ul style="list-style-type: none"> 1の調査から社会を予測し、次世代自動車につながるアイデアをコンセプトにまとめる。 IoTを使った交通インフラやサービスなどのしくみを考える(MaaS) スタイリングデザイン <ul style="list-style-type: none"> コンセプト、アイデアを的確に表現し、美しい造形にまとめる。 新しさとは何かを手で考え、感覚として理解出来るようにする。 パッケージデザイン <ul style="list-style-type: none"> スケール感を理解し、3面図によるテールドローイングを学ぶ。 人との関係を具体的に想像し使い勝手や機能を成立させる。 クレイモデル <ul style="list-style-type: none"> クレイモデルの制作手法と立体造形を学ぶ。 ランプ、ホイール等、部品のデザイン プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> 1~5を効果的にプレゼンテーションとしてまとめる。(PPT、パネル、ポートフォリオ) 		
予習・復習	特に指定しない。		
教科書	特になし。		
参考書	カースターリング、Auto&Designなど		
教材	特になし。		
履修上の注意	モビリティデザイナーを将来の進路として希望する学生が望ましい。		
成績評価	<p>調査レポート発表提出1回、課題提最終作品のまとめとプレゼンテーション1回。積極的な研究姿勢を総合して評価する。</p> <p>[S]モビリティデザインにおける諸能力が総合的に修得され、社会性のある提案として極めて高いレベルで作品に表現されている。</p> <p>[A]モビリティデザインにおける諸能力が総合的に修得され、社会性のある提案として高いレベルで作品に表現されている。</p> <p>[B]モビリティデザインにおける諸能力が総合的に修得され、社会性のある提案として充分なレベルで作品に表現されている。</p> <p>[C]モビリティデザインにおける諸能力が総合的に修得され、社会性のある提案として一定のレベルで作品に表現されている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -16	履修コード	5381Z1
科目名	環境計画論演習 I	科目英語名	Seminar of Environment Design Theory I
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	社会性を取り入れた、時代に相応しい空間コミュニケーションのテーマを設定し自主制作を行う。 各自の研究テーマに合わせた、「空間デザイン」の方向と可能性を明確化する。		
到達目標	研究テーマに合わせた、独創的な「企画」と「表現」を具現化し 成果を「コンペ」や「ポートフォリオ」で確認する。 学生の「独創性」や「オリジナリティ」を引き出し、 過去から学び、未来に向けた「新しい提案」を表現する。		
授業計画	空間デザインを考えるにあたり、以下のような視点を確認する。 ・日本のアイデンティティ（視点）と世界（視野） ・デザイン（メッセージとアイデア）× アート（表現と感動） ・過去（文化）と未来（提案） 1. 自分が気になっている空間デザインを選定し、現状の調査・分析を行う。 2. 問題点を検討し改善点を抽出する。 3. オリジナルのアイデア企画、制作、提案する。 4. 調査、分析、企画、提案まで一連の作業をまとめ、プレゼンテーションを行う。 ・わかりやすく相手に伝わるプレゼンテーションを心がけること。		
予習・復習	授業に応じ指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	独自の研究テーマを見つけ、探求し、成果に結びつけること。		
成績評価	全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、出席状況および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が、作品に優れた形で取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -17	履修コード	5382Z1
科目名	環境計画論演習Ⅱ	科目英語名	Seminar of Environment Design Theory Ⅱ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	西本耕喜		
授業概要	「環境計画特論」の中で特に建築・都市に関連し、空間に影響を及ぼす要素とそれらの関係性を統合する手法を修得し、独自の「場」の理論の構築と検証のための実践的制作を行う。		
到達目標	今後のデザインツールとなる空間デザインの基本的な手法を修得する。空間デザインの基本ユニットとしての建築を中心に、その集合体である都市あるいは集落空間等の幅広い領域における課題と展望から研究テーマを探り、修了制作への基本的方向性を見極める。		
授業計画	<p>事前の打ち合わせにより、以下の6項目から複数の課題を適宜選び出し、授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作品からの学習 建築や都市空間の魅力を探る。実際に体感できる空間を選び、フィールドサーベイ、実測、図面化及び模型化することで、その空間の持つ質、ディテールまで追求する。 2. 研究資料のデータベース化 二年間に渡る研究テーマについて、研究資料を収集し、独自のデータベースを作成する。 3. 空間イメージの獲得 空間をイメージする能力とそれを表現する能力を高める。スタディのためのスケッチやエスキース模型の制作手法を学び、それらを表現手段として、イメージする空間を視覚化、第三者と共有化することを試みる。 4. コンペへの参加 国内外のコンペに参加し、空間造形の技術と感性の修得の場とする。あわせて。自己の作品化のアプローチと成果に対する客観的評価を行い、提案能力や造形能力の向上を目指す。 5. 実寸の空間をつくる 屋内外を問わず、ある「場」を選択し、つくり手としてその「場」に参加する方法を探る。その「場」の特性を最大限に引き出す造形を試みる。複数の被験者を使って、空間造形への狙いとその効果を実際の体感評価から収集し、客観的評価を試みまとめる。 6. その他 <p>※研究計画を事前に綿密に打ち合わせる事。</p>		
予習・復習	状況に応じて、適宜指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>各段階で提出を課す作品及びレポートの評価を総合して単位を認定する。</p> <p>[S] 建築・都市デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。</p> <p>[A] 建築・都市デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。</p> <p>[B] 建築・都市デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。</p> <p>[C] 建築・都市デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -18	履修コード	5383Z1
科目名	環境計画論演習Ⅲ	科目英語名	Seminar of Environment Design Theory Ⅲ
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	角谷 修		
授業概要	空間デザイン(主に内部空間やその活用用途等)の実例をもとに、その広がりや役割について検証する。 また実際に活動出来るプロジェクト等と並行して研究を実施する可能性がある。		
到達目標	空間デザインを基本に独自の視点を持つこととその精度を高めるようリアルな表現を心掛ける。 特に商業環境及び文化施設における見解を取り入れながら実施することを進めたい。		
授業計画	<p>1、取り組む当初よりテーマが設定されている場合は以下のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間デザインの実例を上げて、その分類と目的について考察 ・空間デザインと構成するパーツ(照明計画、システム等)について確認して、その効果を試す。 ・現場での活動報告や調査をもとにその経済的側面を検証する。 ・活性化への方策を探求して、空間デザインからの提案について議論する。 <p>2、関係性を問う場合は空間デザインの環境を設定した上で、適切な進行計画を個別に立てる。</p> <p>3、実際のプロジェクト等やコンペティションを題材に実施する場合はその成果を考慮すると共に授業としての整合性を問う。</p>		
予習・復習	設定するテーマによって事前調査内容を指示する。		
教科書	各自のテーマに応じた専門書を指定する。		
参考書	各自のテーマに応じた専門書等を紹介する。		
教材	PC・DVD		
履修上の注意	定期的に進捗状況を確認する。		
成績評価	授業内で設定したテーマと課題への探求度や成果を総合的に評価する [S] テーマおよび課題への取組む姿勢やその成果が優れたレベルに達している [A] テーマおよび課題への取組む姿勢やその成果が高いレベルに達している [B] テーマおよび課題への取組む姿勢やその成果が十分なレベルに達している [C] テーマおよび課題への取組む姿勢やその成果を確認できた		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -19	履修コード	5384Z1
科目名	環境計画論演習Ⅳ	科目英語名	Seminar of Environment Design Theory IV
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	8名
担当教員	鰐 隆弘		
授業概要	公共緑地、河川空間、道路空間、建物外構、庭園を対象とした屋外空間の設計課題		
到達目標	屋外空間のデザインにおける様々な環境条件の把握と、実践的なデザインへ応用方法の修得を目標とする。		
授業計画	<p>第1日 課題説明／敷地に関する資料の収集 ・広域における敷地の人文的背景を示す資料について収集調査を行う。</p> <p>第2日 課題敷地における現地調査 ・敷地の地形、植生、景観について現地を訪れデータとして把握する。 ・周辺について踏査調査を行う。</p> <p>第3日 調査結果のまとめ ・敷地図上に調査結果を図示化する。</p> <p>第4日 敷地の分析とアイデア検討 ・デザインのアイデアを念頭に置きながら、調査結果についてメリット、デメリット、解決すべき課題などの視点から、敷地状況を分析する。</p> <p>第5日 中間発表 ・調査、分析、アイデアについて発表を行う。</p> <p>第6日～9日 ドローイング／模型制作 ・スケッチやスタディモデルを使って教員と意見交換しながら、デザインを進める。</p> <p>第10日 プレゼンテーション ・デザイン案についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>※事前に参考書に目を通しておくこと</p>		
予習・復習	予習：自身の屋外空間における遊戯体験の整理 復習：エスキースチェックに対する回答整理		
教科書	特になし		
参考書	風土：和辻哲郎、パターンランゲージ：C. Alexander、デザインウイズネイチャー：Ian Macharg、ランドスケープデザインの視座：宮城俊作		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>受講態度、中間発表、最終プレゼンテーションを総合的に評価する。 中間発表および最終プレゼンテーションでは、発表の技術と成果物の完成度を評価する。 [S]屋外空間の設計について高いレベルの知識と技術に加え、秀でた形の成果を認められる。 [A]屋外空間の設計について高いレベルの知識と技術が認められる。 [B]屋外空間の設計について、ある程度のレベルの知識と技術が認められる。 [C]屋外空間の設計について、基本的なレベルの知識と技術が認められる。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -20	履修コード	5427Z1
科目名	環境計画論演習 V	科目英語名	Seminar of Environment Design Theory V
科目区分	デザイン専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択	教室	専攻演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	北村賢哉		
授業概要	プロダクト視点で空間デザインを考える。インテリア・エクステリアからその設備、什器に至るプロダクト領域よりテーマを導き出し、取り組む。		
到達目標	幅広い領域より空間デザインとしての課題を把握して、的確なデザインプロセスを実践し、独創的な提案を行う。		
授業計画	<p>1、空間デザインをプロダクトの視点から考えるにあたり、これまでの関連する歴史や暮らしの変化、テクノロジーの進化を把握する。空間構成要素となる基本的な素材や加工法などについても学ぶ。</p> <p>2、テーマ設定を最初からおこなう場合は、関連の領域について担当教員と十分な協議をおこなう。その上で、専門や分野を考慮しながらテーマを設定する。</p> <p>3、テーマに基づき的確なデザインプロセスを実践し、より具体的な提案へと繋げる。デザインプロセスに関しても適宜その効果を担当教員と共有し、高いレベルのデザインを目指す。</p> <p>その他、環境デザイン領域内での課題に取り組みながら本演習にあたる場合は、その成果について整合性を問うことになるので、その準備をする。</p>		
予習・復習	設定するテーマによっては指定する場合がある。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	PC・DVD		
履修上の注意	定期的に進捗状況を確認する。		
成績評価	<p>最終コンセプトモデルとプレゼンテーションパネル、デザインプロセスの充実度。調査・分析およびデザインの展開力を評価する。</p> <p>[S]空間デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として優れたレベルで表現されている。成果に秀でた点が見られる。</p> <p>[A]空間デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]空間デザインの研究プロセスを活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として表現されている。</p> <p>[C]空間デザインの研究プロセスを活かし、デザイン提案として表現されている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -21	履修コード	5367Z1
科目名	視覚デザイン演習（一）	科目英語名	Practices of Visual Design (1)
科目区分	デザイン専攻（視覚デザインコース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻（視覚デザインコース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	大学院演習室
単位	4	定員	10名
担当教員	○鈴木康雄・寺井剛敏・廣瀬純子・坂野 徹・下浜臨太郎・樺島 脩（非常勤）水口克夫・内田まほろ・小林章・米林宏昌・佐藤章		
授業概要	ヴィジュアルコミュニケーションとしての研究要素を多角的に捉え、最終的に実現性のある研究テーマを選定する。 研究テーマに関して検討し、研究の方向性、修了制作までの全体スケジュールを設定する。 制作や実験を通して研究を深め、発表を通して成果を検証する。		
到達目標	前期においては修士課程全体を通じた研究の方向性を探りつつ、基礎研究を行う。 後期では修了制作を想定し研究と試作を並行で進める。多くの試作とディスカッションを繰り返すことで、修了制作に向けた研究計画の具体化を目指す。		
授業計画	毎週の主担当を中心としたミーティングの中で、各自が設定したテーマや制作について話し合い、全体計画をたてる。 個々の作業についての意見をデザイン科全体から取り入れ制作と研究を進める。 指導は各教員がそれぞれの専門性に依拠して行う。 （寺井教授） ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域に関して指導を行う。 （鈴木教授） 写真、映像分野や、多様な素材を複合的に用いた表現に関して指導を行う。 （廣瀬准教授） ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を行う。 （坂野准教授） エディトリアルやインフォグラフィックスを媒体として、情報のコントロールに関して指導を行う。 （下浜講師） ヴィジュアルコミュニケーションの社会的役割を認識し、その可能性を探る指導を行う。 （樺島講師） エンターテインメント分野の商品企画、事業企画に関して指導を行う。 最終プレゼンテーション、制作物の評価はデザイン科全員で行う。 *必要に応じて他コースからの教育指導を受けることができる。		
予習・復習	事前に必要な資料を揃えておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	各自が必要なものを揃える。		
履修上の注意	全員によるミーティングを隔週で行うので、参加可能な者のみ履修可とする。		
成績評価	個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。 [S]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。 [A]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。 [B]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。 [C]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -22	履修コード	5428Z1
科目名	視覚デザイン演習（二）	科目英語名	Practices of Visual Design (2)
科目区分	デザイン専攻（視覚デザインコース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻（視覚デザインコース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	大学院演習室
単位	13	定員	10名
担当教員	○鈴木康雄・寺井剛敏・廣瀬純子・坂野 徹・下浜臨太郎・樺島 脩（非常勤）水口克夫・内田まほろ・小林章・米林宏昌・佐藤章		
授業概要	ヴィジュアルコミュニケーションとしての研究要素を多角的に捉え、最終的に実現性のある研究テーマを修了制作の完成に向けて実行する。研究テーマに関して検討し、研究の方向性、修了制作までの全体スケジュールを設定する。制作や実験を通して研究を深め、中間発表を通して成果を検証する。		
到達目標	前期ではテーマを再認識し、1年次における成果をふまえて具体的な修了制作の方向性を決定する。後期では多くの試作とディスカッションを繰り返すことで、修了制作に向けた制作・研究の高度な完成を目指す。		
授業計画	<p>1年次で設定したテーマを継承、または2年次でテーマを再設定したものを、独自の視点で追求し、オリジナルで高度なヴィジュアルコミュニケーションを完成させ、修了制作を行う。指導は各教員がそれぞれの専門性に依拠して行う。</p> <p>（寺井教授） ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域に関して指導を行う。 （鈴木教授） 写真、映像分野や、多様な素材を複合的に用いた表現に関して指導を行う。 （廣瀬准教授） ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を行う。 （坂野准教授） エディトリアルやインフォグラフィックスを媒体として、情報のコントロールに関して指導を行う。 （下浜講師） ヴィジュアルコミュニケーションの社会的役割を認識し、その可能性を探る指導を行う。 （樺島講師） エンターテインメント分野の商品企画、事業企画に関して指導を行う。</p> <p>* 必要に応じて他コースからの教育指導を受けることができる。</p>		
予習・復習	事前に必要な資料をそろえておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	プリントを配付する。		
教材	各自が必要なものを揃える。		
履修上の注意	全員によるミーティングを隔週で行うので、参加可能な者のみ履修可とする。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -23	履修コード	537721
科目名	製品デザイン演習（一）	科目英語名	Practices of Product Design (1)
科目区分	デザイン専攻（製品デザインコース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻（製品デザインコース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	4	定員	10名
担当教員	村中 稔・○浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・根来貴成		
授業概要	修了制作への導入となる研究的、実践的なデザインワークを行う。		
到達目標	製品デザインに求められる多くの要素を多面的にとらえ調査研究し、その総合としてのデザインの完成を目指したコンセプトモデルをまとめる。		
授業計画	<p>学生、教員双方で話し合い修了制作までの全体計画を決める。現在から未来への生活に関わる製品や製品領域を想定しデザインの研究計画をたてる。具体的な調査やデザインの実験、アイデア展開をおこない、自らのデザイン研究構想をまとめる。それぞれの研究テーマに応じたデザインコンセプトモデルをまとめる。</p> <p>指導は研究指導担当教員が専門の立場から個別に行う。さらに毎月定期的にコースミーティングを行いコース教員全員による研究指導を行う。</p> <p>（村中教授） 情報機器の創造プロセス、インターフェイスデザイン、作品提案におけるプレゼンテーション手法の指導 （浅野教授） 自動車および公共交通機関などモビリティ全般のデザイン、作品制作における素材や加工技術の指導 （河崎教授） 家電品のデザインを、実在や3DCGモデリング技術を駆使し、アイデア展開からプレゼンテーションまでのデザインを指導する。 （安島教授） デザイン全般、テクノロジーとデザインとの関係、市場とデザインとの関係、ユーザーセンタードデザインアプローチを指導 （根来教授） 家具、インテリア製品全般、日用品を含む生活用品のデザインの指導、作品制作における素材選択や構造計画、加工技術の指導</p> <p>* 必要に応じて、他コースからの教育指導を受けることができる。</p> <p>以下3回は、デザイン専攻全体での発表会で発表を行う。 第1回：M1前期発表 第2回：M1中間発表（後期） 第3回：M1最終発表</p>		
予習・復習	主体的な調査考察デザイン展開を持続すること。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	同上		
教材	デザイン参考品等		
履修上の注意	毎月1回以上製品デザインコース全員による経過報告会を開催する。その際レジュメを用意すること。 また、デザイン専攻全体発表会前にコースミーティングで発表内容を報告する。		
成績評価	<p>前期発表、後期中間発表、最終発表会に参加しプレゼンテーションを行う。 最終コンセプトモデルとプレゼンテーションパネル、デザインプロセスの充実度。 調査・分析およびデザインの展開力を評価する。 [S] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として極めて高いレベルで表現されている。 [A] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として高いレベルで表現されている。 [B] 製品デザインの研究プロセスを活かし、独創性と社会性のあるデザイン提案として表現されている。 [C] 製品デザインの研究プロセスを活かし、デザイン提案として表現されている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -24	履修コード	5429Z1
科目名	製品デザイン演習（二）	科目英語名	Practices of Product Design (2)
科目区分	デザイン専攻（製品デザインコース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻（製品デザインコース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	13	定員	10名
担当教員	村中 稔・○浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・根来貴成		
授業概要	学生のデザイン研究テーマに応じた専門的な指導を徹底し、密度の濃いデザインワークを実現することを旨とする。		
到達目標	調査や実験、アイデア展開の集積を経て独創性ある具体的なプロトタイプを制作し、検証を重ね、完成度の高いデザイン研究としてまとめる。		
授業計画	<p>1年次のテーマを継承し、さらに踏み込んだ視点から研究計画をたて、調査や実験を重ねる。独創性や完成度の高い製品デザイン研究となることを目指して妥協のないデザインワークを行う。指導は研究指導担当教員が専門の立場から個別に行う。さらに毎月定期的にコースミーティングを行いコース教員全員による研究指導を行う。</p> <p>（村中教授） 情報機器の創造プロセス、インターフェイスデザイン、作品提案におけるプレゼンテーション手法の指導 （浅野教授） 自動車および公共交通機関などモビリティ全般のデザイン、作品制作における素材や加工技術の指導 （河崎教授） 家電品のデザインを、実在や3DCGモデリング技術を駆使し、アイデア展開からプレゼンテーションまでのデザインを指導する。 （安島教授） デザイン全般、テクノロジーとデザインとの関係、市場とデザインとの関係、ユーザーセンタードesignアプローチを指導 （根来教授） 家具、インテリア製品全般、日用品を含む生活のデザイン、作品制作における素材選択や構造計画、加工技術の指導</p> <p>各デザイン研究の個別指導の充実を計りながら、必要に応じてコース全教員の指導の機会を配置する。 *必要に応じて、他コースからの教育指導を受けることができる。</p> <p>以下4回は、デザイン専攻全体での発表会で発表を行う。 第1回：M2テーマ発表（前期） 第2回：M2前期発表 第3回：M2中間発表（後期） 第4回：M2最終発表</p> <p>修了制作展に展示し公開する。</p>		
予習・復習	主体的な調査と分析や、そのデザイン展開を徹底する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	同上		
教材	同上		
履修上の注意	毎月1回以上製品デザインコース全員による経過報告会を開催する。その際レジュメを用意すること。また、デザイン専攻全体発表会前にコースミーティングで発表内容を報告する。		
成績評価	<p>テーマ発表、中間発表、最終発表会に参加しプレゼンテーションを行う。最終モデル、プレゼンテーションパネル、プレゼンテーション映像等を中心に評価する。</p> <p>[S] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として極めて高いレベルで表現されている。</p> <p>[A] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として高いレベルで表現されている。</p> <p>[B] 製品デザインの研究プロセスを総合的に活かし、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として表現されている。</p> <p>[C] 製品デザインコース修士としての諸能力が習得されている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -25	履修コード	5386Z1
科目名	環境デザイン演習（一）	科目英語名	Practices of Environment Design (1)
科目区分	デザイン専攻（環境デザインコース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻（環境デザインコース）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	4	定員	10名
担当教員	○角谷 修・鵜 隆弘・畝野裕司・北村賢哉・西本耕喜（客員教授）須田武憲・鷲田めるろ		
授業概要	前期で修得した制作・研究の手法や考え方にに基づき、修了制作・研究に向けた出発点として、PDCAによる実験・検証の期間として各々の制作・研究を深める。		
到達目標	テーマ設定、結果想定（仮説設定）、理論的根拠構築、具体的作品という空間をデザインする手法の実践面を強化する。		
授業計画	<p>前期の制作・研究をベースに、また、「環境計画特論」等で修得した制作・研究を推進するための考え方や手法から、各自個別のテーマに沿って制作・研究を深めるとともに修了制作・研究へのロードマップを作成し、合同発表会に向けて実践する。</p> <p>各教員の担当分野は次の通りである。</p> <p>（角谷教授） 公共の展示空間、商環境デザインを中心に人々の活動とデザインを結びつける空間デザイン領域を指導する。 （鵜教授） 造園・ランドスケープデザインを中心に屋外空間や土地、緑地の成立ち等エクステリアデザイン領域を指導する。 （畝野教授） ディスプレイ・空間グラフィックを中心に商品企画からディスプレイまでの成立ちやその効果等、より人々の活動に密接した領域から指導する。 （北村教授） インテリア関連の視点から設備、什器を含めて指導する。 （西本講師） 都市デザイン・建築を中心に様々なデザインが統合された空間領域を指導する。 （客員教授） 上記専門分野を俯瞰し連携する視点を持って、空間デザイン領域を指導する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>各段階で提出を課す作品及びレポートの評価を総合して単位を認定する。</p> <p>[S] 空間デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。</p> <p>[A] 空間デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。</p> <p>[B] 空間デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。</p> <p>[C] 空間デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(M5) -26	履修コード	5430Z1
科目名	環境デザイン演習（二）	科目英語名	Practices of Environment Design (2)
科目区分	デザイン専攻（環境デザインコース）科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン専攻（環境デザインコース）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	13	定員	10名
担当教員	○角谷 修・鏝 隆弘・畝野裕司・北村賢哉・西本耕喜		
授業概要	環境デザインの幅広い領域より前期は、これまでの研究を踏まえて修了制作のテーマを絞り込むと共に、事前調査や取材を実施する。後期は修了制作を具体的に進行させて、作品としての完成度を高める。また研究としての報告書をまとめる。		
到達目標	自身の研究テーマを明確にして、専門として取組んだ環境デザイン領域の集大成の成果を示す。基本的な考え方として社会と現場との関わりを重視する。そのため実施可能なプロジェクトを念頭に置いて研究・制作を行う。		
授業計画	<p>前半は研究テーマを組み立てることを中心に取組む。各担当教員が専門の立場から個別指導を行う他、二週間毎のコース教員全員による研究指導を実施する。</p> <p>各教員の担当分野は次の通りである。</p> <p>（角谷教授） 公共の展示空間、商環境デザインを中心に人々の活動とデザインを結びつける空間デザイン領域を指導する。 （鏝教授） 造園・ランドスケープデザインを中心に屋外空間や土地、緑地の成立ち等エクステリアデザイン領域を指導する。 （畝野教授） ディスプレイ・空間デザインを中心に商品企画からディスプレイまでの成立ちやその効果等、より人々の活動に密接した領域から指導する。 （北村教授） プロダクトデザインを軸にインテリア関連の視点から設備、什器を含めて指導する。 （西本講師） 上記専門分野を補う形で指導する。</p> <p>後半は研究テーマを明確にし、その方向に沿った作品制作の指導とその成果をプレゼンテーション実施するための準備をおこなう。そのため定期的な研究指導と共に主担当教員と綿密に連携を取って研究を推進する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	研究指導の折りに必要に応じて紹介する。		
教材	毎回指導の程度により適宜指定する。		
履修上の注意	取材及び視察等、事前の調査の折りには必ず担当教員との綿密な打合せを実施する。その他、毎回の研究指導に臨むために研究レポートや報告書を準備する。		
成績評価	<p>前期研究テーマ設定と中間レビュー 30% 最終モデル、プレゼンテーションまたはこれに代わる研究レポート 70%</p> <p>[S] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。 [A] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 [B] デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 [C] デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -01	履修コード	5501Z1
科目名	地域美術演習	科目英語名	Seminar of Regional Arts
科目区分	博士後期課程全研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	博士後期課程全研究領域1年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	必修	教室	LAVC室・野外調査・見学
単位	1	定員	
担当教員	菊池裕子・鏑隆弘・○高橋明彦・水野さや・渋谷拓・山本浩貴		
授業概要	金沢の伝統工芸、江戸時代芸術文化、環日本海文化圏の美術などについて、諸専門分野から歴史的ならびに文化的形成を説明し、このテーマ研究のための多角的な観点と分析データを提供し、基礎を共有しながら個別の制作研究に展開させてゆく。		
到達目標	受講生がそれぞれに理論面において総合的把握をして、共通理解に立ちながらもそれぞれ独自の研究方向を見出すことを求める。単なる受講ではなく、地域美術の概念とその特性を探究する創造的視点を作り出す。		
授業計画	<p>以下の分担によるオムニバス方式の授業とするが、相互啓発と共通認識のために全担当教員が参加して全受講生と共に討議・調査研究する授業も適宜に織混ぜる。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>（菊池教授） 学生個人、グループで興味のある金沢の伝統工芸家・現代工芸家を選び、その工房や展覧会を見学し、伝統、近代、文化産業の問題などをテーマとして研究発表を行い、討論を行う。</p> <p>（鏑教授） 金沢を中心とした地域における空間的特徴を、地域の自然、社会、生活、材料、産業、建築や都市の歴史などの文脈から考察し、都市や住空間、町並みなどの表層に潜む魅力の読み解き方をともに考える。</p> <p>（水野教授） 地域に関連する作例を取り上げ、アジアとのつながりにおいてその特性を考えることが目的である。受講生自ら調査対象を設定し、2回の研究発表を行い、毎回のディスカッションを通して理解をより深いものとする。</p> <p>（高橋教授） 地域性（locality）に関する原理的な問題（全体と部分の関係など）を講義、議論します。中沢新一『フィロソフィア・ヤポニカ』（集英社 2001年、講談社学術文庫 2011年）、篠原資明『ベルクソンーくあいだ』の哲学の視点から』（岩波新書、二〇〇六年）を参考にします。</p> <p>（渋谷准教授） 国際的に活躍する近現代の美術家を例にとり、「地域に留まって制作・発信すること」の美学的・社会学的な意味について考察する。</p> <p>（山本講師） 藤田直哉編『地域アート——美学/制度/日本』（2016年、堀之内出版）、十和田市現代美術館編『地域アートはどこにある?』（2020年、堀之内出版）などを参考にしながら、「地域アート」をめぐる可能性と問題点について多角的に議論する。そのなかで提出された論点を基にして、金沢の具体的な「地域アート」に関してそれぞれの考察を深めていく。</p>		
予習・復習	常に必要。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	積極的参加が必要です。		
成績評価	<p>課題提出を随時課し、それに基づいて、担当教員全員で評価する。</p> <p>[S] 地域美術の概念とその特性を探究する創造的視点を幅広く考察し、極めて高いレベルで効果的に作り出した。</p> <p>[A] 地域美術の概念とその特性を探究する創造的視点を幅広く考察し、高いレベルで効果的に作り出した。</p> <p>[B] 地域美術の概念とその特性を探究する創造的視点を幅広く考察し、効果的に作り出した。</p> <p>[C] 地域美術の概念とその特性を探究する創造的視点を幅広く考察した。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -02	履修コード	5502Z1~5506Z4
科目名	造形総合研究（一）	科目英語名	Comprehensive Research of Art（1）
科目区分	博士後期課程全研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	博士後期課程全研究領域1年次	曜日・時限	
履修区分	選択必修	教室	
単位	2	定員	
担当教員	松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和・三浦賢治・大森啓・鈴木浩之・高橋治希・岩崎純・武田雄介・石田陽介・土井宏二・浜田周・芝山昌也・津田道子・山本健史・池田晶一・宮永春香・田中信行・山村慎哉・畠山耕治・原智・大高亨・足立真美・加賀城健・角谷修・鏑隆弘・畝野裕司・北村賢哉・寺井剛敏・鈴木康雄・廣瀬純子・坂野徹・村中稔・浅野隆・河崎圭吾・安島諭・根来貴成・神谷佳男・○保井亜弓・菊池裕子・水野さや・青柳りさ・高橋明彦・桑村佐和子・大谷正幸・渋谷拓		
授業概要	造形各分野の実技的研究を専門的に深化させると共に、学際的総合精神によりそれら相互を交流させる機会を作る。		
到達目標	理論的反省を加えて新しい創造へのきっかけを作り出す。		
授業計画	<p>毎週の授業である（A）と年2回行う（B）の部分から構成し、その合成により造形各分野の実技と理論を結んだ学際的な研究を行う。</p> <p>（A）金沢、日本、世界の美術工芸性と関連した研究テーマの下に、絵画系、彫刻系、工芸系、デザイン系、芸術学系の5クラスを設ける。それぞれのクラス内でその研究課題をより具体的に設定し、その専門分野に応じた方法により研究する。</p> <p>（B）各学生の研究の中間報告ならびに成果発表を共同研究会形式にして、全履修生と全担当教員が出席し、討議と合評を行う。そのようにして各研究について全員が相互啓発した研究方法とジャンルを超えた共通問題に総合的な認識を持ち、さらに各自の追究の深化を進める。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>（A）絵画系、彫刻系、工芸系、デザイン系の各クラスにおける理論指導は、次の教員のうちから、受講生の希望も加味して、その研究テーマに合致する者が担当する。 （神谷教授・保井教授・菊池教授・青柳教授・高橋教授・桑村教授・大谷教授・水野教授） 制作の歴史的・理論的面からの考察の指導または指導を補助する。</p> <p>■絵画系のクラス [①または②を選択]</p> <p>①日本画的研究（5502Z1） （松崎教授）絵画表現の分析とテーマの選定に関して、学生の研究志向に応じて実技的指導をする。 （佐藤教授）絵画表現の分析とテーマの選定に関して、学生の研究志向に応じて実技的指導をする。 （荒木准教授）絵画表現の分析および作品制作の実技と理論の指導をする。 （よしだ准教授）作品制作、特に現代美術表現の実技的指導及びそのコンセプト指導を補助する。 （石崎准教授）作品制作の実技的指導および論文指導を補助する。</p> <p>②洋画的研究（5502Z2） （神谷教授）絵画制作全般及び版画表現について指導する。 （三浦教授）絵画作品制作の実技的指導をする。 （大森教授）絵画作品制作の実技的指導をする。 （高橋教授）絵画および立体・空間表現作品制作の実技的指導をする。 （鈴木教授）絵画および映像作品制作の実技的指導をする。 （岩崎准教授）作品制作の実技的指導を補助する。 （武田講師）表現の現代的な手法ならびにコンセプトについての指導を補助する。</p> <p>■彫刻系のクラス（5503Z1） （石田教授）現代における具象表現について実技的指導を行う。 （土井教授）現代的表現に結びつく、各種素材研究の指導を行う。 （浜田准教授）現代表現における技法およびコンセプトの指導を補助する。 （芝山准教授）彫刻における多様な技法やコンセプトを指導する。 （津田准教授）現代における作品について、独自の理論を持って制作を行い、論考としても探求するよう指導を補助する。</p> <p>■工芸系のクラス [①～④の内から一つを選択]</p> <p>①陶磁的研究（5504Z3） （山本教授）陶造形表現についての実技と理論の指導をする。 （池田教授）陶磁の実技と理論の指導をする。 （宮永准教授）陶造形表現と理論についての指導を補助する。</p> <p>②漆芸的研究（5504Z1） （田中教授）漆による造形表現の実技と理論の指導をする。 （山村教授）漆芸における加飾表現の実技と理論の指導をする。</p>		

	<p>③ 金工的研究をオムニバス方式で行う。(5504Z2) (畠山教授) 鋳金の面からの実技と理論の指導をする。 (原教授) 鍛金の面からの実技と理論の指導をする。</p> <p>④ 染織的研究をオムニバス方式で行う。(5504Z4) (大高教授) 染織の実技と理論の指導をする。 (足立教授) 織の表現について指導を補助する。 (加賀城准教授) 染の表現について指導を補助する。</p> <p>■ デザイン系のクラス [①～③の内から一つを選択] ① 環境デザイン的研究をオムニバス方式で行う。(5505Z1) (角谷教授) インテリア、内部空間デザインの分野において指導する。 (鏑教授) ランドスケープデザインの分野において指導する。 (畝野教授) 空間グラフィック、ディスプレイデザインの分野において指導する。 (北村教授) インテリア関連の視点から設備、什器を含めて指導を補助する。</p> <p>② 製品デザイン的研究を学生の研究志向に則して分担する。(5505Z2) (村中教授) 機器デザインとインターフェイスの面から指導する。 (浅野教授) 金属材料・動力運動とトランスポーションデザイン領域の面から指導する。 (河崎教授) 3DCGモデリング技術を駆使したデザイン分野の指導をする。 (安島教授) テクノロジー・ビジネス・デザインとの関係、デザインシンキングに立脚し指導をする。 (根来教授) 家具デザインと加工方法および歴史研究の面から指導を補助する。</p> <p>③ 視覚デザイン的研究を学生の研究志向に則して分担する(5505Z3) (寺井教授) ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の面から指導する。 (鈴木教授) デジタルメディア、写真、映像分野、素材表現等に関して指導する。 (廣瀬准教授) ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を補助する。 (坂野准教授) グラフィックユーザーインターフェイスやエディトリアルデザイン、デジタルデザインに関して指導の補助を行う。</p> <p>■ 芸術学系のクラス [①～③の内から一つを選択] ① 工芸史的研究(5506Z2) (菊池教授) 工芸史の面で地域的造形の形成要因とその個性的性格の分析を指導する。 ② 日本・東洋美術史的研究(5506Z3) (水野教授) 日本美術および東洋美術の地域的造形の形成要因とその個性的性格に関して美術史的分析を指導する。 ③ 西洋美術史的研究(5506Z4) (保井教授) 西洋美術の地域的造形の形成要因とその個性的性格に関して美術史的分析を指導する。</p> <p>(B) 地域性のある造形研究の(A)での各学生の研究の中間報告ならびに成果発表を、定期的な共同研究形式にして全履修生と全担当教員が出席し、討議と合評を行う。このようにして各研究について全員が共通の総合的な認識を持ち、造形各分野の実技と理論を結んだ学際的な研究を進める。</p>
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また授業の性質上時間外の学習が多く必要となる。
教科書	適宜指示する。
参考書	
教材	
履修上の注意	
成績評価	<p>評価基準 [S]立案確認された研究指導計画にてらして、実技と理論を結んで十分な研究が行われ、非常に高度な成果が示された。 [A]立案確認された研究指導計画にてらして、実技と理論を結んで十分な研究が行われ、高度な成果が示された。 [B]立案確認された研究指導計画にてらして、実技と理論を結んで相応な研究が行われ、十分な成果が示された。 [C]立案確認された研究指導計画にてらして、規定の研究発表を行い、相応の成果が示された。</p>

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -03	履修コード	5507Z1~5511Z4
科目名	造形総合研究（二）	科目英語名	Comprehensive Research of Art（2）
科目区分	博士後期課程全研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	博士後期課程全研究領域2年次	曜日・時限	
履修区分	選択必修	教室	
単位	2	定員	
担当教員	松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・三浦賢治・大森啓・鈴木浩之・高橋治希・岩崎純・武田雄介・石田陽介・土井宏二・浜田周・芝山昌也・津田道子・山本健史・池田晶谷・一宮永春香・田中信行・山村慎哉・畠山耕治・原智・大高亨・足立真実・加賀城健・角谷修・鐔隆弘・畝野裕司・北村賢哉・寺井剛敏・鈴木康雄・廣瀬純子・坂野徹・村中稔・浅野隆・河崎圭吾・安島諭・根来貴成・神谷佳男・保井亜弓・菊池裕子・水野さや・青柳りさ・高橋明彦・桑村佐和子・大谷正幸・渋谷拓（客員教授）佐藤一郎・河口龍夫・横山勝彦・橋本真之		
授業概要	造形各分野の実技的研究を専門的に一層深化させると共に、学際的総合精神によりそれら相互を交流させる機会を作り、また理論的反省を加えて新しい創造への基盤を固めさせる。		
到達目標	「造形総合研究（一）」を履修した者にその成果をふまえて、研究発展のためより深い調査分析への指導により、（一）の段階よりも進んだ成果をあげる。		
授業計画	<p>毎週の授業である（A）と年2回行う（B）の部分から構成し、その合成により造形各分野の実技と理論を結んだ学際的な研究を行う。</p> <p>（A）金沢、日本、世界の美術工芸性と関連した研究テーマの下に、絵画系、彫刻系、工芸系、デザイン系、芸術学系の5クラスを設ける。それぞれのクラス内でその研究課題をより具体的に設定し、その専門分野に応じた方法により研究する。</p> <p>（B）各学生の研究の中間報告ならびに成果発表を共同研究会形式にして、全履修生と全担当教員が出席し、討議と合評を行う。そのようにして各研究について全員が相互啓発した研究方法とジャンルを超えた共通問題に総合的な認識を持ち、さらに各自の追究の深化を進める。</p> <p>次の内容を「造形総合研究（一）」よりそれぞれ一層高いレベルで行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>（A）絵画系、彫刻系、工芸系、デザイン系の各クラスにおける理論指導は、次の教員のうちから、受講生の希望も加味して、その研究テーマに合致する者が担当する。 （神谷教授・保井教授・菊池教授・青柳教授・高橋教授・桑村教授・大谷教授・水野教授） 制作の歴史的・理論的面からの考察の指導または指導を補佐する。</p> <p>■絵画系のクラス〔①または②を選択〕</p> <p>①日本画的研究（5507Z1） （松崎教授）絵画表現の分析とテーマの選定に関して、学生の研究志向に応じて実技的指導をする。 （佐藤教授）絵画表現の分析とテーマの選定に関して、学生の研究志向に応じて実技的指導をする。 （荒木准教授）絵画表現の分析および作品制作の実技と理論の指導をする。 （よしだ准教授）作品制作、特に現代美術表現の実技的指導及びそのコンセプト指導を補助する。 （石崎准教授）作品制作の実技的指導および論文指導を補助する。</p> <p>②洋画的研究（5507Z2） （神谷教授）絵画制作全般及び版画表現について指導する。 （三浦教授）絵画作品制作の実技的指導をする。 （大森教授）絵画作品制作の実技的指導をする。 （高橋教授）絵画および立体・空間表現作品制作の実技的指導をする。 （鈴木教授）絵画および映像作品制作の実技的指導をする。 （岩崎准教授）作品制作の実技的指導を補助する。 （武田講師）表現の現代的な手法ならびにコンセプトについての指導を補助する。</p> <p>■彫刻系のクラス（5508Z1） （石田教授）現代における具象表現について実技的指導を行う。 （土井教授）現代的表現に結びつく、各種素材研究の指導を行う。 （浜田准教授）現代表現における技法およびコンセプトの指導を補助する。 （芝山准教授）現代彫刻における多様な技法やコンセプトを指導する。 （津田准教授）現代における作品について、独自の理論を持って制作を行い、論考としても探求するよう指導を補助する。</p> <p>■工芸系のクラス〔①～④の内から一つを選択〕 （橋本教授）全体の研究を監修する。</p> <p>①陶磁的研究（5509Z3） （山本教授）陶造形表現についての実技と理論の指導をする。</p>		

	<p>(池田教授) 陶磁の実技と理論の指導をする。 (宮永准教授) 陶造形表現についての実技と理論の指導を補助する。 ②漆芸的研究 (5509Z1) (田中教授) 漆による造形表現の実技と理論の指導をする。 (山村教授) 漆芸における加飾表現の実技と理論の指導をする。 ③金工的研究をオムニバス方式で行う。(5509Z2) (島山教授) 鑄金の面からの実技と理論の指導をする。 (原教授) 鍛金の面からの実技と理論の指導をする。 ④染織的研究をオムニバス方式で行う。(5509Z4) (大高教授) 染織の実技と理論の指導をする。 (足立教授) 織の表現についての実技指導を補助する。 (加賀城准教授) 染の表現についての実技指導を補助する。</p> <p>■デザイン系のクラス [①～③の内から一つを選択] ①環境デザイン的研究をオムニバス方式で行う。(5510Z1) (角谷教授) インテリア、内部空間デザインの分野において指導する。 (鏝教授) ランドスケープデザインの分野において指導する。 (畝野教授) 空間グラフィック、ディスプレイデザインの分野において指導する。 (北村教授) インテリア関連の視点から設備、什器を含めて指導を補助する。 ②製品デザイン的研究を学生の研究志向に則して分担する。(5510Z2) (村中教授) 機器のデザインとインターフェイスの面から指導する。 (浅野教授) 金属材料・動力運動とトランスポートデザイン領域の面から指導する。 (河崎教授) 3DCGモデリング技術を駆使したデザイン分野の指導をする。 (安島教授) テクノロジー・ビジネス・デザインとの関係、デザインシンキングに立脚し指導をする。 (根来教授) 家具デザインと加工方法及び歴史研究の面から指導を補助する。 ③視覚デザイン的研究を学生の研究志向に則して分担する(5510Z3) (寺井教授) ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の面から指導する。 (鈴木教授) デジタルメディア、写真、映像分野、素材表現等に関して指導を補佐する。 (廣瀬准教授) ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を補助する。 (坂野准教授) グラフィックユーザーインターフェイスやエディトリアルデザイン、デジタルデザインに関して指導の補助を行う。</p> <p>■芸術学系のクラス [①～③の内から一つを選択] ①工芸史的研究 (5511Z2) (菊池教授) 工芸史の面で地域的造形の形成要因とその個性的性格に関して分析を指導する。 ②日本・東洋美術史的研究 (5511Z3) (水野教授) 日本美術および東洋美術の地域的造形の形成要因とその個性的性格に関して美術史的分析を指導する。 ③西洋美術史的研究 (5511Z4) (保井教授) 西洋美術の地域的造形の形成要因とその個性的性格に関して美術史的分析を指導する。</p> <p>(B) 地域性のある造形研究の(A)での各学生の研究の中間報告ならびに成果発表を、定期的な共同研究形式にして全履修生と全担当教員が出席し、討議と合評を行う。このようにして各研究について全員が共通の総合的な認識を持ち、造形各分野の実技と理論を結んだ学際的な研究を進める。</p>
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また授業の性質上時間外の学習が多く必要となる。
教科書	適宜指示する。
参考書	
教材	
履修上の注意	
成績評価	<p>評価基準 [S]立案確認された研究指導計画にてらして、実技と理論を結んで十分な研究が行われ、非常に高度な成果が示された。 [A]立案確認された研究指導計画にてらして、実技と理論を結んで十分な研究が行われ、高度な成果が示された。 [B]立案確認された研究指導計画にてらして、実技と理論を結んで相応な研究が行われ、十分な成果が示された。 [C]立案確認された研究指導計画にてらして、規定の研究発表を行い、相応の成果が示された。</p>

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -04	履修コード	5551Z1～Z2
科目名	絵画研究制作（一）	科目英語名	Research and Practice of Painting（1）
科目区分	美術研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術研究領域 1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○大森 啓・松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和・神谷佳男・三浦賢治・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純・武田雄介		
授業概要			
到達目標	平面造形等の分野で、諸技法を琢磨しながら表現内容と表現形式の創造的一致を高度なレベルで実技的に探求する。		
授業計画	<p>選択的に日本画的研究と洋画的研究に分け、その中で特定の技法については、指導の補助者も配し受講者の希望に応じた充実した対応をとる。さらに、全体の共通な問題については合同の授業も交える。前期（8月）、後期（2月）に博士課程研究発表会を行う。博士課程1年次は、後期（2月）しいのき迎賓館において、制作発表展を行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】 絵画共通の表現問題について大森 啓教授が双方の研究を講評して指導する。</p> <p>①日本画的研究 日本画の精神を多くの作例の研究と制作から体得し、主題の選択・追求、モチーフの選択と構成、構図法、彩色等にその生かし方を、古典的技法と今日的表現を調和させて行うことを実技的に深く探求させる。 以下の教員が学生の研究志向に応じて、分担したり共同で担当する。 （松崎教授）日本画的制作一般ならびに特に心象的表現・抽象的表現・先端的表現の指導をする。 （佐藤教授）日本画的制作一般ならびに特に墨彩技法とデジタルメディア関連の指導をする。 （荒木准教授）素材研究（箔・泥技法を含む）ならびに保存修復関連の指導をする。 （よしだ准教授）先端的日本画制作の指導を補助する。 （石崎准教授）日本画的制作一般ならびに特に構図法・紙本膠彩・絹本膠彩の指導を補助する。</p> <p>②洋画的研究 油彩画技法による様々な表現の追求を中心として、アクリル、テンペラ、その他の平面造形の技法もアカデミックな伝統を踏まえて実技的に研究する。課題制作と自由制作を織り混ぜ、工夫と創造の感性と技術を深める。 以下の教員が学生の研究志向に応じて、分担したり共同で担当する。 （神谷教授）素描並びに版画技法の指導をする。 （三浦教授）油彩画、テンペラ画技法を中心とした、具象絵画の造形性についての指導をする。 （大森教授）油彩画・アクリル画技法を中心とした、絵画制作の実技的指導をする。 （高橋教授）インスタレーションを含む多様な表現の指導をする。 （鈴木教授）絵画制作ならびにデジタルメディア関連の指導をする。 （岩崎准教授）材料・素材研究を含む絵画制作の実技的指導を補助する。 （武田講師）現代の美術・絵画分野における新しい表現の指導を補助する。</p>		
予習・復習			
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	研究分野ごとの履修コードは次のとおり（5551は共通）。 日本画Z1、洋画Z2		
成績評価	<p>作品合評（年2回） ＜判定の基準＞ [S] 研究姿勢も含めた総合的観点において研究結果の作品や成果が特に秀でている。 [A] 研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められる。 [B] 提出作品の内容や計画による達成度が予定通り進められていると認められる。 [C] 研究計画による取り組みや提出作品の内容が満たされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -05	履修コード	5552Z1～Z2
科目名	絵画研究制作（二）	科目英語名	Research and Practice of Painting（2）
科目区分	美術研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術研究領域 2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○大森 啓・松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和・神谷佳男・三浦賢治・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純・武田雄介		
授業概要			
到達目標	「絵画研究制作（一）」での理念と方法を継承し、それを履修した者にそれをさらに高次に展開させた成果を得させる。平面造形の分野で、諸技法を琢磨しながら表現内容と表現形式の創造的一致を高度なレベルで実技的に探求する。		
授業計画	<p>選択的に日本画的研究と洋画的研究に分け、その中で特定の技法については、指導の補助者も配し受講者の希望に応じた充実した対応をとる。さらに、全体の共通な問題については合同の授業も交える。前期（8月）、後期（2月）に、博士課程研究発表会を行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】 絵画共通の表現問題について大森 啓教授が双方の研究を講評して指導する。</p> <p>①日本画的研究 日本画の精神を多くの作例の研究と制作から体得し、主題の選択・追求、モチーフの選択と構成、構図法、彩色等にその生かし方を、古典的技法と今日的表現を調和させて行うことを実技的に深く探求させる。 以下の教員が学生の研究志向に応じて、分担したり共同で担当する。 （松崎教授）日本画的制作一般ならびに特に心象的表現・抽象的表現・先端的表現の指導をする。 （佐藤教授）日本画的制作一般ならびに特に墨彩技法とデジタルメディア関連の指導をする。 （荒木准教授）素材研究（箔・泥技法を含む）ならびに保存修復関連の指導をする。 （よしだ准教授）先端的日本画制作の指導を補助する。 （石崎准教授）日本画的制作一般ならびに特に構図法・紙本膠彩・絹本膠彩の指導を補助する。</p> <p>②洋画的研究 油彩画技法による様々な表現の追求を中心として、アクリル、テンペラ、その他の平面造形の技法もアカデミックな伝統を踏まえて実技的に研究する。課題制作と自由制作を織り混ぜ、工夫と創造の感性と技術を深める。 （神谷教授）素描並びに版画技法の指導をする。 （三浦教授）油彩画・テンペラ画技法を中心とした、具象絵画の造形性についての指導をする。 （大森教授）油彩画・アクリル画技法を中心とした、絵画制作の実技的指導をする。 （高橋教授）インスタレーションを含む多様な表現の指導をする。 （鈴木教授）絵画制作ならびにデジタルメディア関連の指導をする。 （岩崎准教授）材料・素材研究を含む、絵画制作の実技的指導を補助する。 （武田講師）現代の美術・絵画分野における新しい表現の指導を補助する。</p>		
予習・復習			
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	研究分野ごとの履修コードは次のとおり（5552は共通）。 日本画Z1、洋画Z2		
成績評価	<p>評価基準</p> <p>[S] 研究姿勢も含めた総合的観点において研究結果の作品や成果が特に秀でている。 [A] 研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められる。 [B] 提出作品の内容や計画による達成度が予定通り進められていると認められる。 [C] 研究計画による取り組みや提出作品の内容が満たされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -06	履修コード	5553Z1
科目名	彫刻研究制作（一）	科目英語名	Research and Practice of Sculpture（1）
科目区分	美術研究領域 彫刻分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術研究領域 彫刻分野等1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子		
授業概要	各自の研究テーマをもとに、立体造形表現に関する理論的考察と、素材、技法、形態等に関する探求を制作に結びつける。		
到達目標	表現に関する理論的考察や素材、技法、形態等に関する研究を主体的に行い、実践的に制作へと結びつける。		
授業計画	<p>上記の授業理念を共有しながら、全体的な制作理念の検討を行うとともに、塑造、木彫、石彫、金属造形、ミクストメディア造形など各種立体造形に関して、それぞれの志向に応じた分野別の探求を行う。</p> <p>学生各自の研究内容に即して、特殊技法などについては、指導の補助者を配するなど、その充実を図る。全体に共通する問題については合同授業も交える。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>（石田教授） 具象的表現を中心に木彫および塑造技法の面から指導する。 （土井教授） 塑造および特殊技法の面から指導する。 （浜田准教授） 多様な表現を金属加工技法の面から指導を補助する。 （芝山准教授） 彫刻の多様な表現を石彫および複合的技法の面から指導する。 （津田准教授） 作品の構想とメディウムの関係から指導を補助する。</p> <p>制作について多角的に考察するため、学内において実験的な展示発表等を行う。また、学外においても様々な形態の展覧会を企画立案し、展示活動を通して自己の制作について再考を図る。適宜中間合評を持ち、全教員から多角的な指導・助言を行う。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	制作等に関わる実費については自己負担とする。		
成績評価	<p>合評（随時）、作品提出（学期末） 作品のコンセプト、造形性および完成度等を総合的に評価する。 作品の評価については全教員でこれにあたり、協議のうえ決定する。 各課題レポート、研究報告、プレゼンテーション等を総合的に評価する。 [S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。 [A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -07	履修コード	5554Z1
科目名	彫刻研究制作（二）	科目英語名	Research and Practice of Sculpture（2）
科目区分	美術研究領域 彫刻分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術研究領域 彫刻分野等2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	〇土井宏二・石田陽介・浜田周・芝山昌也・津田道子		
授業概要	「彫刻研究制作（一）」の成果を踏まえて研究の深化を図り、その造形理念と制作方法を一層高い次元で展開させ、各自の制作に結びつける。		
到達目標	表現に関する理論的考察や素材、技法、形態等に関する研究を発展させ、実践的に制作へと結びつける。		
授業計画	<p>上記の授業理念を共有しながら、全体的な制作理念の検討を行うとともに、塑造、木彫、石彫、金属造形、ミクストメディア造形など各種立体造形に関して、それぞれの志向に応じた分野別の探求を行う。</p> <p>学生各自の研究内容に即して、特殊技法などについては、指導の補助者を配するなど、その充実を図る。全体に共通する問題については合同授業も交える。</p> <p>【担当教員とその分担内容】 (石田教授) 具象的表現を中心に木彫および塑造技法の面から指導する。 (土井教授) 塑造および特殊技法の面から指導する。 (浜田准教授) 多様な表現を金属加工技法の面から指導を補助する。 (芝山准教授) 現代彫刻の多様な表現を石彫および複合的技法の面から指導する。 (津田准教授) 作品の構想とメディウムの関係から指導を補助する。</p> <p>制作について多角的に考察するため、学内において実験的な展示発表等を行う。また、学外においても様々な形態の展示会を企画立案し、展示活動を通して自己の制作について再考を図る。適宜中間合評を持ち、全教員から多角的な指導・助言を行う。</p>		
予習・復習	事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	制作等に関わる実費については自己負担とする。		
成績評価	<p>合評（随時）、作品提出（学期末） 作品のコンセプト、造形性および完成度等を総合的に評価する。 作品の評価については全教員でこれにあたり、協議のうえ決定する。 各課題レポート、研究報告、プレゼンテーション等を総合的に評価する。 [S]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を特に高いレベルで修得することが出来た。 [A]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において主体的に研究に取り組み、彫刻に関する視野を広げ、自己制作論の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -08	履修コード	5555Z1～Z4
科目名	工芸研究制作（一）	科目英語名	Research and Practice of Craft（1）
科目区分	工芸研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸研究領域1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	山本健史・○池田晶一・宮永春香・田中信行・山村慎哉・畠山耕治・原 智・大高 亨・足立真実・加賀城健（客員教授）金子賢治・唐澤昌宏		
授業概要	学生各自の研究テーマにそって、技法の研究、素材と表現および理論的考察を作品制作を通して探求する。		
到達目標	技法の研究、伝統と現代的表現の調和、素材と表現の可能性、造形性と技術的対処法等の実技的探求を通して、現代における工芸について考察し、作品制作によってその成果を示す。		
授業計画	<p>漆芸、陶磁、金工、染織の分野に分け、それぞれのクラスで上の方針を具現化する。また、その中で特定の技法については指導の補助者を配し受講者の希望に応じて対応をする。さらに、全体の共通問題については合同の授業も交える。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>①陶磁研究 （山本教授） 陶造形表現及び理論についての指導をする。 （池田教授） 陶磁の技法と表現の面から実技と理論の指導をする。 （宮永准教授） 陶造形表現についての実技と理論の指導を補助する。</p> <p>②漆芸研究 （田中教授） 漆による造形表現及び理論の指導をする。 （山村教授） 漆芸における加飾表現及び理論の指導をする。</p> <p>③金工研究 （畠山教授） 鋳金技法及び理論の指導をする。 （原 教授） 鍛金技法及び理論の指導をする。</p> <p>④染織研究 （大高教授） 染織の実技及び理論の指導をする。 （足立教授） 織の技法と造形関係の指導を補助する。 （加賀城准教授） 染の技法と染料関係及び理論の指導を補助する。</p>		
予習・復習	研究計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	研究分野ごとの履修コードは次のとおり（5555は共通）。 陶磁Z2、漆芸Z1、金工Z3、染織Z4		
成績評価	<p>年2回の研究発表（作品・理論的考察）を通して、下記基準に基づいて評価する。</p> <p>[S]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を非常に高いレベルで図ることができた。</p> <p>[A]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を高いレベルで図ることができた。</p> <p>[B]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を図ることができた。</p> <p>[C]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を十分に図ることができなかった。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -09	履修コード	5556Z1～Z4
科目名	工芸研究制作（二）	科目英語名	Research and Practice of Craft（2）
科目区分	工芸研究領域	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸研究領域2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	山本健史・○池田晶一・宮永春香・田中信行・山村慎哉・畠山耕治・原 智・大高 亨・足立真実・加賀城健（客員教授）金子賢治・唐澤昌宏		
授業概要	「工芸研究制作（一）」の成果をふまえて、その研究制作の理念と方式を継承しながら、その技法と表現に関するさらに高次の段階での探求と作品形成を進める。		
到達目標	技法の研究、伝統と現代的表現の調和、素材と表現可能性、造形性と技術的対処等の一層進んだ実技の探求を通して、伝統を踏まえながら現代に通じる造形を追求し、作品制作によってその成果を示す。		
授業計画	<p>漆芸、陶磁、金工、染織の分野に分け、それぞれのクラスで上の方針を具現化する。また、その中で特定の技法については指導の補助者を配し受講者の希望に応じて対応をする。さらに、全体の共通問題については合同の授業も交える。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>①陶磁研究 （山本教授） 陶造形の表現及び理論の指導をする。 （池田教授） 陶磁の技法と表現の面から実技と理論の指導をする。 （宮永准教授） 陶造形表現についての実技と理論の指導を補助する。</p> <p>②漆芸研究 （田中教授） 漆による造形表現及び理論の指導をする。 （山村教授） 漆芸における加飾表現及び理論の指導をする。</p> <p>③金工研究 （原 教授） 鍛金技法及び理論の指導をする。 （畠山教授） 鑄金技法及び理論の指導をする。</p> <p>④染織研究 （大高教授） 染織の表現一般及び理論の指導をする。 （足立教授） 織の技法と造形面での指導と共にインテリア空間での適合性におけるデザイン面で指導を補助する。 （加賀城准教授） 染の技法と染料関係及び理論の指導を補助する。</p>		
予習・復習	研究計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	研究分野ごとの履修コードは次のとおり（5556は共通） 陶磁Z2、漆芸Z1、金工Z3、染織Z4		
成績評価	年2回の研究発表（作品・理論的考察）を通して、下記基準に基づいて評価する。 [S]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を特に高いレベルで図ることができた。 [A]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を図ることができた。 [C]表現及び技術的な探究と理論的考察を通して、研究制作の深化を十分に図ることができなかった。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -10	履修コード	5557Z1
科目名	環境デザイン研究演習（一）	科目英語名	Research and Practice of Environment Design (1)
科目区分	環境造形デザイン研究領域環境デザイン分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境造形デザイン研究領域 環境デザイン分野等1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○角谷 修・鏑 隆弘・畝野裕司・北村賢哉		
授業概要	各自の研究テーマをもとに、環境デザインに関する課題に関して具体的な目標を定め、研究を進める。		
到達目標	環境デザインを広い視点と専門の領域から多角的に研究する。		
授業計画	<p>学生の志望するテーマに沿って、各担当者による個別指導のほか、月一度全担当教員参加による研究討議を行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>(角谷教授) 商空間と展示計画、デザインのシステム等の面で研究指導をする。 (鏑教授) ランドスケープデザインおよび庭園設計とそれらの中で自然物を取り扱う手法の面で研究指導をする。 (畝野教授) 商品デザイン、空間グラフィック、ディスプレイデザインを総合的に研究指導をする。 (北村教授) インテリアデザイン、プロダクトデザイン、家電全般の研究指導を補助する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	研究への主体的取組が重要であるが、同時に、指導教員との綿密な連携を取ること。		
成績評価	<p>合評月1回程度、課題提出2回（学期末・年度末）とを総合して単位を認定する。</p> <p>[S]環境デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルへ進めることができた。</p> <p>[A]環境デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルへ進めることができた。</p> <p>[B]環境デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を進めることができた。</p> <p>[C]環境デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -11	履修コード	5558Z1
科目名	環境デザイン研究演習（二）	科目英語名	Research and Practice of Environment Design (2)
科目区分	環境造形デザイン研究領域環境デザイン分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境造形デザイン研究領域 環境デザイン分野等2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○角谷 修・鏑 隆弘・畝野裕司・北村賢哉		
授業概要	各学生の研究テーマに沿って、環境デザインの実践的な裏付けをもった理論的展開を試みる。		
到達目標	環境デザインを広い視点と専門の領域から多角的に研究する。 「環境デザイン研究演習（一）」の研究内容をさらに進展した段階で検討し、一層具体的な成果を得させるようにする。		
授業計画	<p>学生の志望するテーマに沿って、各担当者による個別的指導のほか、月一度全担当教員参加による研究討議を行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>(角谷教授) 商空間と展示計画、デザインのシステム等の面で研究指導をする。</p> <p>(鏑教授) ランドスケープデザインおよび庭園設計とそれらの中で自然物を取り扱う手法の面で研究指導をする。</p> <p>(畝野教授) 商品デザイン、空間グラフィック、ディスプレイデザインを総合的に研究指導をする。</p> <p>(北村教授) インテリアデザイン、プロダクトデザイン、家電全般の研究指導を補助する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	指導教員との綿密な連携を前提として研究への主体的取組が求められる。		
成績評価	<p>合評月1回程度、課題提出2回（学期末・年度末）とを総合して単位を認定する。</p> <p>[S]環境デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルへ進めることができた。</p> <p>[A]環境デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルへ進めることができた。</p> <p>[B]環境デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を進めることができた。</p> <p>[C]環境デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -12	履修コード	5559Z1
科目名	ヴィジュアルデザイン研究演習（一）	科目英語名	Research and Practice of Visual Design (1)
科目区分	環境造形デザイン研究領域視覚デザイン分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境造形デザイン研究領域視覚デザイン分野等1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○鈴木康雄・寺井剛敏・廣瀬純子・坂野 徹		
授業概要	各自の研究テーマをもとに、ヴィジュアルデザインに関する課題に関して具体的な目標を定め、研究を進める。		
到達目標	諸種のヴィジュアル・コミュニケーションの形成と効用について、学術的ならびに技法的な研究指導を行う。		
授業計画	<p>学生のテーマに沿って計画をたてる。担当教員が進行状況に応じて対応していく。また、必要に応じて担当教員以外の指導も受けることができる。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>（寺井教授） ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の面から指導する。 （鈴木教授） 写真、映像分野、素材表現等に関して指導する。 （廣瀬准教授） ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を補助する。 （坂野准教授） グラフィックユーザーインターフェイスやエディトリアルデザイン、デジタルデザインに関して指導を補助する。</p>		
予習・復習	各自資料を用意しておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC等		
履修上の注意	決められた時間にミーティングを行う。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C] 恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -13	履修コード	5560Z1
科目名	ヴィジュアルデザイン研究演習（二）	科目英語名	Research and Practice of Visual Design (2)
科目区分	環境造形デザイン研究領域視覚デザイン分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境造形デザイン研究領域視覚デザイン分野等2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○鈴木康雄・寺井剛敏・廣瀬純子・坂野 徹		
授業概要	各学生の研究テーマに沿って、ヴィジュアルデザインの実践的な裏付けを保った理論的な展開を試みる。		
到達目標	ヴィジュアルデザインを広い視点と専門の領域から多角的に研究する。ヴィジュアルデザイン演習（一）の研究内容をさらに発展した段階で検討し、一層具体的な成果を得させる様にする。		
授業計画	<p>学生のテーマに沿って計画をたてる。担当教員が進行状況に応じて対応する。また、必要に応じて担当教員以外の指導も受けることができる。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>（寺井教授） ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の面から指導する。 （鈴木教授） 写真、映像分野、素材表現等に関して指導する。 （廣瀬准教授） ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を補助する。 （坂野准教授） グラフィックユーザーインターフェイスやエディトリアルデザイン、デジタルデザインに関して指導を補助する。</p>		
予習・復習	各自資料を用意しておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC等		
履修上の注意	決められた時間にミーティングを行う。		
成績評価	<p>個々の研究の到達度、積極的な研究姿勢、プレゼンテーション能力、ソリューション能力などを総合的に評価する。</p> <p>[S]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらがきわめて高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。</p> <p>[B]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告した上で、新たな分野に挑戦し、知識や技術を修得している。</p> <p>[C]恒常的に作品制作をおこない、定期的に研究内容を報告している。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -14	履修コード	5561Z1
科目名	プロダクトデザイン研究演習（一）	科目英語名	Research and Practice of Product Design (1)
科目区分	環境造形デザイン研究領域製品デザイン分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境造形デザイン研究領域 プロダクトデザイン分野1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	村中 稔・○浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・根来貴成		
授業概要	各自の研究テーマに対し、具体的な研究プロセスと目標を定め、研究を進める。		
到達目標	プロダクトデザインを社会性ある広い視点と専門の領域から多角的に研究する。		
授業計画	<p>学生のテーマに沿って計画をたてる。担当教員が進行状況に応じて主従を替えながら研究指導を行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>(村中教授) 情報機器のデザインとインターフェイスについて指導する。 (浅野教授) モビリティデザイン領域に関わる研究指導をする。 (河崎教授) 家電品などのデザイン研究や、3DCGモデリング技術を駆使したデザイン研究の指導をする。 (安島教授) テクノロジー・生活空間・映像制作に係るデザイン全般において、プロトタイピングを用いた研究指導をする。 (根来教授) 椅子を中心とした家具やインテリア製品全般のデザインとその形態や機能、素材や構造、加工法について、歴史的研究と制作的な研究面から指導を補助する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意			
成績評価	<p>レポートとプレゼンテーションパネル、モデル提出（年2回） 研究テーマに対するコンセプト及び機能性や造形などを総合的に評価する。 [S] プロダクトデザインに関する視野を広げ、自身の研究を極めて高いレベルで進めることができた。 [A] プロダクトデザインに関する視野を広げ、自身の研究を高いレベルで進めることができた。 [B] プロダクトデザインに関する視野を広げ、自身の研究を進めることができた。 [C] プロダクトデザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -15	履修コード	5562Z1
科目名	プロダクトデザイン研究演習（二）	科目英語名	Research and Practice of Product Design (2)
科目区分	環境造形デザイン研究領域製品デザイン分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境造形デザイン研究領域 プロダクトデザイン分野2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	村中 稔・○浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・根来貴成		
授業概要	各自に研究テーマに対し、研究プロセスに沿った検証をもとに理論的展開を試みる。		
到達目標	プロダクトデザインを社会性ある広い視点と専門の領域から多角的に研究する。 プロダクトデザイン研究演習（一）の研究内容をさらに発展させ、具体的研究成果とする。		
授業計画	<p>学生のテーマに沿って計画をたてる。担当教員が進行状況に応じて主従を替えながら研究指導を行う。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>(村中教授) 情報機器デザインの開発の方法、地域に根差した製品デザイン生産の研究指導をする。</p> <p>(浅野教授) モビリティデザイン領域に関わる研究指導をする。</p> <p>(河崎教授) 家電品などのデザイン研究や、3DCGモデリング技術を駆使したデザイン研究の指導をする。</p> <p>(安島教授) テクノロジー・生活空間・映像制作に係るデザイン全般において、プロトタイピングを用いた研究指導をする。</p> <p>(根来教授) 椅子を中心とした家具やインテリア製品全般のデザインとその形態や機能、素材や構造、加工法について、歴史的研究と制作的な研究面から指導を補助する。</p>		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また授業の性質上時間外の学習が多く必要となる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書			
教材			
履修上の注意			
成績評価	<p>レポートとプレゼンテーションパネル、モデル提出（年2回） 研究テーマに対するコンセプト及び機能性や造形などを総合的に評価する。</p> <p>[S] プロダクトデザインに関する視野を広げ、自身の研究を極めて高いレベルで進めることができた。</p> <p>[A] プロダクトデザインに関する視野を広げ、自身の研究を高いレベルで進めることができた。</p> <p>[B] プロダクトデザインに関する視野を広げ、自身の研究を進めることができた。</p> <p>[C] プロダクトデザインに関する視野を広げることができた。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -16	履修コード	5563Z1
科目名	美学研究演習（一）	科目英語名	Seminar of Aesthetic Research（1）
科目区分	芸術学研究領域美学分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	芸術学研究領域 美学分野等1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	保井亜弓		
授業概要	受講生の研究内容によって具体的な演習テーマを決め、美学史ならびに哲学史と関連づけて検討する。		
到達目標	研究テーマを美学史・哲学史の中に明確に位置づけることによって、研究を深める。		
授業計画	<p>1. 受講生の研究内容によって具体的な演習テーマを決める。</p> <p>2. テーマに沿った原典資料ならびに研究書のリストを作成する。</p> <p>3. 原典ならびに研究書の講読とディスカッションを行う。原則的に週1回の指導日を設け、各指導日には原典や研究書を訳出したものを準備し、それに基づいてディスカッションを行なう。</p> <p>4. 研究成果の提出を随時求め、指導する。博士論文につながるように、研究成果を論文形式でまとめ、適宜校閲・添削する。</p> <p>5. 研究方向を先鋭化するとともに、関係領域への幅広い視野を確保する。</p> <p>全期間にわたって、各自の研究テーマに関する問題意識を常に明確にし、資料の調査・収集・検討を念頭に置きながら指導を行なう。</p>		
予習・復習	自主的に行なうこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	<p>授業への参加度（50%）、小論文提出 年2回（50%）</p> <p>[S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。</p> <p>[A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。</p> <p>[B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。</p> <p>[C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -17	履修コード	5564Z1
科目名	美学研究演習（二）	科目英語名	Seminar of Aesthetic Research（2）
科目区分	芸術学研究領域美学分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	芸術学研究領域 美学分野等2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	保井亜弓		
授業概要	受講生の研究内容によって具体的な演習テーマを決め、美学史ならびに哲学史と関連づけて検討する。		
到達目標	研究テーマを美学史・哲学史の中に明確に位置づけることによって、研究を深めるとともに博士論文へと発展させる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究演習（一）で定めたテーマを確認し、必要に応じて研究方向を調整する。 2. テーマに沿った原典資料ならびに研究書のリストを補強する。 3. 原典ならびに研究書の講読とディスカッションを行う。原則的に週1回の指導日を設け、各指導日には原典や研究書を訳出したものを準備し、それに基づいてディスカッションを行う。 4. 研究成果の提出を随時求め、指導する。博士論文につながるように、研究成果を論文形式でまとめ、適宜校閲・添削する。 5. 研究方向を先鋭化するとともに、関係領域への幅広い視野を確保する。 <p>全期間にわたって、各自の研究テーマに関する問題意識を常に明確にし、資料の調査・収集・検討を念頭に置きながら指導を行う。</p>		
予習・復習	必ず行なうこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価	授業への参加度（50%）、小論文提出 年2回（50%） [S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -18	履修コード	5565Z1～Z3
科目名	美術史研究演習（一）	科目英語名	Seminar of Historical Research of Art (1)
科目区分	芸術学研究領域美術史分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学研究領域 美術史分野等1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○保井亜弓・菊池裕子・水野さや		
授業概要	美術史の方法論を、具体的資料・作品などに即して研究する。		
到達目標	美術史の基礎的研究方法と最新の動向を学び、独自の研究テーマをみつけ出す。		
授業計画	<p>日本・東洋または西洋の美術分野から、下記の①～③のクラスの内いずれかを選ばせた演習とする。ただし美術史共通の方法論について、適宜に共通で演習し専門分野の交流を図る。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>①工芸史・視覚文化史（菊池教授） グローバルな視点から工芸を批評的に研究する方法論や現代の視覚文化研究における工芸史研究・工芸論の最先端の課題への見識を深める。</p> <p>②日本・東洋美術史（水野教授） 日本・東洋の美術作品について、多角的な側面から思想および歴史的背景をふまえて分析し、検討する。日本と各地域との影響関係も視野に入れ、凡アジア的視座に立った理解を目指す。</p> <p>③西洋美術史（保井教授） 西洋美術史の領域を中心に、芸術の個別的・具体性と、古典性とを検討する。個別的側面は歴史的であり、現場と歴史から作品に迫る努力が求められ、他方、古典性の検討は歴史を超えて今日の観点から行われることになる。</p>		
予習・復習	ともに毎回必要。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材			
履修上の注意	分野ごとの履修コードは以下の通り（5565は共通） 工芸史：Z1、日本・東洋美術史：Z2、西洋美術史：Z3		
成績評価	<p>年2回の口頭発表、および定期的な研究報告</p> <p>[S] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、特にすぐれた成果をあげている。</p> <p>[A] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。</p> <p>[B] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。</p> <p>[C] テーマについての専門的な調査・研究がなされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -19	履修コード	5566Z1～Z3
科目名	美術史研究演習（二）	科目英語名	Seminar of Historical Research of Art（2）
科目区分	芸術学研究領域美術史分野等	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学研究領域 美術史分野等2年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	4	定員	
担当教員	○保井亜弓・菊池裕子・水野さや		
授業概要	「美術史研究演習（一）」を継承し、内容をさらに深化させた調査・研究を行う。また、これと共に各分野で、受講者の研究指導（博士論文のテーマ選定等）も進める。		
到達目標	博士論文制作のための十分な学力をつける。		
授業計画	<p>日本・東洋または西洋の美術分野から、下記の①～③のクラスの内いずれかを選ばせた演習とする。但し美術史共通の方法論について、適宜に共通で演習し専門分野の交流を図る。</p> <p>【担当教員とその分担内容】</p> <p>①工芸史（菊池教授） グローバルな視点から工芸を批評的に研究する方法論や工芸史研究・工芸論の最先端の課題への見識を深める。</p> <p>②日本・東洋美術史（水野教授） 日本・東洋の美術作品について、多角的な側面から思想および歴史的背景をふまえて分析し、検討する。日本と各地域との影響関係も視野に入れ、凡アジア的視座に立った理解を目指す。</p> <p>③西洋美術史（保井教授） 西洋美術史の領域を中心に、芸術の個別的・具体性と、古典性とを検討する。個別的側面は歴史的であり、現場と歴史から作品に迫る努力が求められ、他方、古典性の検討は歴史を超えて今日の観点から行われることになる。</p>		
予習・復習	ともに毎回必要。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材			
履修上の注意	分野ごとの履修コードは以下の通り（5566は共通） 工芸史：Z1、日本・東洋美術史：Z2、西洋美術史：Z3		
成績評価	<p>年2回の口頭発表、および定期的な研究報告</p> <p>[S] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、特にすぐれた成果をあげている。</p> <p>[A] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築され、すぐれた成果をあげている。</p> <p>[B] テーマについての専門的な調査・研究にもとづき、自身の見解が論理的に構築されている。</p> <p>[C] テーマについての専門的な調査・研究がなされている。</p>		

令和3年度シラバス（大学院）

番号	(D1) -20	履修コード	5580Z1～5582Z1
科目名	研究領域研究指導	科目英語名	Guidance of Independent Study
科目区分	博士後期課程全研究領域	授業形態	
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	博士後期課程全研究領域 1～3年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位		定員	
担当教員	松崎十朗・佐藤俊介・荒木恵信・よしだぎょうこ・石崎誠和・三浦賢治・大森 啓・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純・武田雄介・石田陽介・土井宏二・浜田 周・芝山昌也・津田道子・山本健史・池田 晶一・宮永春香・○田中信行・山村慎哉・畠山耕治・原 智・大高 亨・足立真美・加賀城健・角谷 修・鏑 隆弘・畝野裕司・北村賢哉・寺井剛敏・鈴木康雄・廣瀬純子・坂野 徹・村中 稔・浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・根来貴成・神谷佳男・保井亜弓・菊池裕子・水野さや・青柳りさ・高橋明彦・桑村佐和子・大谷正幸・渋谷 拓（客員教授）佐藤一郎・横山勝彦・橋本真之		
授業概要	修了の要件の単位を取得し課程を修了する者に、単位化はされていないが、修了のための論文ならびに作品の制作を課し、この研究領域研究指導により制作させる。これは博士号申請論文ならびにその副資料としての作品と審査の対象になるものである。但し、環境造形デザインと芸術学の研究領域にあっては、論文制作のみとすることができる。		
到達目標	博士論文と研究作品を作成する。		
授業計画	<p>各研究領域では、その更に会の専門分野に応じて指導教員の承認を受けた研究テーマの下に、この博士論文と研究作品を作成する。なお研究領域を横断した研究テーマにあっては、関係研究領域の下記の担当者のうち関連のある教員が合同で指導に当たることとする。</p> <p>【担当教員とその分担内容】 以下の教員が学生の研究テーマに応じて、分担または共同で担当する。</p> <p>美術、工芸、環境造形デザインの研究領域における理論指導は、次の教員のうちから、受講生の希望も加味して、その研究テーマに合致する者が担当する。 （神谷教授・保井教授・菊池教授・青柳教授・高橋明彦教授・桑村教授・大谷教授・水野教授） 論文作成の指導または指導を補助する。</p> <p>■美術の研究領域 以下の教員が学生の研究テーマに応じて、具体的な指導を分担または共同で担当する。</p> <p>①日本画の分野 （松崎教授）学生の研究テーマに応じて作品制作の指導をすると共に、研究全体を掌握監修する。 （佐藤教授）学生の研究テーマに応じてデジタルメディア関連の指導をする。 （荒木准教授）学生の研究テーマに応じて模写・保存修復関連の指導をする。 （よしだ准教授）学生の研究テーマに応じて先端的表現の指導を補助する。 （石崎准教授）学生の研究テーマに応じて作品制作の実技的指導を補助する。</p> <p>②油画の分野 （神谷教授）版画表現による作品制作を指導する。 （三浦教授）絵画作品制作の実技的指導をする。 （大森教授）絵画作品制作の指導をする。 （高橋治希教授）絵画および立体・空間表現作品制作の実技的指導をする。 （鈴木浩之教授）絵画および映像表現作品制作の実技的指導をする。 （岩崎准教授）作品制作の実技的指導を補助する。 （武田講師）表現の現代的手法ならびにコンセプトについての指導を補助する。</p> <p>③彫刻の分野 （石田教授）作品制作について具象的表現を中心に木彫および塑造技法の面から指導する。 （土井教授）作品制作について塑造および特殊技法の面から指導する。 （浜田准教授）作品制作について多様な表現を金属加工技法の面から実技的な指導を補助する。 （芝山准教授）彫刻制作について今日的表現を中心に石彫および複合的技法の面から指導する。 （津田准教授）作品制作について作品の構想とメディウムの関係から指導を補助する。</p> <p>■工芸の研究領域 以下の教員が学生の研究テーマに応じて、分担または共同で担当をする。</p> <p>①陶磁分野 （山本教授）陶造形表現についての実技と理論の指導をする。 （池田教授）陶磁の技法と表現の面から実技と理論の指導をする。 （宮永准教授）陶造形表現と理論についての指導を補助する。</p> <p>②漆芸分野 （田中教授）漆の造形表現と理論について指導する。 （山村教授）形態と装飾の新しい造形面を主とする作品制作の技法と理論の指導をする。</p> <p>③金工分野 （畠山教授）鑄金関係の作品制作と理論の指導をする。</p>		

- (原 教授) 鍛金の作品制作と理論に関して指導する。
 ④染織分野
 (大高教授) 染織の表現について作品制作と理論の指導をする。
 (足立教授) 織の技法と表現及び理論について指導を補助する。
 (加賀城准教授) 染の技法と表現及び理論について指導を補助する。

■環境造形デザインの研究領域

以下の教員が学生の研究テーマに応じて、分担または共同で担当する。

①環境デザイン分野

- (角谷教授) インテリアと内部空間デザインの面から指導する。
 (鏝教授) ランドスケープデザインの面で指導する。
 (畝野教授) 商空間の観点から空間グラフィックについて指導する。
 (北村教授) インテリア関連の視点から設備、什器を含めて指導を補助する。

②ヴィジュアルデザイン分野

- (寺井教授) ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の面から指導する。
 (鈴木康雄教授) デジタルメディア、写真、映像分野、素材表現等に関して指導する。
 (廣瀬純子准教授) ファッション領域に関するエディトリアルやジャーナリズム、コミュニケーション、プロモーションの指導を補助する。
 (坂野准教授) グラフィックユーザーインターフェイスやエディトリアルデザイン、デジタルデザインに関して指導を補助する。

③プロダクトデザイン分野

- (村中教授) 機器のデザインとインターフェイスについて指導する。
 (浅野教授) 動力運動とトランスポーターデザイン領域に関わる研究を指導をする。
 (河崎教授) 家電品などのデザイン研究や、3DCGモデリング技術を駆使したデザイン研究を指導する。
 (安島教授) テクノロジー・ビジネス・デザインとの関係、デザインシンキングに立脚し指導をする。
 (根来教授) 椅子を中心とした家具やインテリア製品全般のデザインとその形態や機能、材料や構造、加工法について、歴史研究と制作的研究面から指導を補助する。

■芸術学の研究領域

以下の教員が学生の研究テーマに応じて、具体的な指導を分担または共同で担当する。

①工芸史・工芸論・視覚文化分野

- (菊池教授) 工芸・視覚文化関係の論文作成の指導をする。

②日本・東洋美術史分野

- (水野教授) 日本・東洋美術に関する論文作成の指導をする。

③西洋美術史分野

- (保井教授) 西洋の美術に関する論文作成の指導をする。

予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また授業の性質上時間外の学習が多く必要となる。
教科書	
参考書	
教材	
履修上の注意	各学年の履修コードは次のとおり 1年次5580Z1、2年次5581Z1、3年次5582Z1
成績評価	[M]立案された研究指導計画に基づき指導を受け、研究を深化させた。